

ISSN 1344-476X

公益財団法人
東洋文庫年報

2015 年度

公益財団法人 東洋文庫

目次

I	2015年度の東洋文庫	1
II	図書事業	5
1.	資料の収集	5
2.	資料の整理	7
3.	資料の利用と複写サービス	8
4.	書庫資料の見学と研修	11
5.	資料の保存整理	13
6.	書誌情報の公開	13
7.	書庫内資料と書架スペース	16
8.	電子図書館情報システム	16
III	研究事業	22
1.	調査研究	23
A.	超域アジア研究	23
B.	アジア諸地域に関する歴史・文化研究	30
C.	資料研究	50
D.	地域研究プログラム	51
E.	日本学術振興会科学研究費による調査研究	54
F.	東洋文庫研究員・研究課題一覧	62
2.	研究資料出版	70
3.	研究情報普及	71
A.	講演会	71
B.	データベース公開	81
C.	研究者の交流および便宜供与のサービス	81
D.	国際交流	84
4.	研究員等の研究業績	84

IV	普及・展示事業	135
1.	展示	135
2.	広報普及	138
V	業務報告	143
1.	総務報告	143
2.	人事報告	145
3.	会計報告	146
VI	役職員名簿	162
1.	役員	162
2.	評議員	163
3.	東洋学連絡委員会委員	163
4.	名誉研究員	164
5.	職員・研究員	165
6.	客員研究員	169

I 2015年度の東洋文庫

2015年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、及び内容の要旨は次の通りである。

まず本年度内に生じた役員・職員の異動について述べる。6月の評議員会にて、任期満了となった理事7名、監事1名の改選が行われ、理事には、田仲一成、鶴見尚弘、濱下武志、平野健一郎、福澤武、槇原稔、三木繁光の各氏が再任され、監事には原實氏が再任された。引き続き理事会にて、代表理事（理事長）には横原理事が、又、業務執行理事（常務理事）に、田仲理事、濱下理事、平野理事がそれぞれ再任された。

職員では、6月に、嘱託職員であった篠木由喜氏を普及展示部の職員（研究員）として採用した。9月に、研究部の瀧下彩子主幹、原山隆広研究員が図書部に異動し、図書部の會谷佳光課長、山村義照研究員が研究部に異動した。

経費削減の為、①国宝・重要文化財への付保率を40%に縮小、②施設管理の外注を廃止、③書庫の空調の運用改善による電気料金の削減を実施した。これにより年間約5百万円の経費削減を実現した。

勉誠出版による、当文庫保有の国宝・重文を中心とする「東洋文庫善本叢書」全12巻の出版が完了した（セット価格税抜き572,000円）。又、2012年の展示「東インド会社とアジアの海賊」展の講演会記録をまとめた同題の本が勉誠出版より出版された。

ハーバード・エンチン図書館・研究所とは、協力協定の一環として、当文庫は東大・京大と並んで、毎年研究員の派遣応募の資格を得ているが、本年度は、小林亮介氏（35才、現在コロンビア大学 Visiting Scholar）が合格した。当文庫より本制度でのハーバード留学は牧野元紀主幹研究員に次いで2人目である。尚、會谷課長が約2ヶ月間ハーバード・エンチン図書館に長期出張した。一方、新規の国際協力としては、ベトナム社会科学院漢喃研究所と協力協定を締結した。

2017年はモリソン文庫渡来100周年であるので、モリソン文庫調査委員会を発足させ、モリソン文庫の調査、並びに、それを踏まえた展示を検討する事とした。

当文庫のデータベースへのアクセス数（訪問数）が月間約50万件となっている。本年度の当文庫の図書増加は、購入2,892冊、受贈2,763冊、合計5,655冊であった。国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」を当文庫の閲覧室に導入した他、書籍データ検索にフリーワード検索を導入した。

東洋学講座は、前期に「漢語資料を通じて見た内陸アジアの諸民族」との共通テーマで、土肥義和研究員（國學院大学名誉教授）「大宋沙門道圓三蔵の西域求法の旅」、妹尾達彦研究員（中央大学教授）「シルクロードと長安のソグド人」、片山章雄研究員（東海大学教授）「フィンランド・マンネルヘイム収集の新疆資料と日独露仏の探検隊」を開催した。

後期には、「医学・医療史からみる東洋と西洋」との共通テーマのもと、白杉悦雄氏（東北芸術工科大学教授）「東洋医学・漢方 ―「肩こり」と「冷え」について―」、鈴木晃仁氏（慶應義塾大学教授）「〈医学の書物〉と〈書物の医学〉―初期近代ヨーロッパの新しい医学と現在における発展―」、塚原東吾研究員（神戸大学大学院教授）「東洋と西洋の接触―蘭学における医学の意味を〈藤井文庫のコレクションから〉再考する―」を開催した。

研究資料の出版では、本年度は定期出版物9冊の刊行に加え、論叢類5冊を発刊した。又、各種研究会を計68回開催し、合計参加人数は1,128人であった。受入れ外来研究者9名、外国人研究者への便宜供与は、アメリカ、ロシア、中国等11カ国より33名であった。日本学術振興会特別研究員PD・RPDとして5名を受け入れた。

アジア資料学研究シリーズの「コディコロジー研究特別報告会『東洋文庫所蔵本 紙質調査報告』」を開催した他、「第4回総合アジア圏域研究国際シンポジウム」Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations を2日間に渡って開催した。又、来日研究者による特別講演会5回、若手研究員による談話会

3回を開催した。

人間文化機構による「イスラーム地域研究」は、発足より10年を経過し、本年度末をもって終了する事となり、徳原靖浩氏の出向も本年度末で終了した。又、当文庫に駐在している仏極東学院のダヴァン・ディディエ氏は本年度末で退任した。後任は未定。

当文庫の一般向けの活動を更に強化すべく、一昨年度より一般向けの有料講座「東洋文庫アカデミア」を開催しているが、本年度は計31講座を開講し、延べ受講者258名であり、更なる規模の拡大に努めたい。

ミュージアムでは、

- (1) 「もっと知りたい！イスラーム展」(2015年1月10日～4月12日)
- (2) 「大地図展～フェルメールも描いたブラウの世界地図～」(2015年4月22日～8月9日)
- (3) 「幕末展」(2015年8月19日～12月27日)
- (4) 「解体新書展—ニッポンの「医」の歩み1500年—」(2016年1月9日～4月10日)

を開催し、年間計31,809人の入場を得た。それぞれの図録を「時空を超える本の旅」シリーズで発刊した。又、これらの展示に関連した講演会を合計14回開催した他、ワークショップ14回、ジュニア・プログラム5回を開催した。

岩手県の小岩井農場にある「資料館」にて「時空を超える本の旅—東洋文庫の世界」展を2014年11月より開催し、入場者数は期待した程ではなかったが、2015年5月末まで継続した。

ミュージアムには、ベルギー大使、メキシコ大使、キューバ大使、ブラジル大使、エチオピア大使、パキスタン大使、ウズベキスタン大使、等々多数のVIPの訪問があった。又、オリエント・カフェの採算が、メニューの見直し等により大幅に改善した。

本年も、月刊のメールニュースの発刊、東洋見聞録の刊行を行った他、シーボルト・ガルテンの新たな造形展示物(本年度の東洋文庫賞)は、東京藝術大学大学院渡辺志桜里氏の卒業作品「任意の点」であった。

4月と11月には、六義園のライトアップにあわせた展示「六義園をめぐる歴史」を追加展示した。又、雛人形の特別展示も実施した。三菱商事と三菱重工は、昨年に引き続き、それぞれの株主優待として、東洋文庫ミュージアム無料招待券を配布し（後日精算）、これにより数千人の入場者を見た。

本年度より、ミュージアムへのインターンの受け入れを開始した。年3回の展示サイクルに合わせて、毎回2～3名を受け入れた。

2016年度に展示を予定している「ロマノフ王朝展」に対し、関西・大阪21世紀協会（大阪万博財団）より2.6百万円の助成金が交付される事となった。又、普及展示部の岡崎礼奈研究員が江戸美術に関わる国際シンポジウムを企画し、ポーラ財団より2百万円の助成金が交付される事となった。

規程関係では、「組織運営規程」を一部改定、「特定資産、事業運営積立資産、取扱要領」、「特定個人情報等取扱基準」を定めた。他に、「出張旅費規程」を改定、「公的研究費等取扱規程の付属規約」を改定、「学会加入支援制度」「代休制実施要領」「国会図書館、図書館等向けデジタル化資料送信サービス運用規則」を定めた。

文部科学省の特定奨励費補助金は、本年度より3年間は年間110百万円となった。又、三菱各社からの寄付金は、本年度より3年間は年間155百万円となった。資金運用面では、10億円の債権が満期を迎え、同種の債権に切り替えたが、利率が従来の4.38%から0.7%に大幅に低下した。現下の低金利の状況下では致し方ない。又、2名の個人の方から、それぞれ百万円のご寄付を頂いた。

以上

II 図書事業

1. 資料の収集

A. 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は 20,605,191 円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書 (うち非図書)	洋書 (うち非図書)	計
超域・総合アジア圏域研究	0	1	1
超域・現代中国研究	164	13	177
超域・現代イスラーム研究	0	545	545
東アジア研究	487	5	492
内陸アジア研究	13	64	77
インド・東南アジア研究	0	41	41
西アジア研究	0	230	230
共通(継続・大型資料)	1,117	212	1,329
計	1,781	1,111	2,892

※単位：冊(非図書資料はマイクロフィルム 1 リール、CD1 枚を 1 冊に換算)

主な購入図書としては以下のものがある。

アラビア語新聞 <i>al-Hilal</i> . 1936/01-1950/12	46 冊
明清法制史料輯刊 2 編・3 編	160 冊
徐世昌日記	24 冊
存真環中圖	1 冊
安徽師範大学館藏千年徽州契約文書集萃	10 冊
<i>La vie indo-chinoise, journal hebdomadaire illustré.</i>	1 冊
和古書 ぶんしょうのさうし、さされ石、小町草紙、さかき	4 点

また、本年度人間文化研究機構地域研究プログラムによる資料購入費の支出総額は 1,918,450 円で、冊数は和漢書 75 冊、洋書 180 冊である。

B. 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈*			寄 贈		
	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	国内(冊)	国外(冊)	計(冊)
単 行 本	1,000	169	1,169	261	411	672
定期刊行物	1,296	281	1,577	1,735	984	2,719
非図書資料	17	0	17	0	0	0
計	2,313	450	2,763	1,996	1,395	3,391

* 科学研究費による購入はここに含む

主な受贈資料としては、以下のものがある。

伊東紘一氏寄贈 チベット関係資料

111 冊 (和漢書 78 冊, 洋書 11 冊, チベット語文献 22 冊)

彌永信美氏寄贈資料

183 冊 (和漢書 178 冊, 洋書 5 冊)

C. 蔵書数

収蔵する蔵書総数は 1,023,334 冊で、和漢書 581,497 冊、洋書 412,037 冊、複写資料 29,800 冊である。

2. 資料の整理

A. 図書

整理冊数は次のとおりである。

- 和漢図書 1,115 冊（現代中国研究資料室の 75 冊を含む）
 欧米語図書 304 冊（イスラーム地域研究資料室の 56 冊を含む）
 アジア諸言語図書 1,044 冊（イスラーム地域研究資料室の 368 冊を含む）

整理した主な図書

- | | |
|--|------|
| (1) 新編中華人民共和国地方志 | 1 冊 |
| (2) 民国辺政史料続編 | 30 冊 |
| (3) アラビア語新聞 <i>al-Hilal</i> . 1921/08-1935/12 | 54 冊 |
| (4) 明代孤本方志選 | 12 冊 |
| (5) 韓国儒学思想大系 | 12 冊 |
| (6) 世界民間蔵中国敦煌文献 第 1, 2 冊 | 2 冊 |
| (7) 西域文物考古全集 第 1-20 巻 | 20 冊 |
| (8) 英国国家図書館蔵敦煌遺書（漢文部分）第 11-30 冊 | 20 冊 |
| (9) <i>Encyclopedia of Hinduism</i> . vol. 4-11. | 8 冊 |

B. 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文 12 タイトル、欧文 18 タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	244	62	1,296	281
購入	165	55	868	242
小計	409	117	2,164	523
計	526		2,687	

C. 新聞

本年度は和・中・韓文で 24 種を受入れた。

3. 資料の利用と複写サービス

A. 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は71名で、内訳は教職員35名（外国人9名）、研究機関関係者7名（外国人3名）、大学院生16名（外国人5名）、大学生11名、その他2名であった。

閲覧開館日は243日、利用者数は2,376名（うち新規利用者580名）、利用資料数は31,619冊で、詳細は後掲の表のとおりであった。毎週火曜を閉室日としたため、開館日数は前年度より36日減少したが、利用者数は前年比で141名増加した。2015年8月5日より、閲覧室での国立国会図書館「図書館向デジタル化資料送信サービス」の利用を開始した。

なお東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ1,063名、2,808冊であった。

(1) 開館日数および閲覧者数

	開館日数(日)	閲覧者数(人)	日平均(人)	昨年同月比 (△印は減)
2015年4月	21	191	10	3
5	20	202	11	11
6	21	204	10	12
7	22	185	9	△30
8	22	253	12	18
9	19	177	10	△15
10	22	189	9	△16
11	20	216	11	33
12	17	176	11	11
2016年1月	18	145	9	29
2	20	205	11	13
3	21	233	12	72
計	243	2,376	10	141

(2) 閲覧カウンター出納冊数

	和書		漢書		洋書		合計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
2015年 4月	147	514	236	1,626	62	173	445	2,313	111	△ 2,417
5	147	665	274	1,587	120	263	541	2,515	126	△ 97
6	116	236	272	1,384	130	279	518	1,899	91	△ 760
7	129	333	270	1,736	94	206	493	2,275	104	△ 240
8	178	405	470	2,709	146	293	794	3,407	155	1,540
9	83	374	330	1,839	90	327	503	2,540	134	△ 625
10	101	284	340	1,683	133	373	574	2,340	107	410
11	114	368	325	2,356	87	362	526	3,086	155	1,325
12	113	400	232	1,472	109	295	454	2,167	128	501
2016年 1月	132	570	208	1,252	103	328	443	2,150	120	553
2	213	992	261	2,126	132	547	606	3,665	184	932
3	328	534	308	2,243	218	485	854	3,262	156	1,383
計	1,801	5,675	3,526	22,013	1,424	3,931	6,751	31,619	131	2,505
比率	17.95%		69.62%		12.43%		100.00%			

(3) 貴重書閲覧予約申請受理件数

申請受理件数は、243件であった。

B. 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

(1) マイクロ・フィルム

申込件数	紙焼用撮影齎数	紙焼提供枚数	フィルム提供齎数
152	4,694	5,165	405

(2) 電子複写

申込件数	提供枚数
1,016	33,903

C. レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて1,575件であった。

D. 資料の貸出

博物館・美術館などが主催しておこなう展覧会への資料の貸出は5件で、詳細は次のとおりである。

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	尾形光琳300忌 記念特別展「燕子 花と紅白梅－光琳 デザインの秘密－」	公益財団法人根 津美術館	2015.4.18～5.17	公益財団法人根 津美術館	『謡曲：白楽天、 春榮』全2点2 冊
2	2015年度韓國国立 濟州博物館特別展 覧会「朝鮮の名 儒・崔溥の中国見 聞」	韓國国立濟州博 物館	2015.7.21～10.4	韓國国立濟州博 物館	『漂海録』全1 点3冊
3	徳川美術館・蓬左 文庫開館80周年 記念特別展 日韓 国交正常化50周 年記念「豊かなる 朝鮮王朝の文化－ 交流の遺産－」	名古屋市蓬左文 庫、公益財団法人 徳川黎明会徳 川美術館、駐名 古屋大韓民国総 領事館、中日新 聞社	2015.9.19～11.8	名古屋市蓬左文 庫	『尾張年中行事 略絵抄』ほか 全2点2冊
4	春画展	公益財団法人永 青文庫、春画展 日本開催実行委 員会	2015.9.19～12.23	公益財団法人永 青文庫	菱川師宣『和合 同塵』ほか 全 6点7冊
5	大分県立歴史博物 館 平成27年度 特別展「キリスト 教王国を夢見た大 友宗麟」	大分県立歴史博 物館、大分合同 新聞社	2015.10.16～ 11.23	大分県立歴史博 物館	『切支丹宗門之 者へ踏七板并阿 蘭陀詞』全1 点1冊

4. 書庫資料の見学と研修

主な見学は次のとおりである（43件 295名）。なお、このほかに17件 91名の見学があった。

	実施日	申請者	参加者（団体名）	人数	主な内容
	2015年				
1	4月22日	窪添慶文	韓国ソウル大学校教授金秉駿氏一行	2	書庫及び所蔵資料見学
2	5月8日	吉水千鶴子	Stockton University 教授 Jongbok Yi 氏	1	〃
3	5月8日	相原佳之	國學院大學文学部准教授樋口秀実氏、同学生	8	〃
4	5月17日	池田知久	北京大学教授李零氏一行	3	〃
5	5月28日	相原佳之	東京外国語大学講師倉田明子氏一行	5	〃
6	5月28日	徳原靖浩	ベルギー・リエージュ大学教授 Frederic Bauden 氏	1	〃
7	6月4日	Julija Glosaitė	リトアニア・ビルニュス市中央図書館 Julija Glosaitė 氏	1	〃
8	6月8日	濱下武志	中山大学教授謝湜氏一行	2	〃
9	6月22日	Mark C. Elliott	ハーバード大学東アジア研究者一行	12	〃
10	6月29日	相原佳之	明治大学文学部講師関智英氏、同学生	3	〃
11	6月29日	顧文君	中国大学図書館担当者訪日団・日本科学協会一行	42	〃
12	7月6日	牧野元紀	King's College London Dr. Serena Ferente 氏	2	〃
13	7月6日	窪田新一	大正大学学生	9	〃
14	7月9日	安江明夫	デューク大学図書館クリス・トルースト氏	2	〃
15	7月22日	西英昭	九州大学大学院生	1	〃
16	7月23日	鳥居明久	学校図書館研究会一行	27	〃

	実施日	申請者	参加者（団体名）	人数	主な内容
17	7月23日	原山隆広	Center for International Research and Education (CIRE), Morteza Damanpak Jami 氏一行	5	書庫及び所蔵資料見学
18	7月31日	相原佳之	学習院大学文学部教授武内房司氏、同学生	16	〃
19	8月26日	森高初恵	昭和女子大学図書館一行	10	〃
20	9月2日	相原佳之	信州大学人文学部学生	6	〃
21	9月3日	牧野元紀	ベトナムハンノム研究院一行	4	〃
22	9月8日	會谷佳光	平成27年度漢籍整理長期研修受講生	10	〃
23	9月10日	山村義照	東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター一行	10	〃
24	9月10日	近藤信彰	University of Illinois, Prof. Kenneth Cuno, Institute of Oriental Studies, Prof. Vladimir Bobrovnikov	4	〃
25	9月14日	鶴見尚弘	満鉄会理事天野博之氏	1	〃
26	9月18日	関さやか	国立国会図書館収集書誌部資料保存課一行	6	〃
27	10月5日	田中 乗	東京製本倶楽部研究会会員一行	8	〃
28	10月19日	相原佳之	中国法政大学元教授蕭翰氏一行	2	〃
29	10月20日	櫻井理恵	国立国会図書館外部機関研修	2	〃
30	11月2日	高村武幸	明治大学文学部学生	12	〃
31	11月13日	粕谷 元	日本大学文理学部学生	12	〃
32	11月26日	塩谷哲史	カザフスタン教育関係者一行	25	〃
33	11月27日	長崎理絵	中国国家図書館一行	7	〃
34	12月2日	吉村武典	テヘラン大学教授 Farhad Atai 氏	2	〃
35	12月4日	原山隆広	2015年度総合アジア圏域シンポジウム一行	7	〃
36	12月7日	中見立夫	Buryat State University 一行	4	〃
37	12月14日	氣賀澤保規	故宮博物院一行	6	〃

	実施日	申請者	参加者(団体名)	人数	主な内容
	2016年				
38	1月25日	中見立夫	モンゴル国立科学アカデミー一行	3	書庫及び所蔵資料見学
39	1月25日	石塚晴通	国立国語研究所准教授高田智和氏	1	〃
40	2月15日	牧野元紀	ベトナム社会科学図書館 Le Thi Lan 氏	2	〃
41	2月19日	斯波義信	台湾中央研究院黄寛重氏	2	〃
42	3月9日	中村元哉	復旦大学歴史系曹南屏氏	1	〃
43	3月28日	柳澤 明	中国第一歴史檔案館一行	6	〃

5. 資料の保存整理

所蔵資料の保存にあたっては、保存環境の整備、虫菌害の対策に努めるとともに、破損資料の修理・修復を行った。本年度はモリソン文庫・山本文庫を中心とする洋書古典籍並びに岩崎文庫を中心とする和漢古典籍の作業を行った。作業の内容は下記のとおりである。

逐次刊行物合冊製本(外注)	281点
修理・修復(破損による再製本を含む)	
洋書	247点
和漢書	111点
簡易補修	352点
保存容器作製	109点
マイクロフィルム劣化防止作業	28本

6. 書誌情報の公開

2015年度末現在、当文庫ホームページで提供している目録データベースは下記の44種である。各データベース名の後の()は収録件数である。

01 中国語逐次刊行物	(5,169件)
02 日本語逐次刊行物	(2,864件)

03	欧文逐次刊行物	(3,533 件)
04	朝鮮・韓国語逐次刊行物	(846 件)
05	漢籍資料オンライン検索	(80,449 件)
06	越南本漢籍検索	(442 件)
07	朝鮮本漢籍検索	(3,975 件)
08	岩崎文庫 (和書貴重書)	(7,966 件)
09	續修四庫全書	(6,229 件)
10	拓本検索	(3,105 件)
11	ラテン文字資料	(93,267 件)
12	欧文資料分類検索	(97,442 件)
13	辻直四郎文庫	(7,218 件)
14	キリル文字資料	(12,983 件)
15	モリソン文庫資料検索	(17,299 件)
16	モリソン文庫資料分類検索	(16,629 件)
17	モリソンパンフレット検索	(8,300 件)
18	中国語図書の検索	(63,074 件)
19	中国語図書分類検索	(69,673 件)
20	日本語図書の検索	(68,389 件)
21	研究部近代中国研究班収集日本文図書分類検索	(18,950 件)
22	韓国・朝鮮語図書の検索	(4,145 件)
23	藤井尚久文庫オンライン検索	(1,432 件)
24	西アジア諸言語図書分類検索	(52,989 件)
25	アラビア語図書の検索	(16,353 件)
26	ベルシャ語図書の検索	(14,854 件)
27	現代トルコ語図書の検索	(11,420 件)
28	オスマントルコ語図書の検索	(1,860 件)
29	イスラーム地域研究資料室収集資料 (アラビア語・ベルシア語・オスマントルコ語資料)	(5,557 件)
30	モンゴル語図書検索	(2,114 件)
31	キルギス語図書全リスト (PDF)	(約 20 件) *
32	ウイグル語図書全リスト (PDF)	(約 1,100 件) *
33	カザフ語図書全リスト (PDF)	(約 240 件) *
34	河口慧海将来蔵外文献オンライン検索	(約 500 件) *

35	アメリカ議会図書館収集マイクロフィッシュ版総合目録データベース (約 4,000 件) *
36	スィンディー語図書 (188 件)
37	南アジア諸語 (アラビア文字) 図書検索 (3,693 件)
38	インドネシア語・マレーシア語図書の検索 (333 件)
39	タイ語資料検索 (933 件)
40	ビルマ語図書の検索 (665 件)
41	ベトナム語図書の検索 (380 件)
42	山本達郎博士寄贈書データベース (旧南方史資料) (8,712 件)
43	榎文庫 (9,950 件)
44	電子資料の検索 (102 件)

注1：ホームページ上の目録データベースのうち「漢籍統合データベース」は、05 漢籍資料オンライン検索、06 越南本漢籍検索、07 朝鮮本漢籍検索の横断検索用であるため、本リストからは除外。また、2010年度まで公開の「新収蔵漢籍検索」は、05 漢籍資料オンライン検索に併合のため、リストからは同様に除外。

注2：同「榎文庫 NDC8 による分類検索」は、43 榎文庫と公開件数が同一のため、リストからは除外。

注3：件数を概算できないもののうち、件数に大きな変動がないものは、2014年度年報の数字を用い、*で示した。

7. 書庫内資料と書架スペース

書庫内資料の排架一覧

階	排架内容		
6	Old Book, MS (モリソン文庫を除く), モリソンパンフレット, 漢籍稀観書, 漢籍: 経部・子部・集部・叢書部 (各部線装本), 岩崎文庫, 銅版画, 古地図, 梅原考古資料, 自筆稿本, 檔案 (満洲語檔案など)		
5	欧文図書 (モリソン文庫を除く), アジア諸語図書 (アラビア語・ペルシア語・トルコ語ほか), 個人文庫 (辻文庫・梅原文庫・榎文庫・岩見文庫・モリソンII世文庫・ベラルデ文庫・山本文庫)		
4	和書, 漢籍: 子部・集部・叢書部 (各部普通本), 漢籍大型本, 中・朝雑誌, 近代中国研究委員会収集資料 (和・中・欧文図書, 雑誌)		
3	3階書庫1	3階書庫2	2階・中2階・3階ミュージアム
	漢籍: 経部 (普通本)・史部 (線装本, 普通本)	朝鮮本, 越南本, 満洲語, 蒙古 (モンゴル) 語, チベット語, サンスクリット語図書, 拓本資料 電子資料	モリソン文庫 (大型本の一部・モリソンパンフレットを除く)
B1	逐次刊行物 (和・中・朝・欧文新聞, 和・欧文雑誌)		マイクロ保管庫
			マイクロ資料

8. 電子図書館情報システム

2015年度末現在、当文庫ホームページで提供している「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」は下記のとおりである。

2015年度新規公開分は、全頁データ: モリソンパンフレット 156件 2,250ページ、モリソンパンフレット 分類 1,362件 19,672ページ、東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー 70件 10,280頁、画像データ: 地図 10件 399コマ、風景 1件 8コマ、奈良絵本・挿絵など 16件 1,123コマ、浮世絵・美人画 1件 17コマ、動画: 中国祭祀演劇関係 2種、東アジア人類学関係

4種17本である。(※印)

A. 語彙データベース

- | | |
|----------------------------|----------|
| (1) 中国経済史用語データベース | 5,984 件 |
| (2) 宋会要輯稿 食貨編 社会経済用語データベース | 33,332 件 |

B. 全頁データ

- | | | |
|--|---------|------------|
| (1) 岩崎文庫 古籍善本 | 55 件 | (7,618 頁) |
| (2) 岩崎文庫 総合 | 373 件 | (30,279 頁) |
| (3) 洋古書 (宣教師文書) | 21 件 | (11,469 頁) |
| (4) 洋古書 (旅行記) | 19 件 | (8,999 頁) |
| ※(5) モリソンパンフレット | 685 件 | (11,855 頁) |
| ※(6) モリソンパンフレット 分類 2016年1月19日 新規公開 | 1,362 件 | (19,672 頁) |
| ※(7) 東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー (現代中国研究資料室) | 586 件 | (51,728 頁) |
| (8) 『柏原英一 (1914～2009) 写真帳』 (現代中国研究資料室) | 7 冊 | (383 頁) |
| (9) 『亜東印画輯』 (現代中国研究資料室) | 16 冊 | (2,642 頁) |
| (10) 『亜細亜大観』 (現代中国研究資料室) | 16 冊 | (2,620 頁) |
| (11) 雑誌 『北支』 昭和14年6月～昭和18年8月 | 51 冊 | (2,760 頁) |
| (12) アリー・ハイダル『メジェツレ注解』全4巻 (<i>Dürerü'l-hukkam : şerh-i Mecelletü'l-ahkâm : şerhü'l-kava'idü'l-külliyeye / eser-i Ali Haydar. — Tab-i 3. Istanbul : Matbaa-yi Tevsi-i Tıbaat, 1330 [191-]. — 4 v.</i>) (イスラーム地域研究資料室) | 4 冊 | (1,906 頁) |
| (13) 壇廟祭祀節次 | 6 冊 | (586 頁) |

注 2011年度まで「全頁データ：モリソン文庫 洋書稀覯本」として公開していたデータは、(3) 洋古書 (宣教師文書) と (4) 洋古書 (旅行記) とに項目を分割して公開

C. 画像データ

※(1) 地図

①中国関係	中華帝国図ほか	226件	(352コマ)
②日本関係	江戸内府図ほか	73件	(882コマ)
③世界関係	地球一覽図ほか	10件	(226コマ)

※(2) 風景 30件 (1,346コマ)

※(3) 浮世絵・美人画 32件 (226コマ)

※(4) 奈良絵本・挿絵など 152件 (8,909コマ)

(5) モリソン文庫—香港銅版画・水彩画等 392件 (416コマ)

(6) 梅原末治考古資料画像データベース 15,343件

(7) 中国祭祀演劇関係写真資料データ・ベース 35,416件

D. 動画データ

(1) 中国祭祀演劇関係動画

①香港の祭祀と演劇 (概観)

I 広東系祭祀 (粵) 約50分

II 海陸豊系祭祀 (恵) 約75分

III 潮州系祭祀 (潮) 約120分

②香港広東正一派道士の儀礼

I 太平清醮 (龍躍頭) 約50分

II 太平洪朝 (粉嶺) 約50分

III 八門功德 (錦田) 約6分

③中国の儺舞

I 萍郷縣儺 (潭塘、爐前、毛園、石洞口、石源) 約60分

II 萬載縣儺 約40分

III 婺源縣儺 (舞花、后羿、孟姜女等) 約50分

IV 南豊縣石郵村儺 約30分

V 南豊縣水南村儺 約30分

④中国の儺戯

※ I 廣西貴港儺 (舜孝子) 2015年12月15日 新規公開
約27分

⑤憑依・降神儀礼

I 莆田興僑壇憑依 約7分

- II 海南水尾廟憑依 約 4 分
- ⑥ 目連戲
- I 紹興前良目連戲 約 50 分
- II 祁門県栗木目連戲 約 50 分
- III 仙遊鯉聲目連戲 約 50 分
- IV 湘西辰河目連戲 約 10 分
- V 莆田木身目連戲 約 30 分
- ⑦ 元宵祭祀
- I 萍郷県元宵 約 30 分
- ⑧ 広東劇 約 50 分
- I 六国封相 (粵)
- II 雙仙拜月亭 (粵)
- III 再生紅梅記 (粵)
- ⑨ 海陸豊劇 約 75 分
- I 三戰呂布 (恵)
- II 蕭光祖 (恵)
- III 宛城戰 (恵)
- IV 李碧蓮搜宮 (恵)
- ⑩ 潮州劇 約 120 分
- I 楊門女將 (潮) (前・後)
- II 守揚州 (潮)
- III 寶蓮燈 (潮)
- IV 蘭英刺虎 (潮)
- ※ V 夫人城 (潮) 2016 年 3 月 13 日 新規公開 約 11 分
- ⑪ 莆仙劇
- I 白蛇伝 約 20 分
- ⑫ 廣東漢劇
- I 時遷偷雞 (漢) 約 17 分
- II 打洞結拜 (漢) 約 17 分

(2) 東アジア人類学関係動画

① 台湾

パイワン族村 (1991 年 9 月 2 日) 2015 年 8 月 25 日 新規公開
約 1 時間 20 分

パイワン族村 (2000年3月26日) 2015年8月25日 新規公開
約10分
道教式做功徳 後龍 2015年10月5日 新規公開
約1時間

②ベトナム

フエ1「南宗の寺と儀礼」 2015年8月25日 新規公開
佛誕 南宗 法倫寺 (2015年6月1日) 約6分
佛誕 北宗 慈曇寺 (2015年6月1日) 約7分
禪林寺 Kathina (2014年10月9日) 約30分
増光寺 Kathina (2015年7月2日) 約30分
玄空寺 Kathina (2014年10月11日) 約30分
定光寺 Kathina (2014年10月13日) 約30分
法倫寺 (2014年10月14日) 約30分

フエ2「船で嫁迎え」 2016年3月8日 新規公開

約28分

フエ3「明郷黄安氏の忌祭」 2016年3月8日 新規公開

約20分

中部清福村 葬礼「出棺指揮 Ca 翁」 2016年3月8日 新規公開

約6分

③梅県

葬礼 埋葬 梅州市 2015年10月5日 新規公開

約10分

客家の宗教儀礼

約30分

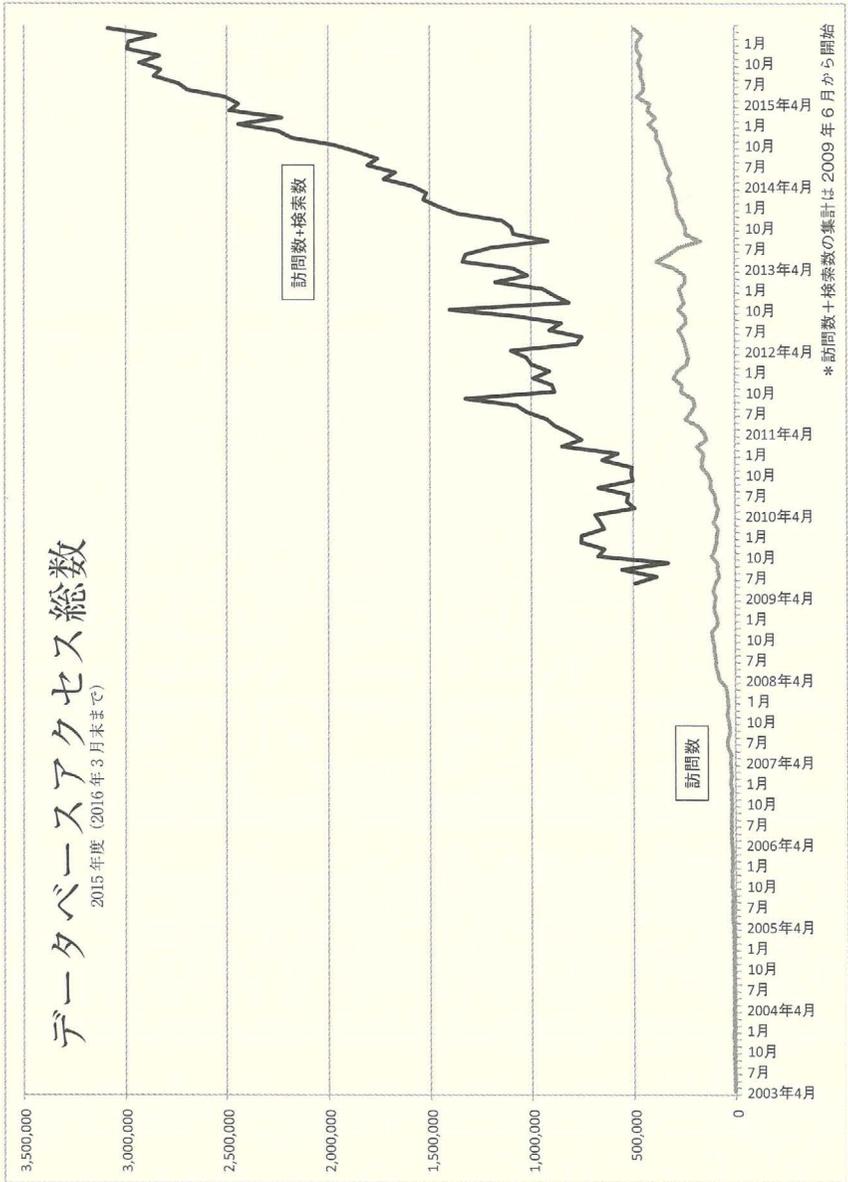
④沖縄の習俗

1988.0826 伊是名 盆拝み 2016年1月3日 新規公開

約14分

1988.0827 伊是名 屋那覇拝み 2016年1月3日 新規公開

約1分



Ⅲ 研 究 事 業

東洋文庫は1924年に岩崎久彌氏により、世界唯一のコレクションであるモリソン (G. E. Morrison) コレクションならびに日本古典貴重資料を含む岩崎コレクションを中核とするアジアの貴重図書・資料に関する民間の研究図書館として創設された。その後90年間にわたり、一貫してこれらの貴重図書資料を散逸させることなく保存・管理し、同時に広く市民並びに世界の研究者に公開し、アジア諸地域の歴史文化に関する基礎資料を組織的かつ継続的に収集し、公開することを目的とした事業を進めてきた。研究事業の主たる目的は、これらの資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料にもとづく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。このような事業を250名に及ぶ研究員を擁して推進する類似の民間の研究図書館は国内には存在せず、世界的に見ても稀な例であり、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫が世界的に注目される理由である。

東洋文庫は、この目的をさらに効果的に実現するために、2012年度からは、これらの基本的な課題を推進する中で、以下の点に一層重点を置いた事業を推進してきた。

- (1) 2011年3月11日の東日本大震災の教訓を踏まえ、貴重資料に関する書誌的資料研究をより一層強化し、併せて貴重資料の修復・保管・複製化・電子化という連続した資料保存とその公開をより系統的かつ持続的に推進する。
- (2) 大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究として、東洋文庫のすべての研究班の連携によって構成される「総合アジア圏域研究班」を設置し、主題研究、地域研究、資料研究を連結した「総合アジア圏域研究」を全アジア的視野から推進する研究体制を構築する。
- (3) 「総合アジア圏域研究」に伴う資料交流・人的交流・国際交流を一層推進し、研究成果を電子化などにより広く発信し、国際交流ならびに国際的な発進力を強化する。
- (4) 東洋文庫における資料研究・総合アジア圏域研究・国際交流・国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材を育成する。

これらの基本的な事業を継続的に推進するために、2015-17年度においては図書資料の書誌入力ならびにデータベース化をさらに進めると共に、各研究

班によるアジア現地研究・資料調査と収集を行い、研究成果を東洋文庫の刊行物ならびに各種講演・講習会ならびにミュージアムによる経常的な公開展示を通して、ひろく内外に成果を発信する。これらを基本とし、具体的には以下の事業を継続して行う。(1) 東洋学講座、(2) アジア言語資料ならびにアジア関連洋書資料に関するコーディコロジー(資料学)講習会、(3) すべての研究班による総合アジア圏域研究国際シンポジウムを各年に開催する。(4) 研究成果のデータベース化による国際発信を強め、(5) ハーバード・エンチン研究所ならびに ECAF (European Consortium for Asian Field Study) を始め協定機関との国際連携を強める。とりわけデジタル図書館としての機能を高めるため、横断的資料検索データベース作成に取り組み、アジア各地域を地域横断的に、また歴史=現代的に比較検討し、アジア研究の総合的研究水準を高めることを目指す。

1. 調査研究

A. 超域アジア研究

超域アジア研究では、これまで「現代中国の総合的研究」と「現代イスラームの超域的研究」を実施してきた。これらのテーマについて、基礎資料の収集と解析という東洋文庫の学問伝統を活かしつつ、学際型の共同研究を推進することにより、現代の中国圏域における政治・経済・国際関係・文化の各動向を明らかにし、また、中央アジアをも含めた比較によって、現代イスラーム圏域における国民国家の現実と矛盾についての理解を深めることができる。また、2012年度から「総合アジア圏域研究」を立ち上げ、アジア地域相互間の地域連関と相互影響を検討した。これは、これまでの超域研究の成果をアジア規模の視野から位置づけるとともに、さらにそこから導き出される新たな問題について、長期のまた多角的な視野から問題を組み立てることを可能とする方法であり、個別大学・研究機関における研究とは異なる、横断型の研究ネットワークを有する東洋文庫の特徴を現した研究である。これにより、現代の変動に関する分析を政権交代をめぐる事情検討に終わらせることなく、より歴史的・社会的・文化的な深みから解き明かすことを試みるのが可能となる。そこから生ずる新たな研究成果が広く発信され、国際的なアジア研究に寄与すると期待される。

〈超域アジア研究部門〉

(1) 総合アジア圏域研究班

「総合アジア圏域研究 (2)」

総括	斯波義信◎
副総括	濱下武志◎、田仲一成◎、平野健一郎◎
現代中国	毛里和子、中兼和津次、村田雄二郎、斯波義信◎*
現代イスラーム	三浦 徹、池田美佐子、粕谷 元、湯浅 剛
前近代中国	太田幸男、斯波義信◎*、山本英史、清水信行
近代中国	内山雅生
東北アジア	六反田豊、松村 潤、石橋崇雄、細谷良夫、加藤直人、小沼孝博
日本	今西裕一郎
中央アジア	梅村 坦、小松久男、土肥義和
チベット	吉水千鶴子
インド	小名康之
東南アジア	弘末雅士
西アジア	三浦 徹*、高橋英海
東アジア資料	斯波義信◎*、塚原東吾、江南和幸

(◎は専従者、*は重複を示す。以下同じ)

基本的な研究方法は、年度ごとに重点地域を定め、それをアジア規模の視野から多角的に検討するとともに、周縁諸地域との地域連関や相互影響関係を検討する。範囲は、基礎資料研究、現地研究、主題研究などに跨り、多分野間のまた国際間の比較研究を行う。また、資料、検討過程並びに研究成果は、欧文電子情報としてオンラインにより発信する。このような総合的アジア研究は、アジア諸地域における資料収集と地域研究の蓄積を持ち、内外の研究連携を進めてきた東洋文庫においてのみ可能な特徴ある研究である。

東洋文庫のすべての研究班の参加によって行われる重点研究としてこの「総合アジア圏域研究」では、2015-17年度では、横断的かつ地域比較の方法による総合アジア国際研究シンポジウムを「アジア研究に関する基本的分析概念

の検討」を基本テーマとして行う。これは、アジアの各地域に関する基本的分析概念を地域横断的にまた地域比較的に検討する。

これらは、東洋文庫の資料を横断的に検索することを可能とする総合的検索データベース作成の基礎過程をなし、日本を含むアジア研究全体の現状と将来を展望することを目的としている。また、研究成果は、ワーキングペーパーやオンラインジャーナルにおいて発信する。

[研究実施概要]

- a) 西アジア研究班がコーディネーターとなり、「イスラーム社会におけるワクフ（寄進）研究」について、中央アジア、南アジア、中国、東南アジア、日本の寄進との比較により、地域横断的、地域比較的に検討する総合アジア圏域研究シンポジウム“Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations” (The Fourth International Symposium of Inter-Asia Research Networks) を開催した。シンポジウムは2日間行われ、のべ64名の参加者を得た。
- b) アジア資料学研究シリーズとして、「東洋文庫所蔵本 紙質調査報告」を開催し、石塚晴通氏が勉強出版『東洋文庫善本叢書』所収本の料紙調査について報告し、江南和幸氏が東洋文庫所蔵本の18世紀ヨーロッパ刊本に用いられた紙の分析結果について報告した。内外の書誌学研究者、図書館職員など30名の参加者を得た。
- c) 若手研究者の国際的な研究成果発信を支援するため、昨年度に引き続き、国立シンガポール大学出版のポール・クラトスカ氏を招き、セミナー“Writing English paper for English Journal”を開催した。東洋文庫に籍を置く若手研究員をはじめ日本滞在中の中国人研究者等が参加し、クラトスカ氏より英文研究論文の作成について指導をうけた。
- d) 総合研究データベース作成とその成果の公開発信への取り組みを本格化するために、総合アジア圏域研究班のもとに、すべての研究班が参加する「研究データベース共同研究グループ」を設置した。そこでは、資料・目録・分類索引・基本語彙・研究論文・地図・写真などを相互的に連結させた総合研究データベースを作成し、検索機能の活用により研究者の需要に応じた課題を導き出すような新たなアジア研究のモデル開発を目指す。今年度は具体的には、情報処理の専門家を招いた研究討論会の開催、『唐代墓誌所在総合目録』のデータベース化などに取り組んだ。

(2) 現代中国研究班

「現代中国の総合的研究 (3)」

総括	村田雄二郎*
副総括	毛里和子*
政治	毛里和子*、天児 慧、青山瑠妙、興梠一郎、 唐 亮、平野 聡
経済	中兼和津次*、加藤弘之、巖 善平、丸川知雄、 梶谷 懐、寶劔久俊、唐 成
国際関係・文化	村田雄二郎*、平野健一郎◎*、濱下武志◎*、田中明彦、 川島 真、貴志俊彦、黄 東蘭、砂山幸雄、高田幸男、 古田和子、土田哲夫、尾形洋一、大澤 肇、中村元哉
資料	斯波義信◎*、貴志俊彦*、新村容子、城山智子、 村上 衛、岡本隆司

現代中国は、政治、経済、社会の大改革を行い、その影響力は東アジアから広く世界に及びつつある。この動態を、歴史・文化の要因をも視野に収めながら、総合的に捉える研究体制（資料、政治、経済、国際関係・文化の各グループで構成）を構築した。資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点としつつ、学際的研究と公開利用に向けて拡充と再編をはかる。その際、台湾中央研究院や中国社会科学院、ハーバード・エンチン研究所との学術交流など、海外・国内の研究機関との連携をいっそう強化し、政治、経済、国際関係・文化グループは研究会の開催を継続実施し、次年度以降における成果の刊行に備える。

〔研究実施概要〕

本年度はおもに次年度の国際シンポジウムに向けた準備を進めるとともに、前年度を承けて、各グループの研究活動を以下のごとく進めた。

- a) 資料グループは、前年度に引き続き東洋文庫が所蔵する近代中国関係資料の中心をなすモリソン・パンフレットを整理し、系統的な調査・研究を着実に進めた。
- b) 政治グループは、世界第二位の経済大国になった中国について、外交思

- 想、外交戦略、地域戦略、海洋戦略などの変化を検討する研究会やインタビュー調査を適宜行った。日中関係の現在および将来についても、文献調査・インタビューなどによって検証した。
- c) 経済グループは、「歴史的視野から見た現代中国経済」研究の第2部として、毛沢東時代の経済政策と制度を今日的視点から再評価するための研究会を継続した。
- d) 国際関係・文化グループは、「戦後中国の国際関係と社会・文化変容」に関する研究会を、3回開催するとともに、東洋文庫が所蔵する華字新聞『順天時報』社説目録の作成を行い、2016年度の刊行に向けた編集作業を着実に進めた。
- e) 政治グループ、経済グループ、国際関係・文化グループとも、図書資料の購入に関しては、東洋文庫の現代中国研究資料センターと提携して、系統的な取書を行った。
- f) 『モリソンパンフレットの世界Ⅱ』（東洋文庫論叢79）、『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』を刊行した。

(3) 現代イスラーム研究班

「新中東・イスラーム圏における議会主義の展開と立憲体制を軸とする政治文化に関する総合的比較研究」

総括	三浦 徹*
副総括	小松久男*
アラブ	池田美佐子*、長沢栄治、小杉 泰、関本照夫、松本 弘、鈴木恵美
イラン	松永泰行、黒田 卓、鈴木 均
トルコ	粕谷 元*、小松久男*、設楽國廣、江川ひかり、大河原知樹、秋葉 淳、澤江史子
中央アジア	湯浅 剛*、小松久男*、宇山智彦

国民国家システムが大きく再編を迫られる現代世界にあって、国民国家そのものの限界が叫ばれ、その克服が盛んに議論の俎上に上る世界の趨勢とは別に、ますます強固な枠組みへと移行しつつあるかに見える新中東・イスラーム圏（西アジア、北アフリカ、中央アジア）の諸国民国家において、議会主

義と立憲体制が占める位置と役割は、域内諸地域・諸国により、その形態と質を大きく異にしているとはいえ、押しなべて決して小さくはなく、それぞれの政治文化を大きく規定し、特徴づける重要な要因となっている。現代イスラーム班では、新中東・イスラーム圏内の諸国を対象として、その議会主義の展開と立憲体制を巡る諸問題、そしてそこに醸成される政治文化を分析し、それらを相互に比較検討するための土台となる比較の枠組みを構築することを本来的な目標として設定する。

具体的には、世界の当該地域研究において、これまでほとんど用いられることのなかった、或いは本格的かつ体系的な使用が必ずしも十分にはなされてこなかった当該地域諸国の議事録を中心とする議会文書や議会関係文書（議員など関係者の回想録や日記 etc）の整理・分析を通じてそれぞれの地域（国家）に誕生した議会主義をめぐる政治思想と立憲体制の実態を比較・検討する。加えて、こうした作業を進めるにあたって不可欠となる当該地域における現地語関係資料群の収集と整理、データベース化を推進し、日本における関係資料センターとしての充実に最大限の努力を傾ける。

[研究実施概要]

- a) 日常的な研究活動は、便宜的に、アラブ、トルコ、イラン、中央アジアの4グループに分かれて、下記の研究会を開催した。

アラブグループ研究会（6月20日、東洋文庫）

岩崎えり奈（上智大学）「チュニジア革命と地域」、山尾大（九州大学）「『イスラーム国』の台頭とイラクのセキュリティー・ガバナンス」、石黒大岳（ジェトロ・アジア経済研究所）「野党の議会戦術にみる議院規則運用の実際：クウェート議会における問責質問（istjwab）をめぐる攻防」

トルコグループ研究会（12月6日、上智大学四谷キャンパス）

上野愛美（京都大学大学院）「トルコ共和国の宗教教育政策：『宗教文化と道徳』教科書におけるタリーカ、タサウフの記述の分析から」、宇野陽子（津田塾大学）「2015年11月トルコ大国民議会総選挙（トルコ出張報告）」

- b) 各グループが担当地域（諸国）のカウンターパートとの共同研究体制の構築を行い、現地研究者との研究上の交流の緊密化を図るため、下記の海外出張を行った。

○勝沼 聡（慶應義塾大学非常勤講師） 2015年10月 トルコ・アンカ

ラ 中東工科大学・ケンブリッジ大学などが後援した大戦間期中東社会史に関する国際学会での研究発表等

○宇野陽子 2015年11月 トルコ総選挙に関する現地調査

○立花優（北海学園大学非常勤講師） 2016年2～3月 ジョージア（ゲルジア）国におけるテュルク系住民の政治参加に関する調査

○石黒大岳 2016年3月 クウェートにおける議会運営の実態に関する調査

○吉村武典（NIHU イスラーム地域研究研究員） 2016年2～3月 モロッコ・エジプトにおける資料・研究動向調査

- c) グループを横断した共通課題として「近現代の構造変動」を新たに設定した。地域や国別に進展する研究をより深化させるために、地域や国を横断し、より長期的なタイムスパンのもとで、画期となる事件や事象を、中東・中央アジアさらにはアジア・アフリカ・欧米とも連動する構造変動と連関づけて議論するための研究セミナーを2回開催した。近現代の中東諸国における連続・非連続の両面について検討を進めていく必要性が明らかとなった。

第1回（9月19日、広島市立大学）

吉村慎太郎（広島大学）「近現代イランのナショナリズムとイスラーム—『構造変動』を手掛かりに」、長沢栄治（東京大学東洋文化研究所）「アズハルと2011年エジプト革命」

第2回（3月22日、東洋文庫）

粕谷元（日本大学）「オスマン帝国からトルコ共和国へ：宗教政策に見る連続性と非連続性」、小松久男（東京外国語大学）「近現代中央アジアにおけるイスラームと政治」

- d) これまでに収集した史料（とくに議会関係史料）のデータベース化の作業を進めるための打ち合わせを行った。

B. アジア諸地域に関する歴史・文化研究

歴史・文化研究では、東洋文庫が収集・所蔵する一次資料の文献学的分析（解題・目録・訳注等の作成）、および、それらの資料にもとづく基礎研究を持続的に進めていく。総合アジア圏域研究のもとで進められるアジア諸地域の歴史と文化に関する総合的研究を遂行するための基盤を築き、さらには現代アジアの複合的・動的な把握に貢献することが期待できる。

〈東アジア研究部門〉

(1) 前近代中国研究班

①「中国古代地域史研究－『水経注』の分析から－(2)」

総括 太田幸男*

副総括 多田狷介

松丸道雄、藤田 忠、飯尾秀幸、舂山 明、塩沢裕仁、
窪添慶文、池田雄一、金子修一、川合 安

本研究班では地域史という視点から、中国古代の地域社会の構造を検討してきた。その基礎となるのは『水経注』（原典6世紀、中国最古の地理書）とその諸注の再検討である。これを注文、疏文まで精読し、加えて考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析するという歴史地理学的方法による研究に挑んでいる。具体的には、これまでの分析でも用いた旧ソ連製（1978年、1/100,000）の詳細なランドサット衛星地図および最新の地理的・考古学的情報と、楊守敬『水経注図』と重ね合わせ、近年の考古学資料とともに原典の注文・疏文までを精読し、『水経注』訳注の刊行を目標とする。

河川流域を「地域史」という観点から分析することは中国古代史研究においては新鮮な視点であり、『水経注』の研究という範疇を超えて、内外における中国古代史研究に大きな影響を与えるものである。

[研究実施概要]

a) これまでの研究から継続して、陳橋驛復校『水経注疏』（江蘇古籍出版社

刊)をテキストとし、講読を隔週の研究会において実施した。すでに渭水篇訳注上・下巻に続き、2014年度には洛水・伊水・漣水・澗水篇の訳注を出版したが、これに続けて巻16の穀水以下洛陽周辺の諸水の分析に着手した。洛陽一帯の地域史的発展というこれまでの視点に、近年特に盛んとなっている洛陽都城史研究の成果を加えつつ、さらに詳細な地域史研究を目指した。

- b) 上記の目標を完成するため、穀水等諸水の流域の地誌的記述及び考古学的調査・発掘報告の収集に努めた。特に、2015年12月25日から2015年12月29日の間、研究員4名・研究協力者7名、一行計11名で中国河南省に出張し、洛陽市とその周辺の穀水とその支流の河流の状況、沿岸の遺跡・史跡等を調査した。なかでも、水経注で多く言及される漢魏洛陽城の調査に際しては、洛陽市漢魏故城文物保管所を見学したのち、中国社会科学院考古研究所漢魏故城隊の劉濤副研究員の手配により西陽門や太極殿等の主要発掘現場を視察できた。中国出張を含めて、2015年度の研究活動の成果は2016年度以降に継続刊行を予定している『水経注疏訳注 穀水等篇』に反映されるであろう。

②「東アジア都城の考古学的調査・研究(4)」

総括 清水信行*

副総括 妹尾達彦

早乙女雅博、飯島武次、井上和人、小嶋芳孝、金沢 陽

本研究班では、これまで渤海を中心とした東アジアにおける都城の比較研究を行ってきた。中国における渤海都城の『上京龍泉府』、『西古城』(中京顕徳府比定地)、『東京龍原府』(八連城)などの発掘調査報告書の刊行が進められる一方で、朝鮮半島、ロシア沿海州の渤海の城跡(クラスキノ古城、コクシャロフカ古城など)の発掘調査・研究も進展を見ている。これら各地の渤海古城の報告書やそれらについての研究書が刊行され、資料の蓄積も充実してきている現状から、本研究班では、それらを整理し、綿密に検討することを目的に研究を進める方針である。また、これまでは都城や城跡の構造、機能などの研究にその中心が置かれていたが、本研究ではこれら都城、城跡に付随する墓跡、集落跡、それらの遺跡から出土する遺物についても注目していく予定である。これまで本研究班では2004年度に『東アジアの都城と渤

海』、2006年度に『渤海都城の考古学的研究Ⅱ』を公刊してきたが、本研究においては、渤海の墓、土器・陶器・瓦などの遺物についての研究成果を発表し、特に本研究の総括者が関係するロシア沿海州の遺物の科学的分析についても、行っていく予定である。

[研究実施概要]

- a) 2015年度は、中国、朝鮮半島、ロシア沿海州の都城・古城に関する文献の整理と内容の検討、特に上京龍泉府、西古城（中京顕徳府比定地）、八連城（東京龍原府比定地）の発掘調査報告書の検討を行った。ロシア沿海州の渤海古城であるクラスキノ古城の発掘調査の結果、道路状遺構から門扉の軸受け金具とみられる鉄製品が出土し、これまでの日本・朝鮮半島・中国・ロシアの諸都城から出土した軸受け金具の集成を行うため、発掘調査報告書を整理してまとめる作業を行った。
- b) 城跡以外の遺跡（墓跡、集落跡など）についての検討を行った。また、それらの遺跡から出土した遺構、遺物について、渤海の中心地である都城の出土遺物との比較検討を行った。
- c) b) の成果については、現在研究成果として出版するための原稿を執筆中である。

③「中国社会経済史用語のデータベース化」

総括 斯波義信◎*

副総括 渡辺紘良

梅原 郁、千葉 隼、大澤正昭、徳永洋介、青木 敦、
廣瀬紳一、石川重雄、土肥祐子

東洋文庫で開設当初から行われてきた《歴代正史食貨志訳註》の研究成果を基礎としながら、これに関連して制作した語彙索引、用語集成などを整理し増補して、これを中国社会経済史の用語集成として編集し、データベースとして公開利用に供することを目的とする。すでに『中国社会経済史用語解』（2012）を刊行し、そのデータベースも公開（2014）したが、『宋会要輯稿食貨篇社会経済用語集成』（2007）もデータベースとして近く公開する。

[研究実施概要]

- a) 梅原郁氏寄贈の『唐宋元明代政治・社会・経済用語史料』（唐・五代・宋代・元代・明代にわたり、計約 15 万枚）の中から、唐・宋代約 34,000 枚につき、整理、編集をして版下原稿『唐宋編年史料語彙索引』の製作を完了した。
- b) 『三台万用正宗：商旅門、律例門、算法門』を中心としながら、その他の元代、明代の各種の『日用類書』の商旅、律例、算法各門を訓読し検討して、社会、経済、法制、算法の用語を採録して解釈を施した。
- c) 2016 年度は、①すでに前年度に版下原稿を作成した梅原郁氏寄贈用語索引カード 34,000 枚を『唐宋編年史料語彙索引データベース』として、ホームページ上で公開する。残る 10 万枚を超えるカードについても、逐次整理と編集、公開のための版下原稿化を進める。②語彙資料の読解、抽出の作業と並行しながら、『三台万用正宗』ほか明代の『日用類書』に対する訳注と語彙整理によって集められたデータによって、既刊の『中国社会経済史用語解』（2012）に対する大幅な増補改訂版を編集する作業に入り、その刊行、公開を 2017 年度に行う。

④「前近代中国民事法令の変遷（2）」

総括	山本英史*
副総括	鶴見尚弘
南宋	大澤正昭*、青木 敦*、小川快之
元代	鈴木立子
明代	鶴見尚弘*
明清代	岸本美緒、濱島敦俊、寺田浩明、西 英昭、高遠拓児

宋代以降の戸婚・田土・錢穀などを扱う「民事」法令を分析し、どのように変遷してきたかを明らかにする。中国の各時代の様々な法についての研究の中でも、近 20 年の特徴のひとつとして、法令の有効性、厳格性などを版牘文や契約文書によって検討する研究がなされてきたことがあげられる。契約文書や多くの条例、版牘文などが発見され、また中国国内にあるものが利用しやすくなったことにもよろう。本研究班も過去 8 年間、この方向で研究活動をしてきた。この 8 年間の研究をとおして、あらためて法令そのものに視点をあてる必要があることに到った。民事的な法令に限ったのは、社会状況を反映しやすく、社会の実態の変化を分析するに適していると感じてい

るためである。一度できた法は常に現実社会に適合しにくくなっていくが、時代を通して考察することにより、漢族社会の大きな変容をつかむことができると思う。

[研究実施概要]

本研究班では現在、学部学生・大学院生を対象として中国の法制史料、とりわけ宋代以降の史料を読解するためのハンドブックとして『中国法制史料読解手冊』（仮）という班のメンバーが分担執筆する共著を準備している。これはとかく複雑で特有の形式を伴う史料である中国の法制史料の読み方につき、班メンバーがその情報を提供して、若手研究者の史料読解を手助けしようとするものである。そのため、今年度は定期的に会合を開き、各自の原稿を検討することを始めた。出版は2017年度を目標にしている。

加えて、瀋陽敦俊研究員を中心とした東洋文庫に収蔵されている地方役人文書の輪読会も開始した。

今後3年間の研究計画としては、これらの研究成果を踏まえ、さらに引き続き前近代中国の民法法を中心とする中国法体系の特徴をそれぞれの研究員の専門領域である時代やテーマに則して明らかにする研究を進めていく。

(2) 近代中国研究班

「戦前・戦中期日本の華中・華南調査の研究」

総括	内山雅生*
副総括	久保亨
経済	久保亨*、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、吉澤誠一郎
政治	本庄比佐子、松重充浩、田中比呂志
文化・社会	内山雅生*、高田幸男*、佐藤仁史、浅田進史、山本真、瀧下彩子◎

近代中国研究班では、これまで、戦前・戦中期に日本の各種調査研究機関等が中国で実施した調査の報告書や資料に関する研究を行ってきた。特に近年では、調査対象地域を華北に重点を置いて、改めて「華北」とはいかなる範囲を指すのか、それを規定する要因は何か等、地域概念が曖昧なまま、議論がなされてきたことを指摘してきた。そこで2015年度から2017年度にい

たる研究期間においては、「華北」研究の延長として、「華中」「華南」に関する調査研究を取り上げ、その内容を政治・経済・文化等様々な角度から分析し、改めて「華中」「華南」の地域概念から、戦前・戦中期の日本人の中国認識を明らかにするものである。なお本作業によって、先に取り上げた「華北」概念の再検討が可能となり、新たに近代中国の全体像を再構築することができると確信している。

〔研究実施概要〕

- a) 前期の研究期間において検討地域とした「華北」については、2013年12月に『華北の発見』と題する報告書を出版した。本研究期間でもこれまでの研究方法を継続して、地域研究として発表された「華中」「華南」に関する研究史整理を踏まえて、膨大な数に上る戦前・戦中期の日本による調査報告類を整理分類した。特に本研究期間の研究メンバーに、「華中」や「華南」を専門的に研究対象としてきた研究者を新たに加えたことにより、より一層深みのある地域史研究を目指すことができた。
- b) 上記の目標を完成するため、南京大学や中山大学等、現地で戦前・戦中期の日本側史料を活用している中国人研究者・研究機関との学术交流や実地調査を実施し、「華中」「華南」地域の実態に関して先端的研究内容を踏まえて把握した。特に香港について専門研究者を招聘し学术交流を推進するとともに、研究メンバーと活発な討論を行った。
- c) また「華南」等については、台湾総督府の調査等も大きく関与していると思われるので、台湾の中央研究院近代史研究所から専門研究者を招聘し、学术交流を行った。さらに研究メンバーにより台湾の中央研究院や国史館等で調査を実施した。
- d) 『近代中国研究彙報』第38号を刊行した。

(3) 東北アジア研究班

① 「近世朝鮮記録類の総合的研究」

総括	六反田豊*
副総括	吉田光男
	糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、森平雅彦、山内弘一、山内民博

当班では近世朝鮮史研究の基盤形成作業の一環として、これまで戸籍関係資料と帳簿類をはじめとする冊子体の各種公私記録類（しばしば成冊などと呼ばれた）を対象に、日本国内の大学やその他の研究機関・個人等が所蔵するものについて書誌的ないし歴史学的な視点から調査・研究を継続して進めてきた。このうちとくに後者については、従来全体的な調査がなされたことはなく、そのため日本国内にどのような内容の記録類がどの程度存在するかさえほとんど未解明であったが、当班によるこれまでの調査によってその全貌がほぼ明らかになりつつある。

本課題は、こうしたこれまでの調査・研究活動の延長線上に位置づけられるものである。戸籍関係資料や冊子体の記録類以外にも、日本国内には近世朝鮮で作成された各種の記録類が存在する。たとえば古文書類や、写本の形で伝わる日記・紀行文・回想録などをあげることができる。しかしこれらについてもこれまで網羅的な調査は行われていない。そこで本課題では、そうした各種記録類の現存状況を確認し、個々の資料の基本的な情報を収集・整理すること、そしてそれらを体系化して解題目録にまとめることをめざす。さらには、そうした作業を踏まえつつ、それらの記録類の史料的性格、あるいはそれらの記録類に基づいた近世朝鮮社会の分析にも歩を進めたい。

[研究実施概要]

- a) 冊子体の各種文献記録類については、2009年度に刊行した『日本所在近世朝鮮記録類解題』の増補改訂版刊行に向けて準備作業を実施した。これまでの調査で得られた各種文献記録類の書誌情報の再整理・再点検をおこなった。また未調査の関連文献所蔵機関等と対象文献記録類のリストアップ作業をおこなった。
- b) 日本所在の近世朝鮮古文書や写本の形態で伝存する日記類・紀行文等については、とくに前者について本格的調査に向けての予備調査を実施した。

② 「満族関係資料の研究」

総括	松村 潤*
副総括	中見立夫
満洲語檔案	加藤直人*、楠木賢道、細谷良夫*、柳澤 明、杉山清彦

本研究メンバーは、いままで清朝満洲語檔案資料に関して研究を実施し、「満文老檔」「旧満洲檔（「満文原檔」）」「鑲紅旗檔」「内国史院檔」等の訳注・出版をはじめとして、世界の満洲語檔案研究をリードする研究成果を公表してきた。今後もその研究を継続したい。また併せて本研究グループ構成員が、1980年代より現在にいたるまで、中国各地、とくに中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、そしてロシア極東等で調査を行った際に撮影した画像・映像類、当地で収集した資料（パンフレット、地図を含む）類に対する学術的・体系的な整理・研究を実施したい。したがって、本研究では次の二点をおもな課題とし、研究をすすめる。

第一に、清朝満洲語檔案資料、とくに公益財団法人東洋文庫に所蔵される「鑲紅旗檔」（鑲紅旗満洲都統衙門檔案）に関する研究である。清朝の基底組織たる八旗、とくに「八旗満洲」の存在は、その国家構造を考える際きわめて重要であることは言を俟たない。「鑲紅旗檔」は、雍正元年の衙門創立から清末まで約300年にわたる公文書群で、一八旗都統衙門の文書がこれほどまとまって保存されているのはほかに例をみない。本研究グループは、この文書に対してすでに数多くの研究成果を公にしているが、それらの成果を総括する「研究篇」（英文）の作成をめざし、グループで研究を続けている。本研究はまずこの研究を継続して実施したい。

第二に、いままでグループ構成員が実施した、中国東北部をはじめとする調査の画像・映像資料等に対する整理・研究である。近年の中国经济発展はめざましいものがあるが、その一方で開発にともなう環境の変化が社会問題ともなっている。文化財および歴史的景観についてもそれは例外でなく、観光開発と称する遺跡破壊や現状変更は、中国のいたるところで起こっている。その変化は2000年を超えてからより顕著となっており、いまでは回復不可能なものも数多く存在する。本研究グループ構成員は、1980年より現在にいたるまで、ほぼ毎年中国東北部の満族関係遺跡・文化財を中心として調査を実施してきたが、それらの調査によるデータ・資料が相当数蓄積されている。これらの資料は、いうまでもなく、現在の中国ではほとんどみることのできない貴重なものである。本研究では、一の「鑲紅旗檔」研究に加え、本研究グループ構成員が中国各地で集積した満族（清朝）関係の画像・映像データ、そしてパンフレット、地図等の資料を、体系的に整理・研究をしようとするものである。

[研究実施概要]

東洋文庫に所蔵される「鑲紅旗滿洲都統衙門檔案」に関する共同研究を継続して実施し、それとともに、研究メンバーが1980年代より中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、そしてロシア極東等の地で調査を実施した際に撮影・収集した主として満族（清朝）関係資料について整理・研究する。これらの資料については、デジタル化を進めるとともに、データベース化と目録化を進めた。

③「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析：政治・社会・経済・民族・文化の展開」

総括 石橋崇雄*

副総括 C. A. ダニエルス

岸本美緒*、柳澤 明*、武内房司

中国では内外政治・経済・民族を中心とする国家事業を急進させるなか、長期間に互って内在していた政治・経済・民族・文化の問題が表面化している。チベットやウイグルをめぐる自治区の問題はその端的な事例であり、その影響は広く中央アジア・北アジア領域世界にも及んでいる。清朝は所謂「北京京師体制」を拡充させることで清代諸領域における歴史的構造としての特徴を確立し、政治・経済・民族・文化の問題としてさまざまな展開をみせてきた。そこには、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を進展させた清朝の最大版図が直接に現代中国と繋がるなか、その一体化から生じた政治・経済・民族・文化の問題もまた現代中国に直結していた反映と捉えられる特徴が多々窺える。本研究班では、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を独自に進展させた清朝の国家領域構造と対外関係の問題を総合的に研究・分析してきた。本研究班におけるこれまでの成果を基盤にして、刊行予定の英文論文集にこれまでの成果を反映させると共に、引き続き清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築するべく、清朝の国家領域構造と政治・社会・経済・民族・文化の展開における諸関係を分析する上で特に不可欠となる官撰文献ならびに檔案類を中心に体系的に蒐集、整理、読解、デジタル化し、向後の研究に広く貢献していきたい。

〔研究実施概要〕

- a) 2016年度に【TBRL：『清代諸領域の歴史的構造分析』1／清朝初期政治史研究（1）】、2017年度に【TBRL：『清代諸領域の歴史的構造分析』2／清朝祭祀儀礼研究（1）『壇廟祭祀節次』】を出版する計画を立て、2015年度にはそのための準備を進めて予想通りの成果を得た。しかし、その過程で新たな研究上の大きな課題が明らかになったことにより、この課題について早急に対応するべく、次なる計画に従って引き続き準備を進める。
- b) 写真で蒐集した史料の一部を既に公開したことに続き、清代政治・経済・民族・文化の各専門研究領域をもとに、海外における図書館・檔案館・研究機関等に所蔵されている檔案文献史料類のマイクロ＝フィルム方式や新たなデジタル化方式による整理・分析作業を進める計画予定であったが、日中関係が悪化した現状等を背景とする諸般の事情で2015年度には予定通りには進めることができなかった。引き続き、年度を改めて継続する。
- c) 上記の新規蒐集史料と密接な東洋文庫収蔵の文献資料類を新たに検討し、その研究成果を個別論文・論文集・史料集などの形で公開する計画の一環として、東洋文庫所蔵の祭祀儀礼資料類を総合分析することによって、従来みられた清朝の国家支配構造をめぐる研究アプローチとは全く異なる、デジタル手法の導入による資料検証ならびに清朝宮廷儀礼の復元作業を、新たな長期研究課題として2015年度に設定した。時間を要する課題のため、この長期研究課題そのものについて2015年度に立てた研究実務上における短期・中期・長期の3段階の研究事業計画を進めたが、さらにこれに沿って引き続き年度を改めて対応を進める。

(4) 日本研究班

〔岩崎文庫貴重書の書誌的研究（3）〕

総括	今西祐一郎*
副総括	深沢眞二
語学	柳田征司、石塚晴通
文学	深沢眞二*、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、枳尾 武、 宮崎修多
思想・文化	齋藤真麻理、和田恭幸

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分にはなされていない。2006年度までに、室町時代以前に成立した古写本・古版本についての書誌解題（Ⅰ～Ⅴ）を公刊したが、その後も、近世期の成立、ないしは刊行の貴重書について調査を行い、その書誌解題を広く公開してきている。2009年度刊行の『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅵ』と、2012年度刊行の『同Ⅶ』において歌書を中心とした解題を公刊した。今後さらに草子類についての調査と解題刊行を継続して、岩崎文庫所蔵の貴重書の研究基盤を整備し、その資料的価値を周知していきたい。

[研究実施概要]

- a) 上記の『岩崎文庫貴重書書誌解題』のⅠ～Ⅶに引き続き、2015年度には、岩崎文庫の内から、江戸期成立・刊行の絵入り本（奈良絵本・仮名草子丹緑本ほか）47点について、書誌調査を行い、分担して書誌解題を執筆し、研究会を催して検討の上、第Ⅷ輯として公刊した（『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅷ 東洋文庫絵本コレクション』）。とくにそのうちの奈良絵本19点については、本文の翻字を掲載した。
- b) さらに『岩崎文庫貴重書書誌解題』の第Ⅸ輯として、絵入りでない草子類の書誌解題につき、企画検討・調査に着手した。第Ⅸ輯は2018年度に公刊の見込みである。

〈内陸アジア研究部門〉

(1) 中央アジア研究班

① 「古ウイグル語および関連諸語古文献に関する研究」

総括	梅村 坦*
副総括	林 俊雄
古ウイグル語	P. ツィーメ、小田壽典、松井 太、橘堂晃一、森安孝夫
ソグド語・イラン語	吉田 豊
コータン語ほか	熊本 裕

本研究は、サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー（RAS）東洋写本研究（IOM）に蔵されているセリンディア・コレクション（SIC）の中で、東洋文庫にマイクロフィルムとしてもたらされた古ウイグル語を中心とする古文獻について、2014年度までに作成した仮目録（カタログ）第2版を基礎としながら、次のような目的を果たそうとするものである。

古ウイグル文獻と、それに関連する中央アジア地域の諸言語によって書き残された古文獻は、世界各地の所蔵機関や国際的な連携組織（例えば国際敦煌プロジェクト＝IDP）などの努力により、次第にその全容が把握できるようになり、同時に、個別の文書研究の蓄積も増大してきた。これらに基づき、(1) 多くの出土古文獻に関する古文書学的特徴について、従来のデータをさらに充実させる。(2) また漢文面（主に仏典）の内容をも参考にしながら、多くの断片をつなぎ合わせ、古文書群の系統研究をおこなう。(3) 古文獻の読解によって内容研究をすすめる、とりわけ古代・中世期の中国・インド・中央アジアにまたがる地域の言語・文化とその担い手たちの実態・交流・変容・歴史の解明に寄与する。(4) なお、古文獻断片のつなぎ合わせ研究を、別の角度からみて、19～20世紀の中央アジア地域における諸国探検隊の活動の実態を解明する手がかりを探求する。

[研究実施概要]

- a) 古文書学的データを確定するために、サンクトペテルブルグのIOMにおいて現物調査をおこなった。
- b) 仮目録第2版の校訂を文庫内部データベースの上で不断に行い、5,600点ほどの断片類の詳細を、文字種類・言語種類・内容について検討した。また、サンクトペテルブルグのSICグループと面談のうえ、目録各断片の寸法に関するデータの提供を依頼した。漢文面の仏典情報を手がかりに、断片の接合関係を明らかにした。
- c) 古文獻の内容に関する個別研究、比較研究を、サンクトペテルブルグ所蔵のものに限定せず、メンバーが個別および共同で広く行い、成果を個別論文として公刊した。
- d) 出土古文獻に関する諸情報を共有するために、京都の龍谷大学のメンバーと研究打ち合わせをおこなった。

②「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと民族」

総括 小松久男*
副総括 新免 康
濱田正美、長縄宣博、堀川 徹

ソ連解体（1991年）以後、中央ユーラシア近現代史研究は、大きく可能性が開かれた。これまでアクセスが不可能であった多種多様な史料が公開され、また現地の研究者との共同研究や現地調査も可能になったことは決定的な意味をもっている。こうした研究環境の変化をうけて、本研究は次の二点をおもな課題とする。

第一に、中央ユーラシア地域は、19世紀後半からロシア帝国や清朝の統治下で近代を迎え、その過程でイスラームの改革を志向する潮流と既存のイスラームを固守する潮流との緊張関係が高まり、ほぼときを同じくして民族的な覚醒が進行した。こうした動きは同時代の新聞や雑誌などの定期刊行物やロシア当局のアルヒーフなどから分析することができるが、イスラーム改革と民族的な覚醒との相互関係は十分に解明されているとは言えない。この問題は後のソ連時代および現代の動向、とりわけイスラーム復興と新しいナショナリズムとの相関を考える上でも重要であり、本研究はまずこれに注目したい。

第二に、近現代中央ユーラシアにおけるイスラーム改革と民族的な覚醒は、いずれも帝国の体制や秩序とムスリム社会との相互関係あるいは緊張関係を背景として生まれたものであり、また同時代のオスマン帝国やイラン、インドなどのイスラーム地域における政治社会運動の影響も無視するわけにはいかない。さらに、その後の社会主義体制がもたらしたイデオロギーや社会変容の影響は、それ以上に重要である。ソ連解体後においては民族の別を越えたグローバルなイスラーム復興の潮流が浸透する一方で、新独立国家のナショナリズムと結びついたイスラームがこれに対抗するような構図も生まれている。本研究では、このような多様な要因に留意しつつ、イスラームと民族の相互関係について総合的な理解をめざしたい。

[研究実施概要]

a) 近現代中央ユーラシアのイスラームに関する資料調査と専門研究者との意

見交換のためにウズベキスタン共和国のタシュケントに出張し（2016年3月14-19日）、研究資料を収集するとともに現地における最新の研究動向を知ることができた。

- b) 近現代中央ユーラシアで刊行されたロシア語を含む中央ユーラシア諸語による定期刊行物は、これまでの収集活動によって東洋文庫にも少なからず所蔵されており、これを積極的に活用して研究を進めた。
- c) 東洋文庫を拠点に内外の研究者の参集を得て、下記のとおり中央ユーラシア研究会を開催し、最新の研究成果を共有しながら研究を推進した。

Vladimir Bobrovnikov（モスクワ東洋学研究所研究員）“Godless Imagination of Islam” in the Inter-War Soviet Posters, 1918-1940（2015年9月10日）

Daniel Prior（Associate Professor of History, Miami University）“The Bard Sagymbai Orozbaq uulu and His Place in the Kirghiz Epic Tradition”（2015年12月17日）

Tohir Kalandarov（ロシア科学アカデミー民族学・人類学研究所）“Памирские исмаилиты: между прошлым и будущим（パミールのイスマール派—過去と未来の間で）”（2016年1月23日）

③「敦煌・吐魯番資料に見る宗教と社会」

総括 土肥義和*

副総括 氣賀澤保規

石塚晴通*、片山章雄、妹尾達彦*、荒川正晴、關尾史郎、池田 温、岡野 誠

当研究班は「サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵内陸アジア出土漢語文献マイクロフィルム目録のデータベース化」計画にもとづき、漢語文献の整理把握に努めてきた。その結果、非仏典漢語文献の集約はほぼ完了し、現在計画中の「敦煌吐魯番論集」に成果を報告することで一区切りをつける段階を迎えた。これをふまえ本研究では、改めて敦煌吐魯番文書資料研究の原点に立ち戻り、また近年新たに発見、整理された資料も積極的に取り込みながら、その時代と社会の特質や構造の解明に取り組むことを計画している。

敦煌文書や吐魯番文書の時代は仏教が社会に浸透し、人々の日常生活や風俗、社会の規範などを規定したことが知られている。文書中には膨大な仏典

が残され、地域には信仰の対象となる石窟や寺院が確認される。またマニ教やゾロアスター教や道教などの存在も見過ごすことはできない。本研究はそうした多様な宗教が息づいた時代性を意識しつつ、その時代が生み出した諸資料を柔軟に取り上げるが、そのことは同時に、欧米や中国で高まる同時代研究の動向にも対応するものである。

なお当研究班は、長年にわたり戸籍や契約文書などの非仏教社会経済文献研究で実績をあげてきており、今後もこれを重要な柱とすることは変わらない。その上で、宗教や文化の領域とも接点を持ち、また中堅若手研究者も加えて、研究のすそ野を広げていく。

[研究実施概要]

- a) 近年、敦煌・吐魯番文書を中心とする内陸アジア出土の漢語文献資料の報告書や研究論文が相継いで出版された（『新獲吐魯番出土文献』（中華書局、2008年）、『新疆博物館新獲文書研究』（中華書局、2013年）など）。それらの報告や研究の集約と整理を進め、文献目録および文書資料集の整理・作成を進めた。また石窟や石刻資料について新出資料の公表や新情報の入手された場合には、すみやかに共同で議論する場所を用意し認識を深めた。
- b) 国内では、杏雨書屋蔵『敦煌秘笈』全10冊や寧楽美術館蔵『吐魯番文書』などを始めとして、諸機関に所蔵される文書について、仏経関係文書も含めて系統的な把握に努めた。また整理と並行して資料の読解、翻訳を試みた。
- c) 前計画で進めたサンクトペテルブルク所蔵の漢文文献の整理に関わって、なお部分的に残された資料整理とその公表に協力した。
- d) 上記諸項目は共同研究の形をとって進め、若手研究者にも研究メンバーとして積極的に加わってもらい、当該領域の幅を広げることに努めた。研究班はこれまで続けてきた「漢語文書輪読会」を定常化させ、また定期的に関催した「内陸アジア出土古文献研究会」の一層の活発化をはかった。
- e) 研究計画では研究成果の公表の場としてシンポジウムを行う予定であったが、シンポジウムの開催は実施できなかった。しかしその成果の一つとして、研究員である土肥義和・妹尾達彦・片山章雄の三人が、2015年度前期東洋学講座として、7月22日、7月27日、8月3日の三日間にわたって講演会を行った。その報告要旨は『東洋学報』第97巻第4号に掲載された通りである。

(2) チベット研究班

「チベット語文献資料の基礎研究」

総括	吉水千鶴子*
副総括	星泉
仏教思想	川崎信定
敦煌文献	武内紹人
ボン教	御牧克己
歴史	山口瑞鳳
密教図像	立川武蔵
言語	星泉*

(1) 新たに発見された写本を中心とするチベット語資料を収集・保管し、歴史・文化・宗教の各分野にわたるチベット語文献の体系的網羅的なコレクションの充実をはかる。(2) とくに河口慧海請来文献の電子テキスト・データベースを作成し、公開する。(3) 敦煌チベット語文献、河口慧海請来文献、新たに収集した文献を含む東洋文庫所蔵チベット語蔵外文献の写本校訂と訳注研究を行い、成果を刊行する。(4) 以上の3点により、世界的なチベット学の研究拠点として高い貢献を目指す。

[研究実施概要]

- a) 資料収集：近年中国・インドなどで新たに発見された10～13世紀のチベット語写本の影印版収集を継続した。チベット語大蔵経文献、蔵外文献の電子版を購入し、コレクションの体系的な充実をはかった。
- b) チベット人研究協力者の協力のもとに、次の研究を実施した。
 1. 筆記体写本の校訂：河口慧海請来文献の多くは手書きの筆記体で書かれており、一般研究者には解読が難しいものがある。それらをチベット人協力者の指導を得て校訂し、活字体テキスト・データベースを作成した。
 2. 1のデータベースをもとに文献の分析・研究を実施した。
 3. 中央アジア出土チベット語文献の研究を行い、武内紹人研究員を中心に中央アジア出土文献研究シリーズの第2巻“*Tibetan Texts from Khara-khoto in The Stein Collection of the British Library*”を刊行した。

4. チベットの文学について、星研究員を中心に研究を行った。

〈インド・東南アジア研究部門〉

(1) インド研究班

「インド刻文史料の蒐集と研究 (2)」

総括	小名康之*
副総括	太田信宏
ウルドゥー	萩田博
ドラヴィダ	太田信宏*、水野善文、石川寛
アーリヤ	三田昌彦

インド(南アジア)の刻文研究は、これまでわが国でごく僅かな研究者しかいなかったが、近年、ドラヴィダ系言語について石川寛、太田信宏、アーリヤ系言語について三田昌彦、古井龍介といった若手研究者が育ってきた。刻文は、「史書なきインド」の古代・中世史研究における根本史料であるにもかかわらず、そのようなこれまでの状況から、わが国においては、テキストおよび研究書の蒐集が充分とは云えない。

他方、インド自体での刻文研究は、テキストの出版が遅れていることと、若手研究者が育たないことによって、危機的な状況にあるとさえ言える。また、世界的にも、インド刻文の研究者数は、極めて少ない。

そのような状況に鑑み、わが国の研究機関において、未出版のものをも含めてインドの刻文史料を蒐集し、それを国際的に公開しながら、わが国の新しい研究者の力を結集して、インド古代史・中世史の研究進展を図ることは、わが国のインド研究に課せられた急務と言えよう。

[研究実施概要]

- a) 東洋文庫に所蔵のない史料・遺跡について、現地で調査した。とくに、研究メンバーの一人が2016年3月に南インドで調査を行い、カルナータカのダールワーダにおいて行われたインド刻文学会に関して、近年の研究動向の情報と関連文献の収集につとめた。
- b) 研究班メンバーおよびインドの研究協力者が共同し、古代・中世の国家

構造と社会統合を、インドにおける南北文化の歴史的相違と関連させて考察した。インド史研究者との交流を行い、全体的な研究の進展を図った。

- c) “*Medieval Religious Movements and Social Change: A Report of a Project on the Indian Epigraphical Studies*” を刊行した。また、2013 年度に東南アジア研究班と共同で行った国際シンポジウム *State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia* の英文報告書の出版への整理を行った。

(2) 東南アジア研究班

「近現代東南アジア史料研究」

総括	弘末雅士*
副総括	嶋尾 稔
	青山 亨、北川香子、坪井祐司、島田竜登、東條哲郎、 牧野元紀◎

近代日本と東南アジアは、明治期の後半から緊密な関係を有し始め、第2次世界大戦期に日本は東南アジアを軍事占領した。また戦後日本は、東南アジアと緊密な経済関係を形成するに至っている。こうしたなかで日本の東南アジア研究も、この40年間に飛躍的な発展をとげた。ただし日本の東南アジア研究は、第二次世界大戦後にいきなり始まったわけではない。すでに大正期より東洋史の東西交渉史の一分野として南洋史が注目を浴び、また南洋ブームの高まりとともに経済関係の文献も出版されていた。そして第二次世界大戦期には、翻訳本も含め多数の東南アジア関係の文献が出版された。これらの文献は、一部の実証研究を除いて、学術的にあまり注目されてこなかった。しかしそれらは、日本の東南アジア観を検討するためのみならず、東南アジア社会を考察する上においても、重要な史料となりうる。本研究は、日本の東南アジア関与という観点からのみならず、当時の東南アジアの社会統合に果たした日本人の役割の観点からその記述を検討し、日本人を始め中国人やインド人さらにはアラブ人や欧米人など多様な人々が居住した20世紀前半期の東南アジア都市の特質について研究する。合わせて前近代や現代の東南アジアの都市との比較研究を行い、社会統合や広域ネットワーク形成に果たすその歴史的役割を検討したい。

[研究実施概要]

- a) 研究班のメンバーと関係研究者による研究会を8月に開催し、近現代ならびに前近代の東南アジアの都市の成り立ちや住民構成、構築したネットワークの特質について検討した。そうしたなかで植民地期の都市の社会統合が、のちの新生国家の国民統合の基盤を形成しただけでなく、その後の外来系住民と現地人との確執をはじめ、エスニシティ問題や国籍問題などの背景も醸成したことが明らかとなった。とりわけ2015年度には、それまでコスモポリスであった東南アジア諸都市のハイブリッドな空間が、植民地期においてどのように変容したのかに考察の力点をおいた。そのための史料収集や訪問調査を、インドネシアとオランダで行った。これらの成果をまとめて、2017年度に出版する計画について話し合った。
- b) 明治期から第二次世界大戦前夜までの日本の東南アジア関係の文献について、情報を整理し、そのデータベース化を進めた。合わせてそれらの文献の特質について検討した。そのデータベースならびに検討結果をまとめて、2017年度に出版する計画について話し合った。また東洋文庫が所蔵する故仲田浩三氏の東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料の整理を進めた。それらは、前近代の都市の役割を検討するための重要な資料であり、その目録刊行を2017年度に行うことを話し合った。

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班

「イスラーム地域の比較制度研究」

総括	三浦 徹*
副総括	近藤信彰
アラブ	大河原知樹*、佐藤健太郎、高野太輔、原山隆広◎
トルコ	永田雄三、林佳世子、高松洋一、秋葉 淳*
イラン	清水宏祐、近藤信彰*、守川知子
中央アジア	堀川 徹*、磯貝健一、矢島洋一

イスラーム地域の文書史料（土地台帳・財務帳簿・勅令などの行政文書、

イスラーム法廷文書、ワクフ文書、契約文書など)、叙述史料(年代記、地誌、伝記集など)、法令・法学書をもとに、社会制度や規範の地域間(アラブ、イラン、トルコ、中央アジア)の比較研究をすすめる、イスラーム地域の社会システムの共通性と異質性、および歴史的変化を明らかにする。日本からの研究発信であることを重視し、中国や日本社会との比較の視点に留意し、東洋文庫の他の研究班との研究交流をすすめる。

研究活動としては、前期(イスラーム世界の契約)につづき、ワクフ研究およびヴェラム(モロッコの契約文書)研究を二つの柱とする。ワクフや契約の基盤となる法制度、行政組織、社会関係についても広く研究をすすめる。

NIHU イスラーム地域研究東洋文庫拠点の研究活動と連携し継承し、国内の文書研究プロジェクト(京都外国語大、東京外国語大アジア・アフリカ言語文化研究所など)、および海外の研究機関(フランス CNRS、ウズベキスタン科学アカデミーなど)や研究者と連携し、国際的なネットワークを形成する。

[研究実施概要]

- a) ワクフ研究 ワクフ(宗教的寄進)は、都市や農村の宗教施設を建設するだけでなく、経済基盤となり、政治権力者、名士、民衆の結びつきをつくった。個人や家族にとって、財産保全、金融、投資、年金の役割をもち、その現代的な意義も注目されている。フランス CNRS 国際共同研究(GDRI)と連携し、2015年12月には、総合アジア圏域研究班により、「ワクフ(寄進)の比較: 東方から Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations」を開催し、中央アジア、南アジア、中国、東南アジア、日本の寄進との比較により、一族の財産継承と融資と慈善という共通性ととともに、英仏の植民地統治下での変容が明らかとなった。また、イランのイマームレザー廟のワクフ資料の校訂出版の準備を進めた。
- b) ヴェラム文書研究 東洋文庫が所蔵するヴェラム文書(皮紙に書かれたモロッコの契約文書、16-19世紀)について、2014年度に8点の文書(1989年購入)のアラビア語テキスト校訂と解題・研究(英文、仏文)を刊行し、売買や相続などの契約、書式や公証人や裁判官の役割、文書の伝世などを明らかにした。2014年度にあらたに皮紙11点、木片29点の類似文書を購入し、15年度には、当該の文書の解読・研究を、月例講演会や研究合宿によってすすめる、モロッコの研究者(Bouchantouf ムハンマド5世

大学教授)による校閲点検作業も行った。

C. 資料研究

資料研究では、アジア諸地域の現地研究機関・図書館との学術交流を積極的に進めていくことにより、新たな分野の資料群を探索・収集し、研究図書館としての東洋文庫の一層の充実が見込まれる。

〈資料研究部門〉

東アジア資料研究班

「東アジア資料の研究 (2)」

総括	斯波義信◎*
副総括	上田 望 田仲一成◎*
日本	浅野秀剛、片桐一男、吉田伸之
中国	丘山 新、尾崎文昭、片山 剛、佐藤慎一、戸倉英美、 濱下武志◎*、馬場英子、末成道男
朝鮮	藤本幸夫
内陸アジア	森安孝夫
情報	廣瀬紳一

中国、台湾、香港、東南アジア華人社会などに所蔵される文献資料の探索、各国図書館との国際的情報交換・資料交換・人的交流を目指す。

〔研究実施概要〕

- a) 台湾中央研究院歴史語言研究所から提供を受けている漢籍文献資料庫の運営、及び同研究所に対する資料提供の業務を遂行した。資料庫の利用頻度は、2012年度423回、2013年度387回、2014年度106回と低調に推移してきたが、2015年度は、733回と急伸した。今後も更なる利用を期待したい。また、中国人民大学副教授呉真博士を招聘し、日本国内の民俗祭祀に関する現地調査(将来、データベース構築)を共同して行った。

- b) モリソンパンフレット、歴史の部 1,528 コマ (3,056 頁) をウェブサイト
に公開した。
- c) 東アジア全域 (中国、韓国、日本) の祭祀資料の現地調査を続行している
が、報告書の刊行よりもデータベースの構築を優先させたい。

D. 地域研究プログラム

(1) イスラーム地域研究資料室

「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」

室長 三浦 徹*
堀川 徹*、近藤信彰*、高松洋一*、大河原知樹*、
磯貝健一*、秋葉 淳*、渡辺浩一、柳谷あゆみ、
原山隆広◎*、徳原靖浩

国内主要図書館における現地語史資料の所蔵と整理の状況、インターネットを含む検索・利用環境、そして研究の動向などを総合的に踏まえた上で、現地語史資料の体系的収集を継続し、共同利用を促進する。調査やアラビア文字資料司書連絡会等で得た情報や要望に基づき、現地語史資料の整理・書誌データ作成のための資料や補助ツールの作成と公開、「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」の編集をはじめとする関連データベースの拡充、国内・海外の現地語史資料の概要が把握でき、検索が容易になるような情報を収集し、逐次ウェブサイトなどを通じて発信を行う。また、史料研究について、原典講読会および国内研究機関との連携による研究活動を実施し、研究情報の共有と若手研究者の育成をはかる。これらによって、史料および研究文献の収集と整理 (情報化) と利用の 3 つの局面を連結したサイクルを築き、国際的な共同利用にむけた環境改善をはかる。

[研究実施概要]

- a) 現地語資料および欧文研究書等の収集を行うとともに、整理に力を入れ、これまでに NACSIS-CAT に登録した書誌の見直しを行った。「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」の 1,000 件のデータ更新を行い、イスラーム地域をめぐる国際情勢の変化にも対応した最新の文献情

報の公開を行った。「卒論を書くための情報検索リテラシーセミナー」に代わり、ウェブサイト上で現地語資料の検索法を解説する「イスラーム地域研究 現地語資料の探し方 (2015年版)」および検索スキルをチェックするクイズを公開し、イスラーム地域研究プログラム終了後も学生が現地語資料の検索法を学ぶことができるようにした。また、アラビア文字資料司書連絡会を開催し、メーリングリスト等により図書館担当者のネットワークの維持をはかることとした。

- b) 史料研究では、シャリーアと近代研究会は、8回の研究会を開催し、オスマン民法典第3編(保証)の訳を終えるとともに、第1編(売買)の訳を見直し、3月に『オスマン民法典(メジェッレ)の研究 売買編』(大河原知樹・堀井聡江・シャリーアと近代研究会編)として刊行した。また、「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開」研究会、近代中央ユーラシア比較法制度史研究会、オスマン史研究会、オスマン文書セミナー、中央アジア古文書研究セミナーを開催し、文書史料を用いた研究の推進と学生や若手研究者の育成を図った。IAS第5回国際会議でセッション「The Shari'a Courts and the Imperial Ruling System」を主宰し、ワクフに関する国際シンポジウムを東洋文庫で開催したほか、合同集会「地域を知る、歴史から考える：交差する中東・南アジア・中央アジア」の企画を行い、史料研究の国際的なネットワーク形成と一般への普及に成果をえた。

(2) 現代中国研究資料室

「日本における現代中国資料の情報・研究センターの構築：

資料の長期的分析による現代中国変容の解明」

室長 土田哲夫*
高田幸男*、内田知行、大澤 肇*、貴志俊彦*、
久保 亨*、小浜正子、田中 仁、中村元哉*、
内山雅生*、瀧下彩子◎*、相原佳之

東洋文庫所蔵の現代中国関係資料につき、解題、目録やデータベースの作成などの形で利用の促進を図る。また、現代中国関係資料を所蔵する国内諸機関との連携を強化し、現代中国関係資料の系統的・効率的収集のための情

報交換を行う。海外における大型資料やデータベースの公開に関わる情報を収集し、必要に応じて共同購入・共同研究を行う。また事業計画4年目にあたる2015年度は、これまでの資料研究活動の成果を、論文集・資料解題などの形で公表していくことに重点をおく。

[研究実施概要]

- a) 資料利用環境の整備および国内外諸機関との連携については、国立情報学研究所との連携により NACSIS-CAT への書誌登録を継続して行った。本年度中に約 1,200 タイトルの東洋文庫近代中国研究委員会（現・近代中国研究班）収集資料および現代中国資料が登録され、登録タイトル数は 57,000 件あまりとなった。
- b) 電子図書館についても、引き続き拡充に努めた。画像をインターネットで完全公開している資料は 586 タイトル、公開画像数は 51,000 画像あまりに増加した。また、利用環境の向上を継続した。
- c) 資料研究活動については、5つの研究班のもとで活発におこなった。研究班集体制の四年目として、過去三年間の実績をもとに、他機関・他大学との共催も含めて計 14 回の研究会・シンポジウムが開催された（江南地域社会班 6 回、図画像資料班 1 回、ジェンダー資料班 3 回、政治史資料班 2 回、1950 年代史料班 2 回）。
- d) 活動の成果として、中国ジェンダー史の基本英文著作の翻訳『性からよむ中国史——男女隔離・纏足・同性愛』、論文集『ジェンダーの中国史』、近代中国の知識人が残した手書き日記の一部を活字化し注釈をつけた「王清穆『農隱廬日記』(5)」(『近代中国研究彙報』所載)を公刊した。また 2014 年度公開の「『亜東印画輯』データベース」を人間文化研究機構の統合検索データベースと連携させることで検索方法を多様化し、利便性を向上した。さらに東洋文庫研究部と共同で、東洋文庫に所蔵される原資料の解題つき目録『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』を公刊した。
- e) 最終年度たる 2016 年度にも、各研究班の活動をもとに研究入門、論文集、基本史料解題等の出版や、写真展の開催、データベースの拡充などの形態で成果公表が予定されており、本年度の活動によってそれらの公表に目処をつけた。

E. 日本学術振興会科学研究費による調査研究

(1) 研究成果公開促進費（データベース等）

①「東洋学電子図書館情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である（公財）東洋文庫が90年にわたり収集してきた言語種類50数種、部数500,000件、冊数1,000,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、図像・地図などの画像資料、Video・DVDなど動画資料をふくむマルチメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにすることを目指している。書誌データは1994年度に入力を開始して以来、約20年を経て、1,066,023件に到達し、完成の目処がいつてきた状態にあり、これを踏まえて、2004年度以降は、デジタル撮影の手法によるマルチメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約6,000件、1,000,000コマを超える貴重書フィルム（35mm）を所蔵している。これをスキャナーにより画像にとりこみ、全頁データベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。さらに1970年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関する写真やVideo資料をデータベースとして公開する計画も一部実行して来ている。これらの努力の結果、訪問者数については、公開を開始した2002年度において、毎月2,000件であったものが、2015年3月末の段階では、その213倍の426,000件に達した。これは5年前の2009年3月末における毎月98,000件にくらべても、4倍の伸び率を示している。また、訪問者数に検索数を加えたアクセス数は、統計を取り始めた2009年1月において、489,000件であったが、2015年3月末では、その5倍の2,500,000件に達している。これらのアクセス数の増加は、主に画像資料の公開によるところが大きい。これを踏まえて、本年度も、文献資料のデジタル画像、現地での撮影写真、及び動画の拡大に重点を置いて、電子図書館のバランスと充実に努め、一層のアクセス数の増加に努めたい。

[研究実施概要]

a) 画像データ

- ・地図（中国帝国図、江戸内府図など） 新規公開 10 件 399 コマ
- ・風景、浮世絵・美人画・奈良絵本・挿絵など 新規公開 26 件 1,148 コマ
- ・モリソン文庫（香港銅版画・水彩画など）
- ・梅原末治考古資料画像データベース
- ・中国祭祀演劇関係写真資料データベース

b) 全頁データ

- ・岩崎文庫（総合、古籍善本）
- ・洋古書（宣教師文書、旅行記）
- ・モリソン・パンフレット 新規公開 156 件 2,250 頁、分類 1,362 件
- ・雑誌『北支』昭和 14 年 6 月～昭和 18 年 8 月

c) 動画データ

- ・中国祭祀演劇関係動画 新規公開 2 種
 - 香港の祭祀と演劇（概観）
 - 香港広東正一派道士の儀礼
- ・儺舞・儺戯 新規公開 1 種
 - 憑依・降神儀礼
 - 目連戯
 - 元宵祭祀
 - 広東劇
 - 海陸豊劇
 - 潮州劇 新規公開 1 種
 - 莆仙劇
 - 廣東漢劇
- ・東アジア人類学関係動画 新規公開 4 種 17 本

② 「日本における中東・イスラーム研究文献目録データベース 1868-2015」

[東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室室長：三浦 徹]

人間文化研究機構（NIHU）プログラムイスラーム地域研究東洋文庫拠点のウェブサイトにて公開中の「日本における中東・イスラーム研究文献データベース（日本語版）」（53,400 件）は「情報処理システムの高度化」と「国

際化」を目的とする。日本における中東・イスラーム研究の進展はめざましく、ここ 10 年で研究書・論文は約 2 万件、毎年 2,000 件が刊行され、英語のみならず中東諸言語で書かれた文献も増加している。中東・イスラーム地域の諸問題は国際社会の焦眉の課題であり、日本と中東地域との関係が緊密化する中で、信頼できる情報や知識が求められている。本データベースは、明治から今日までの日本における研究文献を網羅する目録データベースで、このニーズに応えるものである。本申請計画によって、文献情報収集・情報検索・文献入手のシステムの高度化を進めるとともに、本データベース国際版を作成し、双方をインターネット上で公開する。中東・イスラームに特化した研究文献目録は国内外にも類例がなく、国際版公開により海外の利用者もまた、オンラインで容易に文献を検索しアクセスすることが可能となり、我が国の中東・イスラーム研究の発展と国際的な情報発信に寄与することができる。東洋文庫は、人間文化研究機構イスラーム地域研究プログラムにおける史資料センターの役割を担い、研究文献の情報収集を、本プログラムおよび日本中東学会など関係学会と連携し効率的にこれを進めうる体制を築いている。

[研究実施概要]

公開中の日本語版 (<http://search.tbias.jp/>) (公開件数 53,400 件) サイトの検索システムをリニューアルし、英語 (国際) 版 (公開件数 6,224 件) のサイト (<http://search.tbias.jp/en/books>) を作成および公開し、英語 (国際) 版と日本語版のサイトを相互にリンクした。検索項目を追加することにより検索が簡単になり、さらに検索結果に、ISBN/ISSN (国際標準図書番号 / 国際標準逐次刊行物番号)、NCID* (NACSIS-CAT の書誌レコード ID)、NAID* (NII 論文 ID)、DOI (Digital Object Identifier = デジタルオブジェクト識別子)、を追加表示させるとともに、アラビア文字、キリル文字を含む UTF8 (Unicode Transformation Format-8) 文字表示を採用し、国際化を図った。上記のシステム改良によって検索結果から文献所蔵情報へのリンクが容易になり、利用環境が改善された。

*国立情報学研究所 (NII, National Institute of Informatics) が運営する学術論文や図書・雑誌などの学術情報データベース CiNii で表示される識別子。

③ 「中国鎮魂演劇研究」

[研究代表者：田仲 一成]

中国人学者による従来の演劇史研究においては、演劇と宗教の関係を重視せず、中国でもっとも早くその演目を記録された祭祀演劇である「目連戯」についても、ほとんど研究が行われてこなかった。演劇を社会との関連で考察する視点が全く欠けていたからである。特に1949年以降は、宗教や祭祀は迷信と見なされて禁圧され、道士僧侶も村落で祭祀活動を行うことはできなかった。それが1980年代に入り、開放改革の方針のもとで宗教迷信として禁じられてきた農村祭祀が復活し、江南を中心とする中国各地の目連戯も徐々に復活してきた。研究についても、1987年に、湖南で第1回目連戯検討会が開かれ、その後、安徽、湖南、福建、四川など、1994年までに5回に及ぶ会議が連続して開かれ、その都度、会議開催地の目連戯が上演された。この間、地方に残る多数の目連戯テキストも、内部発行という限定付きながら、徐々に公刊されてきた。しかし、これらの目連戯は、各県文化局単位で研究されているため、全体を見渡して、目連戯の歴史的展開や伝播の過程を全国的な視野で検討し、演劇史的に位置づける研究は、いまだ現われていない。全国的な資料を掌握できる立場にある中国芸術研究院も、まったく資料を公開してきていない。そのため、1987年以来、すでに30年を経た現在も、目連戯の資料は、分散したまま、体系的研究の開始の見通しも立っていない。本研究は、この隘路を打開するため、1988年以来、4回の日連戯検討会に参加し、各地の日連戯を見聞し、テキストを集めてきた研究蓄積を生かし、目連戯の発生、発展、伝播の過程を体系的に検討したものである。

[研究実施概要]

田仲一成著『中国鎮魂演劇研究』1冊 東京大学出版会刊

(2) 基盤研究B

① 「ワクフ（イスラーム寄進制度）の国際共同比較研究」

[研究代表者：三浦 徹]（2013年度採用、4ヶ年間・第3年度）

本研究は、フランス国立科学研究院（CNRS）国際共同研究「ワクフ」（2011-15年、研究代表者 Randi Deguilhem エクサンプロヴァンス・地中海人文科

学研究所教授)と連携し、イスラーム地域(中東・中央アジア)において、ワクフ(イスラーム寄進制度)によって形成される社会経済関係を分析し、寄進財に関わる国家、集団、個人の3者の社会関係を明らかにする。CNRSの国際共同研究にはアラブ諸国を中心に10機関が連携し、(公財)東洋文庫研究部を中心に、トルコ・イラン・中央アジアの研究者、さらにはヨーロッパ・中国・日本の寄進制度の研究者を組織した本研究計画を実施することによって、国際的なワクフ・寄進制度の社会機能に関する比較研究を行い、宗教と経済が結びついた社会のあり方を分析する。

[研究実施概要]

本研究は、ワクフを単にイスラーム史の文脈で説明するのではなく、他の地域の寄進・寄付と比較し、その歴史的・社会的意味を明らかにすることにある。このため、2011年度に開始されたCNRS(フランス)の国際共同研究事業(エクス・マルセイユ大学を中心に東洋文庫を含む9機関が参加)と連携し、フランス、アルジェリア、チュニジア、パレスティナ、アンカラなどで国際会議を行ってきた。2015年度は、東洋文庫において、国際シンポジウム Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations(12月5-6日、東洋文庫総合アジア圏域研究班と共催)を開催した。ワクフを「私有財(不動産)を一族や慈善のために永久的に寄進すること」と規定し、対象地域を東方(中央アジア、南アジア、東南アジア、東アジア)へと拡大し、それぞれの地域・時代における寄進の社会経済的な役割を討議した。海外から10名の研究者を招聘し、「利益 Benefit」「ネットワーク」「変化 Transition」の3つのセッションを構成し、11名の研究報告をもとに総括討論を行った。南アジアや東南アジアについての報告では、イギリスの植民地支配の拡大にともなって、ワクフの定式化(法制化)が進んでいったことが明らかにされた。また、明清時代の中国における祠堂や鎌倉・室町時代の土地寄進の盛行は、とりわけ欧米や中東の研究者に、ワクフとの共通の観点を喚起した。本シンポジウムをもとに、英文論集を刊行するとともに、事例研究をもとにデータベースを構築し、相互に情報を共有していくこと、国際集会を継続開催していくことが確認された。

②「戦前・戦中期における華中・華南調査と日本の中国認識」

[研究代表者:本庄 比佐子](2015年度採用、5ヶ年間・初年度)

戦前・戦中期の中国において、日本の様々な研究調査機関が実施した調査活動資料は、戦後に至ると個別分散的にしか分析されてこなかった。本研究では、戦前・戦中期の中国での調査活動報告等を整理するとともに、その調査内容の実態を究明し、同時期の中国側資料や、近年の中国での研究成果などを比較検討し、当該時期における中国全体の政治・経済・社会文化、ならびに日中関係の特質を、歴史的総合的に考察する。特に、研究対象地域としては、従来の研究では個別にしか取り上げられてこなかった華中・華南地域を中心に、華北に関する研究成果も加えて、中国全土に関する日本の調査研究の全体像を明らかにする。

[研究実施概要]

研究開始年度として、国立国会図書館をはじめとする国内の資料館、研究機関における資料収集に重点を置いた。また、中国と台湾における関係資料の所蔵状況について把握すべく、李培徳氏（香港大学客員研究員）、陳慈玉氏（台湾中央研究院近代史研究所研究員）を招き、それぞれ「香港和日本的関係：課題、方法と史料」（7月31日）、「台湾銀行の華南調査について」（11月29日）の報告を得た。

特に、台湾中央研究院が所蔵する台湾総督府や台湾銀行などの報告調査文書については、同研究院近代史研究所の協力を得て、その状況調査を進めた。

なお、2016年2月末に予定していた台南市立図書館等における文献調査等については、直前に発生した地震による現地の状況を鑑み、十分な調査を行うため翌年度に実施することとした。

(3) 基盤研究C

「宋～明代日用類書の基礎的研究」

[研究代表者：大澤 正昭]（2015年度採用、4ヶ年間・初年度）

宋代から明代までの日用類書を調査して整理し、そこに記載された、項目に関する一覧および記事についての語彙解・訳注の作成など、日用類書研究の環境を整備するための条件を整える。そのうえで歴史学研究への利用方法を検討する。具体的には次のような調査および研究を行う。

a) 日用類書の国内所在目録、項目一覧および関連研究の文献目録を作成す

る。

- b) 研究対象とする日用類書について詳細な解説を試みる。そのために、1. 古今の辞書・辞典類及び索引・語彙解などの工具書類を調査し、収集する。2. 中国文学研究など関連分野の研究成果を調査・収集する。3. 当面の研究対象とすべき日用類書の記事に即して、語彙・用例の収集をおこない、文意の解釈について検討する。
- c) 以上の成果に基づき、従来の歴史学研究の課題と対照して新たな問題の提起をおこなう。その際、とくに注目する課題は基層社会の歴史的特質である。

[研究実施概要]

a) 共同研究

東洋文庫における研究会を、研究計画相談会も含めて計12回開催した。初回を除き、各回に『三台万用』の律例門、商旅門、算法門を中心に訳注の検討をおこなった。この研究会の成果として、大澤は『『三台万用』巻八律例門（下層）試行本』を作成することができた。これをもとに専門家の意見を聴取するため研究報告を二回おこない（中国史研究会、東洋文庫「法と社会」研究会）、貴重な意見が得られた。内容を修正して2016年度には東洋文庫のホームページに公開する予定である。また、斯波は商旅門の訳注をおこなってきたが、まもなく終了する見通しである。渡辺は算法門の解釈のため先行研究の理解を深めている。

他方、徳永は基礎的作業として法制史関係の語彙収集を進めてきた。2015年度は大量のカードを作成し、整理作業を進めている。2016年度には、最初の語彙目録索引ができあがる予定になっている。

b) 個別研究

大澤が主導して二種類の目録作成作業を進めた。すなわち国内の「日用類書所蔵目録」と国内外における「研究論文目録」である。両目録とも初歩的作業が終わり、確認作業を進めている。ただこの作業中に判明したことであるが、中国における研究論文の公表数が極めて多く、その水準の確認に手間取っている。

また大澤は元代の日用類書『居家必用事類』に収録された農書『山居要術』の復元作業を進めてきた。2015年度は訳注（その2）を発表した。この作業は引き続きおこなっていく。

(4) 若手研究B

「ジャウイ史料の利用によるマレー民族の形成過程の研究」

[研究代表者：坪井 祐司] (2012年度採用、4ヶ年間・最終年度)

『カラム』を中心としたジャウイ（アラビア文字表記のマレー語）の定期刊行物の分析を通じて、脱植民地化期の島嶼部東南アジアにおけるマレー人という民族集団の形成過程を再検討する。1950、60年代のシンガポールにおいてアラブ系の編集者により発行された月刊誌『カラム』（京都大学所蔵）の分析に加えて、海外におけるジャウイ定期刊行物の収集、分析により、マレー民族の形成に外来者が果たした役割を再検討する。これにより、マレーシア（マラヤ）のナショナル・ヒストリーの枠内で単線的にとらえられてきた従来のマレー民族概念を相対化し、その形成過程を島嶼部東南アジアの脱植民地化における多様な勢力の競合の結果として動的に描くことを目指す。

[研究実施概要]

1950、60年代にシンガポールで発行されたジャウイ雑誌『カラム』に関して、京都大学地域研究統合情報センターにおける共同研究（「1950・60年代の東南アジア・ムスリムの社会史」）を組織し、メンバーと連携しながら研究を進めた。『カラム』の記事本文が検索可能なデータベースの構築を進めるとともに、共同研究の成果をディスカッションペーパーとして発行した。ここでは、執筆者だけでなく読者にまで分析対象を広げるため、読者投稿をもとにした質疑応答コーナー「千一問」を抽出して分析を行った。そして、読者は結婚などの家族関係や仕事・職場において多様な出自を持つムスリムや非ムスリムと日常的な交渉を持っており、価値観が錯綜する多民族社会のなかで宗教的な正しさを模索したことを明らかにした。これは、マレー民族の形成要素としてのイスラムの重要性を示しており、世俗的な民族主義に関心が集中する当該時期の先行研究の再検討を迫るものである。この成果をもとに、2016年2月にマレーシアで開催した国際セミナーで報告し、現地の研究者と議論を行った。

それとともに、1930年代のジャウイ新聞『マジュリス』とそれを取りまく言論空間の研究を進めた。シンガポール、マレーシア、イギリスにおいて『マジュリス』および同紙が参照している英語紙や行政史料の収集を行い、その

分析結果を国内外の学会で発表し、成果を論文にまとめた。そこでは、同紙がマラヤにおけるマレー人の政治的権利をめぐる英語紙と頻繁な論争を行ったこと、その主要な論点はマレー人の定義であり、マレー民族の境界線は非マレー人との相互作用を通じて形成されたことを論じた。

二つの事柄から、多民族社会のマラヤにおける脱植民地化の過程において、他者との関係性のなかからマレー民族が形作られたこと、社会を媒介するジャウィによる言論活動が重要な役割を果たしたことを示した。

F. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷 佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
相原 佳之	中国明清時代環境史
青木 敦	宋代の法と経済
青山 亨	古代ジャワ史・ジャワ文学研究
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会および制度
浅田 進史	独中関係史
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
天児 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 明子	東南アジア大陸部北部の歴史
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
飯島 涉	医療社会史
池田 温	中国中古史、前近代東亜文化交流史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
石川 寛	南アジア史
石川 重雄	中国巡礼社会史の研究
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	大清国家構造論
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究

研究員名

井上 和枝
 井上 和人
 今西祐一郎
 上田 望
 上野 英二
 内田 知行
 内山 雅生
 梅田 博之
 梅原 郁
 梅村 坦
 宇山 智彦
 江川ひかり
 江南 和幸
 遠藤 光暁
 大江 孝男
 大河原知樹
 大里 浩秋
 大澤 肇
 大澤 正昭
 太田 啓子
 太田 信宏
 太田 幸男
 大谷 俊太
 岡崎 礼奈
 岡田 英弘
 尾形 洋一
 岡野 誠
 岡本 隆司
 丘山 新
 小川 裕充
 小川 快之
 奥村 哲
 尾崎 文昭

研究課題

朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
 東アジア古代都城制度の比較研究
 源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
 中国長編小説
 平安朝文学の研究
 中華民国社会史
 近代中国華北農村経済史
 現代朝鮮語の記述的研究
 宋元時代の法制制度の研究
 ウイグル民族誌、内陸アジア史
 中央アジア近代史・現代政治
 トルコ社会経済史
 金属材料学、里山学、文化財科学
 中国語音韻史・方言学
 現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究
 19-20世紀シリアの社会史・政治史
 清代末期の革命思想、日中関係史
 近現代中国における学校教育史
 唐宋時代社会史
 アラビア半島・紅海文化圏の歴史
 南インド近世史
 秦墓竹簡の研究
 室町・江戸時代文学の研究
 日本近代美術史
 世界史
 近現代中国政治外交史
 前近代中国の王権・国家・法／敦煌吐魯番文献
 近現代中国外交史
 中国仏教資料研究
 中国絵画資料研究
 中国宋代から清代の社会史、社会生活史、法制史
 中国近現代史
 20-21世紀中国の文学

研究員名	研究課題
小田 壽典	古トルコ語仏教文献の研究
小名 康之	インド・ムガル時代史
小沼 孝博	中央ユーラシア史、17-19世紀の新疆史
梶谷 懐	中国の財政金融改革
粕谷 元	トルコ現代史
糟谷 憲一	18-19世紀朝鮮政治史
片桐 一男	日蘭文化交渉史の研究
片山 章雄	中央アジア古代史
片山 剛	広東農村社会史研究
加藤 直人	清朝の民族統治政策・清代檔案史料の研究
加藤 弘之	地域開発の現状と政策に関する実証研究
金沢 陽	中国陶磁器研究
金子 修一	中国古代史
金丸 裕一	中国政治経済史・日中関係史
川井 伸一	中国企業研究
川合 安	六朝貴族制の研究
川崎 信定	チベット仏教の研究
川島 真	近代中国外交史
貴志 俊彦	東アジアの通信メディアとめぐる比較史的研究
岸本 美緒	明清時代地方社会史
北川 香子	カンボジア史
北村 文夫	現代中東問題の研究
北本 朝展	デジタル・アーカイブ
橘堂 晃一	ウイグル古文献学
金 鳳珍	東アジアの歴史・思想・国際関係
楠木 賢道	清代東北史、清朝史
久保 亨	中国近現代史
窪添 慶文	魏晋南北朝時代史
久保田 淳	日本中世文学、和歌文学
熊本 裕	イラン語史の研究
黒田 卓	近現代イラン史
氣賀澤保規	隋唐政治社会文化史
巖 善平	中国の三農問題

研究員名	研究課題
黄 東蘭	近代日中関係史
高野 太輔	初期イスラーム史
興梠 一郎	現代中国論・中国現代史
小嶋 芳孝	渤海文化の考古学的研究
小杉 泰	現代イスラーム政治の研究
後藤 明	イスラム社会と政治の研究
小浜 正子	中国ジェンダー史・中国近現代社会史
小松 久男	中央アジア近代史
小南 一郎	中国藝能史研究
近藤 信彰	イラン史・ペルシア語文化圏史
齋藤真麻理	中世日本文学の研究
早乙女雅博	東アジア考古学の研究
櫻井 徹	在留外国人コミュニケーション誌の現況について
佐藤健太郎	マグリブ・アンダルス史
佐藤 慎一	中国近代政治資料研究
佐藤 宏	農村経済社会の長期変動
佐藤 仁史	近現代江南農村社会史研究
澤江 史子	現代トルコ政治
塩沢 裕仁	中国古代歴史地理研究
設楽 國廣	オスマン帝国末期政治史
蒨 勇造	南アラビア古代史
篠木 由喜	博物館展示・教育論
篠崎 陽子	前近代中国文化史
斯波 義信	中国社会経済史
嶋尾 稔	ベトナム史
島田 竜登	東南アジア経済史、海域アジア貿易史
清水 宏祐	セルジューク朝時代イランの研究
清水 信行	古代の日本・大陸交流史
志茂 碩敏	13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究
徐 小潔	近代日中関係史、コディコロジー
城山 智子	近現代中国の通貨・金融システム
真道 洋子	イスラーム・ガラス文化史
新免 康	中央アジア史

研究員名	研究課題
末成 道男	東アジア社会人類学
須川 英徳	高麗・朝鮮時代の商業
杉山 清彦	大清帝国史
鈴木 恵美	近現代エジプト政治史
鈴木 董	トルコ史
鈴木 均	イランおよびアフガニスタンの地域研究
鈴木 博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木 立子	元朝社会経済史
砂山 幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾 達彦	中国古代・中世都市史
關尾 史郎	敦煌・トルファン文書研究
関本 照夫	東南アジア伝統工芸業の研究
曾田 三郎	中国近代政治・社会史
高田 幸男	中国近代教育社会史、近代東アジア教育交流史
高遠 拓児	清代における刑罰制度の研究
高橋 英海	西洋古典学
高松 洋一	オスマン朝史、古文書学、アーカイブズ学
瀧下 彩子	近現代中国社会文化史
武内 紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武内 房司	中国近代宗教社会史、近代中国・ベトナム関係史
武田 幸男	朝鮮古代・近世史
田島 俊雄	東アジア経済
多田 狷介	漢魏晋史
立川 武蔵	チベット密教教理の研究
田中 明彦	現代東アジア国際政治の研究
田中 一成	中国演劇史
田中 時彦	日本の政治的近代化の研究
田中 仁	中国近代政治史、初期中国共産党史
田中比呂志	近現代中国の社会統合の研究
C. A. ダニエルス	清代社会経済史、中国技術史
千葉 昶	宋代宮廷史
ペーター・ツイーメ	古ウイグル文献学
塚原 東吾	科学史・科学哲学、STS

研究員名	研究課題
辻本 裕成	中古・中世日本文学の研究
土田 哲夫	中国近現代史、国際関係史
坪井 祐司	マレーシア近代史
鶴見 尚弘	明・清時代社会経済史
寺田 浩明	中国明清法制史
唐 成	現代中国金融の研究
唐 亮	現代中国政治史の研究
東條 哲郎	マレーシア近代社会経済史
徳永 洋介	中国近世史
徳原 靖浩	ペルシア文学、イラン思想史
戸倉 英美	中国古典文学資料研究
朽尾 武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
土肥 祐子	宋代海外貿易史
土肥 義和	西域出土漢文文書の研究
富澤 芳亜	中国近代経済史
鳥海 靖	日本近現代史
中兼和津次	現代中国経済・移行経済の研究
長沢 栄治	近代エジプト社会経済史
永田 雄三	オスマン帝国社会経済史
中谷 英明	インド仏教学
長縄 宣博	帝政ロシアのムスリム社会と国家
中見 立夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
中村 元哉	中国近現代政治史・思想史
新村 容子	近代中国におけるアヘン問題
西 英昭	中国・台湾の近現代法制史
西尾 寛治	マレーシア・インドネシア近世史
延廣 眞治	江戸・明治の文芸
萩田 博	ウルドゥー語学・文学の研究
馬場 英子	中国の説唱文学（語り物）
濱下 武志	中国近現代史
濱島 敦俊	中国近世社会経済史
濱田 正美	中央アジアにおけるイスラーム研究
林 佳世子	オスマン朝期中東社会史

研究員名	研究課題
林 俊雄	中央ユーラシア史・草原考古学の研究
原 實	インド古代文学の研究
原山 隆広	アッパース朝末期政治史
平勢 隆郎	中国考古資料研究
平野健一郎	近代東アジア国際関係論
平野 聡	中国党支配（国民党・共産党）の史的研究
弘末 雅士	インドネシア宗教社会史
廣瀬 紳一	漢字文化圏電子情報学の研究
深沢 眞二	連歌・俳諧の研究
藤井 昇三	現代日中関係史の研究
藤田 忠	中国古代政治・社会史
藤本 幸夫	朝鮮本研究
古田 和子	情報・流通ネット ワークの歴史的分析
古屋 昭弘	中国語史
弁納 才一	近現代中国農村経済史
寶劔 久俊	現代中国の農村社会経済変動の研究
星 泉	チベット言語学
細谷 良夫	清朝政治史
堀川 徹	中央アジア文書研究
本庄比佐子	近現代日中関係史
牧野 元紀	ベトナムのキリスト教
松井 太	中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の研究
松重 充浩	近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史
松永 泰行	現代イランの政治・宗教及びシーア派研究
松濤 誠達	インド古代神話学の研究
松丸 道雄	殷周金文の研究
松村 潤	東北アジア民族史
松本 弘	イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治
丸川 知雄	中国の産業集積および日中経済関係
三浦 徹	イスラム都市社会史
水野 善文	古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
三田 昌彦	北インド中世史
御牧 克己	チベット宗義書の研究

研究員名	研究課題
宮崎 修多	近世近代漢詩文の研究
宮脇 淳子	アジア史
村井 章介	日本中世を中心とする東アジア文化交流史
村上 衛	清末沿海経済史の研究
村田雄二郎	中国近代史、中国地域研究
毛里 和子	現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
本野 英一	清末民初における対外経済関係
榎山 明	中国古代法制史・辺境論・資料論
守川 知子	イラン・イスラーム史
森平 雅彦	朝鮮中世・近世史
森安 孝夫	古代ウイグル文書の研究、中央ユーラシア古代中世史
矢島 洋一	中央アジア史
柳澤 明	清代外交史・民族関係史
柳田 征司	日本語の歴史的研究
柳谷あゆみ	中世アラブ政治史、イスラーム地域資料研究
矢吹 晋	近現代中国経済
山内 弘一	李朝史、朝鮮儒教研究
山内 民博	朝鮮後期郷村社会史研究
山口 瑞鳳	チベット学、仏教哲学
山村 義照	日本近現代史
山本 英史	17～19世紀中国社会構造の研究
山本 真	近現代華南農村の社会構造
山本 毅雄	デジタル人文学
湯浅 剛	中央アジア政治史
吉澤誠一郎	中国近現代史
吉田 伸之	日本近世都市社会史
吉田 光男	朝鮮近世史
吉田 豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
六反田 豊	朝鮮中世・近世史
和田 恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺 紘良	宋代社会史

(全 254 人)

2. 研究資料出版

総合アジア圏域研究との連携の下に、超域アジア研究と歴史・文化研究に関する一次資料の解析と研究の成果は、継続してきた和文および欧文の紀要・雑誌・叢書として刊行され、順次オンライン公開を進めた。さらに総合アジア圏域研究に伴う成果を新たにアジア研究に関する欧文の電子ジャーナルとして編集発行することにより発信力を高めた。これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、研究情報ネットワークと結びつくことにより、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなろう。

A. 定期出版物刊行

- (1) 『東洋文庫和文紀要』（東洋学報） 第97巻第1～4号
A5判 4冊（刊行済）
- (2) 『東洋文庫欧文紀要』
(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No.73
B5判 1冊（刊行済）
- (3) 『近代中国研究彙報』 第38号 A5判 1冊（刊行済）
- (4) 『東洋文庫書報』 第47号 A5判 1冊（刊行済）
- (5) *Modern Asian Studies Review*（新たなアジア研究に向けて）Vol.7
オンラインジャーナル（刊行済）
- (6) *Asian Research Trends New Series* No.10 A5判 1冊（刊行済）

B. 論叢等出版

- (1) *Tibetan Texts from Khara-khoto in The Stein Collection of the British Library* (*Studies in Old Tibetan Texts from Central Asia*, Vol.2)
B5判 1冊（刊行済）
- (2) 『モリソンパンフレットの世界Ⅱ』東洋文庫論叢79
B5判 1冊（刊行済）
- (3) 『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅷ－東洋文庫 絵本コレクション』
B5判 1冊（刊行済）

- (4) *Medieval Religious Movements and Social Change: A Report of a Project on the Indian Epigraphical Studies* B5判 1冊 (刊行済)
- (5) 『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』 B5判 1冊 (刊行済)

C. 研究資料の全文オンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次研究資料の全文公開を行った。
<http://www.toyo-bunko.or.jp/research/results.html>

3. 研究情報普及

A. 講演会

(1) 東洋学講座

(前期) 共通テーマ「漢語資料を通じて見た内陸アジアの諸民族」

第548回 2015年7月22日(水)

「大宋沙門道圓三蔵の西域求法の旅」

東洋文庫研究員

國學院大学名誉教授

土肥 義和 氏

第549回 2015年7月27日(月)

「シルクロードと長安のソグド人」

東洋文庫研究員

中央大学教授

妹尾 達彦 氏

第550回 2015年8月3日(月)

「フィンランド・マンネルヘイム収集の新疆資料と日独露仏の探検隊」

東洋文庫研究員

東海大学教授

片山 章雄 氏

(後期) 共通テーマ「医学・医療史からみる東洋と西洋」

第 551 回 2015 年 11 月 25 日 (水)

「東洋医学・漢方―「肩こり」と「冷え」について―」

東北芸術工科大学教授

白杉 悦雄 氏

第 552 回 2015 年 11 月 26 日 (木)

「〈医学の書物〉と〈書物の医学〉

―初期近代ヨーロッパの新しい医学と現在における発展―」

慶應義塾大学教授

鈴木 晃仁 氏

第 553 回 2015 年 11 月 27 日 (金)

「東洋と西洋の接触

―蘭学における医学の意味を〈藤井文庫のコレクションから〉

再考する―」

東洋文庫研究員

神戸大学大学院教授

塚原 東吾 氏

(2) 特別講演会

2015 年 9 月 10 日 (木)

「“Godless Imagination of Islam” in the Inter-War Soviet Posters,
1918-1940」〔英語・通訳なし〕

モスクワ東洋学研究所研究員 Vladimir Bobrovnikov 氏

2015 年 9 月 29 日 (火)

「ソグド人と河西回廊―資料と問題―」

蘭州大学歴史文化学院教授

同敦煌学研究所副所長

馮 培紅 氏

2015年12月17日(木)

「The Bard Sagymbai Orozbaq uulu and His Place in the Kirghiz Epic Tradition」〔英語・通訳なし〕

Associate Professor of History, Miami University

Daniel Prior 氏

2016年1月23日(土)

「パミールのイスマーイール派：過去と未来の間で」〔ロシア語・通訳あり〕

ロシア科学アカデミー民族学・人類学研究所研究員

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

トヒル・カラダロフ 氏

2016年2月19日(金)

「以藝會友：南宋中期士人以〈蘭亭序〉為中心的品題與人際關係」

〔中国語・通訳あり〕

台湾中央研究院歴史語言研究所研究員・長庚大学教授

東洋文庫名誉研究員

黄 寛重 氏

(3) 東洋文庫談話会

2016年3月23日(水)

「南宋四明史氏の斜陽—南宋後期政治史の一側面—」

熊本大学准教授

小林 晃 氏

2016年3月24日(木)

「明清時代の纏足と大脚—脚に示されたステイタス—」

日本学術振興会特別研究員 (PD)

五味 知子 氏

2016年3月24日(木)

「高昌故城とその周辺遺跡：

ドイツ・トルファン探検隊調査遺跡同定と遺跡データベースの構築」

花園大学専任講師

西村 陽子 氏

(4) 公開講座

2015年4月29日(水)、5月6日(水)、23日(土)、24日(日)、
7月26日(日)、8月1日(土)

ワークショップ「科学と歴史のコラボレーション 魔法のペンで光る地図
をつくろう！」

〈大地図展—フェルメールも描いたブラウの世界地図—〉

2015年6月6日(土)

「グレートジャーニー：地球を歩いて気づいたこと」

武蔵野美術大学教授・探検家 関野 喜晴 氏

2015年6月14日(日)

「17世紀オランダ美術における“アジア”」

国立西洋美術館研究員 幸福 輝 氏

2015年6月20日(土)

「Mapping from the Water: Joan Blaeu and the Selden Map」

ブリティッシュコロンビア大学教授
ティモシー・ブルック 氏

2015年6月21日(日)

「東洋文庫蔵ジョン・セーリスの航海日記からみる江戸初期イギリス商館の
活動」

ロンドン大学 SOAS 教授 タイモン・スクリーチ 氏

2015年6月28日(日)

「フェルメールはなぜ地図を描いたのか

—17世紀オランダの「世界」像をさぐる」

目白大学教授 小林 頼子 氏

2015年8月2日(日)

「Global Cultural Exchange between West and East:

Mediating European Art Through Company Channels in Asia」

グライフスヴァルト大学教授

ミヒャエル・ノルト 氏

2015年8月23日(日)、10月25日(日)

ワークショップ「科学と歴史のコラボレーション

魔法のペンで行燈づくり！」

2015年10月1日(木)

ジュニア研究員プログラム「夢は研究者！～平野博士にきく歴史の魅力」

東洋文庫普及展示部長

平野健一郎 氏

〈幕末展〉

2015年10月4日(日)

「幕末長崎の交流と明治産業革命遺産」

長崎歴史文化博物館研究員

岡本健一郎 氏

2015年10月15日(木)

ジュニア研究員プログラム「今日は自然博士の日！シーボルトの植物図鑑、

ぼくの植物図鑑」

小岩井農牧株式会社環境緑化部部长 足澤 匡 氏

〈幕末展〉

2015年10月22日(木)

「薩摩藩留学生と五代友厚」

鹿児島県立図書館館長

原口 泉 氏

2015年11月3日(火)、12月20日(日)

ワークショップ「はじめての製本体験」

2015年11月5日(木)

ジュニア研究員プログラム「本ってどうやってつくるの？手作り製本体験」

2015年11月19日(木)

ジュニア研究員プログラム「ミュージアムお宝探し！教科書スターのホンモノ発見！」

2015年12月3日(木)

ジュニア研究員プログラム「ミュージアムの裏側をみよう！学芸員のお仕事体験」

2015年12月5日(土)・6日(日)

《総合アジア圏域研究国際シンポジウム》(使用言語：英語)

Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations

Opening Address:

HAMASHITA Takeshi (Research Department Head, Toyo Bunko)

Keynote Speech:

MIURA Toru (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Ochanomizu University)

SESSION 1: Benefit

Speakers, Titles:

Moderator: OKAWARA Tomoki

(Research Fellow, Toyo Bunko; Associate Professor, Graduate School of International Cultural Studies, Tohoku University)

KONDO Nobuaki

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies)

“State and Shrine in Iran: Waqf Administration of the Shah ‘Abd al-‘Azim Shrine under the Qajars”

Musa SROOR

(Director of History and Archaeology Department, Director of Master Program in Muslim and Arab History, Professor, Birzeit

University)

“The Waqf and Building the Cities: The Old City of Jerusalem as a Case Study”

ISOGAI Kenichi

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Faculty of International Liberal Arts, Otomon Gakuin University)

“Waqf as a Sustainer of Educational Activity: A Sixteenth Century Waqf for a Bukharan Madrasa”

Ouddène BOUGHOUFALA

(Professor, Humanities Department, Mascara University)

“Women’s Waqf and their Social Role in Ottoman Algeria”

SESSION 2: Networks

Speakers, Titles:

Moderator: Stefan KNOST (Lecturer, University of Halle-Wittenberg)

Joseph P. McDERMOTT

(Fellow of St. John’s College and Emeritus Reader of Chinese History, Cambridge)

“Village Institutions: Their Development and Potential in China during the Ming and Qing Dynasties”

TAKAHASHI Kazuki (Professor, Musashi University)

“Land Donation in Medieval Japan and its Social Function”

KHOO Salma Nasution (Author, Areca Books, Penang, Malaysia)

“Waqf and Social Patronage among Tamil Muslim Diaspora in the Straits Settlements of Penang”

Nacereddine SAIDOUNI (Professor Emeritus, University of Algiers)

“The Awqâf of Maghrebis in Cairo and Jerusalem: Spiritual Links, Cultural Exchanges, and Economic Necessities (Through a Sample of Maghrebis’ Waqfiyât in al-Azhar and al-Aqsa Mosques)”

Discussion

SESSION 3: Transition

Speakers, Titles:

Moderator: Randi DEGUILHEM

(Professor, CNRS, TELEMME-MMSH/AMU, Aix-en-Provence)

Saiyid Zaheer Husain JAFRI

(Professor of Medieval Indian History, Department of History
Faculty of Social Sciences, Delhi University)

“Familial Grants and Making of a Waqf: A Case Study of Khanqah-e
Karimia, Salon (in Northern India) from Mughal to the Modern
Times AD.1679-1953”

Randi DEGUILHEM

(Professor, CNRS, TELEMME-MMSH/AMU, Aix-en-Provence,
Director of GDRI CNRS International Research Network on Waqf
and codirector of IISMM-EHESS seminar on waqf)

“Colonial States Claiming Waqf, A Transregional Approach: From
the French and British Near East to British India”

Tunku Alina ALIAS

(Adjunct Professor, University of Miami Law School; Adjunct
Research Fellow, International Centre for Education in Islamic
Finance (INCEIF) KL)

“The Spread of Waqfs following British Colonial Trade in the Indian
Ocean: A Comparison with the Atlantic Trade”

Discussion

Closing Session:

Discussant Jean-Pierre DEDIEU

(Senior Researcher (emeritus) CNRS, Framespa, Toulouse/IAO
(Lyon))

General Discussion

Concluding Remarks:

Randi DEGUILHEM

2015年12月17日(木)

ジュニア研究員プログラム「ス波博士が歴史まんがのウソをみぬく！」

東洋文庫文庫長

ス波 義信 氏

2015年12月18日(金)

《内陸アジア研究部門中央アジア研究班国際学会議》(使用言語：英語)

International Conference on “Xinjiang in the context of Central Eurasian
transformations”

Opening Remarks:

SESSION 1:

Chair: David Brophy (The University of Sydney)

Rian Thum (Loyola University)

“Moghul Relations with the Mughals: Economic, Political, and Cultural”

Onuma Takahiro (Tohoku Gakuin University)

“Political Power and Caravan Merchants at the Oasis Towns in Central Asia: A Case of Altishahr in the Seventeenth and Eighteenth Centuries”

Matthew W. Mosca (University of Washington)

“Cišii’ s Writings and Their Context: An Unofficial Source among Networks of Officials”

SESSION 2:

Chair: Naganawa Norihiro (Hokkaido University)

Rune Steenberg (Columbia University)

“Qing Policies and Close Marriage: Transforming Kinship in Kashgar”

Noda Jin (Waseda University)

“The Crossing of Imperial Borders and “International” Conflict Resolution between Russian Turkestan and Qing-ruled Xinjiang”

Unno-Yamazaki Noriko (University of Tokyo / Harvard-Yenching Institute)

“Cooperation and Opposition: The Relationship between Turkic Muslims and Chinese-speaking Muslims in the Early Twentieth Century”

2015年12月19日(土)

「毛沢東時代の経済政策を振り返る」

大東文化大学名誉教授

小島 麗逸 氏

〈解体新書展—ニッポンの「医」の歩み1500年—〉

2016年1月9日(土)

「東洋文庫収蔵の医学史コレクションについて」

—〈からだ〉と〈いのち〉の知、東西交流の軌跡」

東洋文庫研究員

塚原 東吾 氏

〈アジア資料学研究シリーズ〉

2015年度コディコロジー研究特別報告会「東洋文庫所蔵本 紙質調査報告」

2016年1月26日（火）

「東洋文庫18世紀ヨーロッパ刊本に用いられた紙の分析」

東洋文庫研究員

龍谷大学名誉教授

江南 和幸 氏

「東洋文庫善本叢書所収本の料紙調査報告」

東洋文庫研究員

北海道大学名誉教授

石塚 晴通 氏

〈解体新書展—ニッポンの「医」の歩み1500年—〉

2016年1月31日（日）

「『解体新書』その魅力と注目すべきこと」

順天堂大学名誉教授

酒井 シヅ 氏

2016年2月20日（土）

「日中医学交流秘話—1950年代の医学者の相互訪問をめぐる」

青山学院大学教授

飯島 渉 氏

2016年3月5日（土）

「絶学の人—解体新書の画家・小田野直武と秋田蘭画」

学習院女子大学教授

今橋 理子 氏

(5) 各種研究会・講演会開催

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研究会数	4	10	5	5	4	6	5	7	6	7	3	6	68
参加人数	41	79	89	156	81	116	49	169	132	93	50	73	1,128

B. データベース公開

2015年4月1日～2016年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ（日本語・英語）に対するオンライン検索アクセス状況については、II 図書事業のグラフ（p.21）に示す通りである。

C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

〈長期受入〉

(1) 外来研究員の受入

ダヴァン・ディディエ（フランス国立極東学院東京支部長）

「中世における臨済宗」

（2015年4月1日～2015年12月31日 [延長]、2016年1月1日～2016年3月31日）

蘇 基 朗（香港科技大学教授）

「近代化のための実業・法律・教育」（2015年6月1日～2015年8月9日）

[受入担当：斯波 義信]

蘇 寿富美（George Mason 大学副教授）

「近代化のための実業・法律・教育」（2015年6月1日～2015年8月9日）

[受入担当：斯波 義信]

Mehmet Olmez（ユルドゥズ工科大学教授）

「トルコにおける古ウイグル語文献研究」

（2015年7月1日～2016年3月31日）

[受入担当：梅村 坦]

呉 真（中国人民大学中文系副教授）

「中国古代戯曲演劇史」

（2015年7月1日～2015年8月28日、2016年1月12日～2016年2月22日）

[受入担当：田仲 一成]

施 愛 東 (社会科学院文学研究所研究員)

「中国民俗学」 (2015年7月8日～2015年8月28日)

[受入担当：田仲 一成]

許 愛 珠 (南昌大学中文系教授)

「中国古代文学：明代戯曲史」 (2015年9月1日～2016年3月31日)

[受入担当：田仲 一成]

徐 冲 (復旦大学歴史学系副教授)

「歴史叙述よりみた漢晋間における官僚秩序の変革」

(2015年9月10日～2016年9月9日)

[受入担当：窪添 慶文]

Joseph P. McDermott (東洋文庫名誉研究員)

「明代社会経済史」 (2015年12月2日～2015年12月14日)

[受入担当：斯波 義信]

(2) 2015年度日本学術振興会特別研究員 PD・RPD の受入

五味 知子 (慶應義塾大学大学院 PD)

「17～19世紀中国基層社会における規範とジェンダー」

(2013年度採用、14・15年度・3カ年間)

[受入指導者・岸本 美緒]

阿部由美子 (東京大学大学院 PD)

「旗人から満洲族へ—20世紀中国理解への新たな視座」

(2014年度採用、15・16年度・3カ年間)

[受入指導者・松重 充浩]

河野 正 (東京大学大学院 PD)

「1950～60年代、多地域比較による華北農村社会の変容に関する研究」

(2014年度採用、15・16年度・3カ年間)

[受入指導者・内山 雅生]

関 智英（東京大学大学院 PD）

「戦時期中国人対日協力者（和平陣営）の戦後の活動と思想」

（2015 年度採用、16・17 年度・3 カ年間）

[受入指導者・久保 亨]

濱本 真実（東洋文庫研究員）

「近代ユーラシア陸上貿易におけるタタール商人の活動とその文化的影響」

（2014 年度採用、15・16 年度・3 カ年間、RPD）

[受入指導者・小松 久男]

〈外国人研究者への便宜供与〉

Belgium

BAUDEN, Frederic [Professor, University of Liege]

China

李 零 [北京大学教授]（ほか 2 名）

England

FERENTE, Serena [Dr. King's College London]（ほか 1 名）

Iran

Morteza Damanpak Jami [Deputy Head, Center for International Research and Education of the Ministry of Foreign Affairs]

Korea

金 秉駿 [韓国ソウル大学校教授]（ほか 1 名）

Lithuania

GLOSAITĖ, Julija [Marketing Manager, Central Library of Vilnius City Municipality]

Mongol

SAMPILDONDOV, Chuluun [Director, Mongolian Academy of Sciences
Institute of History] (ほか1名)

Russia

BOBROVNIKOV, Vladimir [Professor, Institute of Oriental Studies]
(ほか3名)

Taiwan

黄 寛重 [中央研究院歴史語言研究所研究員]

USA

ELLIOTT, Mark C. [Professor, Harvard University] (ほか11名)

Vietnam

NGUYEN Huu Mui [ベトナムハンノム研究院副所長] (ほか3名)

D. 国際交流

以前より研究協力協定を締結しているフランス極東学院、台湾中央研究院、ハーバード・エンチン図書館、ハーバード・エンチン財団、アレキサンドリア図書館、イラン議会図書館、ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) 図書館に加え、ベトナム社会科学院漢喃研究所と協力関係を結んだ。

また、2015年12月5日(土)・6日(日)に《総合アジア圏域研究国際シンポジウム》として、“Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations” (The Fourth International Symposium of Inter-Asia Research Networks) を開催した。

4. 研究員等の研究業績

期間：2015年4月1日～2016年3月31日まで

略号：①…雑誌論文 ②…図書 ③…学会発表

相原 佳之

- ①「從錦屏峯平黎寨文書看清代清水江流域的林業經營」(吳平・龍沢江主編『清水江流域文化研究』, 下卷, 518～536頁, 北京: 民族出版社, 2015年6月).
- ①「『フフ・トグ(青旗)』のデジタルブック作成をめぐる諸問題」(田中仁・堤一昭編『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構築・公開に向けて(OUFCブックレット第9巻)], 28～34頁, 大阪大学中国文化フォーラム事務局, 2016年3月).
- ①「汪政権駐日大使館における文書管理についての考察」(相原佳之・尾形洋一・平野健一郎編『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』, 357～413頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月).
- ②『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』(〈尾形洋一, 平野健一郎〉, (公財)東洋文庫, 2016年, xiv + 526頁).
- ③“Forests as Commons in Early Modern China: An Analysis of Legal Cases”, in 17th World Economic History Congress Kyoto 2015 “Diversity in Development”, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 6 Aug. 2015.

青山 亨

- ③“Nishimura Project: Tang Dynasty Chau Tang Shipwreck and ‘Maritime Ceramic Route’”, 〈Noriko Nishino, Jun Kimura, Takenori Nogami, Le Thi Lien〉, in the 3rd Congress of the Asian Association of World Historians (AAWH2015), Nanyang Technological University, Singapore, 29 May 2015.
- ③「ベトナム, 南シナ海沖・チャウタン海揚がりの資料の初歩的報告」(〈西野範子, 木村淳, 野上建紀〉, 東南アジア学会第93回研究大会・パネル「9-10世紀の東アジア～イスラーム世界間の東西海上交易: 文献史学と考古学の視点から」, 於: 愛媛大学, 2015年5月31日).

秋葉 淳

- ③「裁判官とその発給文書: 18世紀オスマン朝歴史家 = 裁判官シェムダーニーザーデ・フンドゥクルル・スレイマンの業績」(日本中東学会第31回年次大会, 於: 同志社大学今出川校地, 2015年5月17日).

浅田 進史

- ③ “Exploring North China in the Age of the ‘New Geography’: From the Perspective of German-Japanese Relations”, in 17th World Economic History Congress Kyoto 2015 “Diversity in Development”, Parallel Session “Discovering North China: Regional Diversity and Development from the 18th Century to the 20th Century”, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 6 Aug. 2015.
- ③ 「ドイツ植民地経済政策における世界的視野：山東落花生から考える」(第15回日韓歴史家会議「植民主義と脱植民主義：世界史的視野」・第2セッション「‘帝国’の発展と植民地の対応」, 於：ソウル大学中央図書館ヤン・ドゥソクホール, 2015年11月7日).

浅野 秀剛

- ① 「『猫と提灯』と花鳥動物画」(『小林清親(別冊太陽)』, 112～118頁, 平凡社, 2015年5月).
- ① 「正面版筆彩掛物絵について」(『春信一番! 写楽二番! フィラデルフィア美術館浮世絵名品展』図録, 178～181頁, あべのハルカス美術館, 2015年6月).
- ① 「立原位貫の浮世絵の復刻」(『木版画家 立原位貫：江戸の浮世絵に真似ぶ』展図録, 10～15頁, 山口県立萩美術館・浦上記念館, 2015年8月).
- ① 「春画の『大小』暦の流行」(『錦絵春画(別冊太陽)』, 84～87頁, 平凡社, 2015年9月).
- ② 『豆判春画』(講談社, 2016年, 240頁).

荒川 正晴

- ① 「中国律令制下の交通制度と道路」(館野和己・出田和久編『日本古代の交通・交流・情報』, 264～287頁, 吉川弘文館, 2016年2月).
- ② 『シルクロードと近代日本の邂逅：西域古代資料と日本近代仏教』(柴田幹夫, 勉誠出版, 2016年, 811頁).
- ③ “Revisiting Silk Road Trade Activities in Eastern Eurasia: Considering Tang China’s View of the World”, in the Global History Workshop “Globalization from East Asian Perspective”, The Institute

for Academic Initiatives, Osaka University and University of Oxford Center for Global History, Osaka, Japan, 15 Mar. 2016.

飯島 武次

- ①「田村晃一先生の思い出」(『弥生』, 38, 1～6頁, 東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室, 2015年5月).
- ①「殷代小双橋遺跡と出土陶亀」(『駒澤考古』, 40, 227～286頁, 駒澤大学考古学研究室, 2015年6月).
- ②『中国考古学のてびき』(同成社, 2015年, 186頁).

飯島 涉

- ①「“伝染病的中国史” 諸問題探討」(『歴史研究』, 2015年第2期, 4～8頁, 中国社会科学院・中国社会科学雑誌社, 2015年4月).
- ①「「医療社会史」という視角: 20世紀東アジア・中国を中心に」(歴史科学協議会編『歴史評論』, 第787号, 50～60頁, 歴史科学協議会, 2015年11月).
- ①「2015年歴史学研究会大会報告批判」(『歴史学研究』, 第939号, 32～33頁, 歴史学研究会, 2015年12月).

池田 美佐子

- ①「エジプト公教育の苦悩: 「植民地」支配から教育格差まで」(〈塩尻和子〉, 『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』, 314～336頁, 明石書店, 2016年3月).
- ③「エジプト公教育の苦悩: 「植民地」支配から教育格差まで」(日本教育学会第74回大会 シンポジウム「戦争と子ども・教育: 戦後70年を教育学としていかにうけとめるか」, 於: お茶の水女子大学, 2015年8月29日).

池田 雄一

- ①「簡牘積文の異同をめぐって」(稲垣明・山元貴尚編『二年律令・奏瀨書: 文字異同と一字索引』, 3～6頁, 汲古書院, 2015年4月).
- ②『漢代を遡る奏瀨: 中国古代の裁判記録』(汲古書院, 2015年, 252頁).

石川 寛

- ①書評「ガウタム・セングプタ, アバ・ナライン・ランバ編『歴史的文化

財の管理人：インド考古調査局の150年』(『東洋学報』, 97-2, 051～058頁, (公財)東洋文庫, 2015年9月).

①「パッタダカル碑文をめぐる諸問題」(高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集編集委員会編『高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集』, 185～204頁, 東洋大学文学部史学科東洋史研究室・汲古書院, 2016年3月).

③「インドの宗教都市パッタダカル」(東洋大学東洋学研究所研究発表例会, 於:東洋大学白山キャンパス, 2016年1月9日, [『東洋学研究』, 第53号, 249～250頁, 東洋大学東洋学研究所, 2016年3月].

石川 重雄

①「唵弥陀思浄伝考：宋代浄土教画僧の生涯」(高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集編集委員会編『高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集』, 373～395頁, 東洋大学文学部史学科東洋史研究室・汲古書院, 2016年3月).

③「宋代的慮囚与疏決再論」(第三届中国南宋史国際学術研討会, 於:杭州星都賓館跨虹序, 2015年11月9日, [『第三届中国南宋史国際学術研討会論文集』, 下冊, 185～197頁, 杭州市社会科学院, 2015年11月].

石塚 晴通

①「古文尚書 解題」(〈小助川貞次〉, 公益財団法人東洋文庫監修『国宝 古文尚書 卷第三・卷第五・卷第十二／重要文化財 古文尚書 卷第六(東洋文庫善本叢書7)』, 157～165頁, 勉誠出版, 2015年6月).

①「春秋経伝集解 卷第十 解題」「論語集解 文永五年写 卷第八 解題」(〈小助川貞次〉, 公益財団法人東洋文庫監修『国宝 春秋経伝集解 卷第十／重要文化財 論語集解 文永五年写 卷第八(東洋文庫善本叢書9)』, 85～108頁, 勉誠出版, 2015年7月).

①「文選集注 解題」(〈小助川貞次〉, 公益財団法人東洋文庫監修『国宝 文選集注 卷第四十八・第五十九・第六十八・第八十八・第一百十三(東洋文庫善本叢書12)』, 423～437頁, 勉誠出版, 2015年10月).

①「論語集解正和四年写 解題」(〈小助川貞次〉, 公益財団法人東洋文庫監修『重要文化財 論語集解 正和四年写(東洋文庫善本叢書11)』, 365～381頁, 勉誠出版, 2015年12月).

③「東洋文庫善本叢書所収本の料紙調査報告」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ2015年度コディコロジー研究特別報告会「東洋文庫所蔵本 紙質

調査報告」, 於 : (公財) 東洋文庫, 2016 年 1 月 26 日, [*Modern Asian Studies Review*, Vol. 7, pp. 26-37, Tokyo: The Toyo Bunko, Mar. 2016]).

石橋 崇雄

①「雍正帝『御製朋党論』研究〈序説〉: 大清国支配構造分析試論の一環として」(高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集編集委員会編『高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集』, 479~502 頁, 東洋大学文学部史学科東洋史研究室・汲古書院, 2016 年 3 月)。

磯貝 健一

③“Waqf as a Sustainer of Educational Activity: A Sixteenth Century Waqf for a Bukharan Madrasa”, in the 4th International Symposium of Inter-Asia Research Networks, Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations, Toyo Bunko, Tokyo, Japan, 5, Dec. 2015, [*Modern Asian Studies Review*, Vol. 7, pp. 42-43, Tokyo: The Toyo Bunko, Mar. 2016].

井上 和人

- ①「王宮と都城」(条里制・古代都市研究会編『日本古代の都市と条里』, 14~28 頁, 吉川弘文館, 2015 年 4 月)。
- ①“Introduce about the Total Progress of Researching and Rebuilding in Nara Palace Site”, *The International Symposium*, pp. 98-110, Hanoi: Thang Long Citadel Preservation Center. Nov. 2015, [越文・英文]。
- ①「7 世紀における都城・王宮の展開と日本古代国家の構築」(須田勉編『日本古代考古学論集』, 2~13 頁, 同成社, 2016 年 3 月)。
- ③「唐長安城(隋大興城)形制設計規格復元試論」(条里制・古代都市研究会第 32 回大会, 於: 奈良文化財研究所, 2016 年 3 月 6 日)。
- ③「7 世紀: 都の変遷が語る日本国家構築の真実」(明治大学日本古代学研究所・奈良県世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会共催「世界に伝えたい「飛鳥・藤原の魅力」記念講演会 2016」, 於: 明治大学, 2016 年 3 月 19 日)。

今西 祐一郎

①「時の聖俗: 「き」と「けり」と」(国文学研究資料館編『もう一つの日

本文学史 室町・性愛・時間 (アジア遊学 195)], 256～267 頁, 勉誠出版, 2016 年 3 月).

③「骸骨の東西：『一休骸骨』と『死の舞踏』」(総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻特別講義, 於：国文学研究資料館, 2015 年 10 月 24 日, [『特別講義』, 32 号, 総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻, 2016 年 3 月, 37 頁].

上野 英二

①「源氏物語と長恨歌 其六」(『成城国文学論集』, 38, 33～50 頁, 成城大学大学院文学研究科, 2016 年 3 月).

梅村 坦

②監訳『張承志著『中国と日本：批判の刃を己に』』(亜紀書房, 2015 年, 415 頁).

②『中央ユーラシアへの現代的視座 (中央大学政策文化総合研究所研究叢書 21)』(中央大学出版部, 2016 年, 203 頁).

③“Uighur Families and Their Mutual Aid in Turfan Area around the 13th Century”, in the International Scientific Conference “Languages and Literatures of the Turkic Peoples”, Saint Petersburg, Russia, 27 Oct. 2015.

宇山 智彦

①「西アジア・中央アジア 近現代：中央アジア—19～21 世紀」(〈岩崎一郎〉, 水島司・加藤博・久保亨・島田竜登編『アジア経済史研究入門』, 246～262, 344～354 頁, 名古屋大学出版会, 2015 年 11 月).

①「中央アジア諸国からみた国際環境の変化と対応：ロシアの政治的・軍事的影響力と中国の経済進出」(『国際問題』, 第 647 号, 16～27 頁, 日本国際問題研究所, 2015 年 12 月).

①“The Contribution of Central Eurasian Studies to Russian and (Post-) Soviet Studies and Beyond”, *Kritika: Explorations in Russian and Eurasian History*, Vol. 16, No. 2, pp. 331-344, Bloomington, IN: Slavica Publishers, 2015.

①“Repression of Kazakh Intellectuals as a Sign of Weakness of Russian Imperial Rule: The Paradoxical Impact of Governor A. N. Troinitskii on

the Kazakh National Movement”, *Cahiers du Monde Russe*, Vol. 56, No. 4, pp. 681-703, Paris: Centre d' études sur la Russie, l'Europe orientale et le domaine turc de l'Ecole des hautes études en sciences sociales, 2016.

②『ユーラシア近代帝国と現代世界(シリーズ・ユーラシア地域大国論4)』(ミネルヴァ書房, 2016年, 278頁).

江川 ひかり

①「ボスニア・ヘルツェゴヴィナ研究案内」(『明大アジア史論集』, 20号, 103~110頁, 明治大学東洋史談話会, 2016年3月).

②『世紀末イスタンブールの演劇空間: 都市社会史の視点から』(永田雄三), 白帝社, 2015年, 356頁).

③「19世紀末・20世紀初頭オスマン帝国における「近代演劇」および印刷・出版文化にメフメト・ターヒル・ベイが果たした役割」(日本中東学会第31回年次大会, 於: 同志社大学今出川校地, 2015年5月17日).

③「“Göçebeliğin dünyası”nın önemli konuları ve tarih araştırmalarında bu konuların önemi (「遊牧の世界」の重要課題と歴史研究におけるこれらの課題の意義)」(アルタイ諸集団国際会議・パネル「“Göçebeliğin dünyası” ve Dr. Masatake Matsubara'nın vizyonu (「遊牧の世界」と松原正毅博士のヴィジョン)」, 於: トルコ共和国アンタルヤ県地中海大学, 2015年7月20日).

③「遊牧民と「近代」: 19世紀オスマン帝国, 西北アナトリアにおける遊牧民と毛織物(アバ)産業」(明治大学駿河台史学会大会, 於: 明治大学駿河台キャンパス, 2015年12月5日, [『駿台史学』, 157号, 125~126頁, 2016年3月].

江南 和幸

③「東洋文庫18世紀ヨーロッパ刊本に用いられた紙の分析」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ2015年度コディコロジー研究特別報告会「東洋文庫所蔵本 紙質調査報告」, 於: (公財)東洋文庫, 2016年1月26日, [Modern Asian Studies Review, Vol. 7, pp. 4-26, Tokyo: The Toyo Bunko, Mar. 2016]).

大里 浩秋

①「東亜同文会機関誌に見る日中関係」(『現代中国』, 第89号, 3~14頁,

日本現代中国学会, 2015年9月).

- ①「宗方小太郎日記, 明治45～大正2年」(『人文学研究所報』, No. 54, 91～150頁, 神奈川大学人文学研究所, 2015年9月).
- ①「所内報から見る中研の活動状況(1)」(『中国研究月報』, 2016年2月号, 32～39頁, 中国研究所, 2016年2月).
- ①「所内報から見る中研の活動状況(2)」(『中国研究月報』, 2016年3月号, 34～44頁, 中国研究所, 2016年3月).
- ①「宗方小太郎日記, 大正3～4年」(『人文学研究所報』, No. 55, 57～117頁, 神奈川大学人文学研究所, 2016年3月).

大澤 肇

- ①「從數位典藏到數位人文」(『興大人文学報』, 55, 101～124頁, 台中: 国立中興大学興大人文学報編集委員会, 2015年9月).
- ①「ハーバード・イェンチン研究所での海外研修」(『日本現代中国学会ニューズレター』, 46, 4～5頁, 日本現代中国学会, 2015年10月).
- ③“School Education, Political Ideology and Social Mobility: A Comparative Study of 1950’s Mainland China and Taiwan”, in the Harvard Yenching Institute Lunch Talk Series, Cambridge, Massachusetts, USA, 27 Apr. 2015.
- ③「地域研究へのデジタル技術の応用」(常葉大学学内共同研究(比較地域研究)特別講演会, 於: 常葉大学, 2015年12月1日).
- ③「建国初期華東地区的教師群体構成: 以上海与松江為中心」(第4回中国当代史研究工作坊, 於: 京都大学人文科学研究所, 2015年12月6日).

大澤 正昭

- ①「元代までの農書における作物売買記事」(大澤正昭・中林広一編『春耕のとき: 中国農業史研究からの出発』, 175～213頁, 汲古書院, 2015年9月).
- ①「『居家必用事類全集』所収『山居録』の研究: 訳注稿(二)」(『上智史学』, 60号, 31～43頁, 上智大学史学研究会, 2015年11月).
- ①「第二次江西北部歴史調査報告: 『清明集』的世界の地理的環境と文化的背景〈婺源県・浮梁県篇〉」(『上智史学』, 60号, 45～65頁, 上智大学史学研究会, 2015年11月).
- ②『春耕のとき: 中国農業史研究からの出発』(中林広一), 汲古書院,

2015年, 322頁).

②『南宋地方官の主張』(汲古書院, 2015年, 241頁).

岡崎 礼奈

①「「アジア学」研究の宝庫, 東洋文庫九十年の歩み」(清水光明編『「近世化」論と日本 「東アジア」の捉え方をめぐって (アジア遊学185)』, 213～220頁, 勉誠出版, 2015年6月).

①「珍品発見? 東洋文庫の東南アジア仏教資料」(大澤広嗣編『仏教をめぐる日本と東南アジア地域 (アジア遊学196)』, 83～86頁, 勉誠出版, 2016年3月).

②『大地図展: フェルメールも描いたブラウの世界地図』((公財) 東洋文庫, 2015年, 28頁, [項目執筆: 1, 2, 5, 10～12]).

②『幕末展』((公財) 東洋文庫, 2015年, 28頁).

②『解体新書展: ニッポンの「医」の歩み1500年』((公財) 東洋文庫, 2016年, 28頁, [項目執筆: 「日本の医の歩みをたどる: 古代から近世まで」, 「本草」, 「江戸時代のお医者さん事情」, 「解体新書とその周辺」, 1, 2, 7～9, 10, 19, 21, 22, 27]).

③「東洋文庫ミュージアムにみる歴史資料展示の可能性と課題」(ミュージアム連携事業 國學院大學博物館国際シンポジウム・ワークショップ2015「博物館の国際的ネットワーク形成と日本文化研究」, 於: 國學院大學, 2015年12月13日).

岡田 英弘

①「日清戦争の核心は朝鮮という厄災」(『歴史通』, 2015年5月号, 48～59頁, ワック出版, 2015年4月).

②『チンギス・ハーンとその子孫』(ビジネス社, 2016年, 334頁).

②『世界史的誕生 蒙古帝國的文明意義』(北京: 北京出版社, 2016年, 219頁, [訳: 陳心慧, 簡体字訳]).

②『岡田英弘著作集Ⅶ 歴史家のまなざし 〈附〉年譜/全著作一覧』(藤原書店, 2016年, 587頁).

②『世界史的誕生 蒙古帝国与東西洋史觀的終結』(台北: 八旗文化出版, 2016年, 301頁, [訳: 陳心慧, 繁体字訳]).

尾形 洋一

- ①「新任大使蔡培への大使館業務引継記録からわかること」(相原佳之・尾形洋一・平野健一郎編『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』, 415～440頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月).
- ②『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』(相原佳之, 平野健一郎), (公財)東洋文庫, 2016年, xiv + 526頁).

岡本 隆司

- ①「民国初期の蒙藏「独立」問題とモリソン」(斯波義信編『モリソンパンフレットの世界Ⅱ：近代アジアとモリソンコレクション』, 53～69頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月).
- ②『日中関係史：「政冷経熱」の千五百年』(PHP研究所, 2015年, 259頁).
- ③“Tycoon, Sovereignty, and Independence: International Relations Surrounding Modern Korea”, in 2015 New York Conference on Asian Studies “Global Asia: Social, Cultural, and Political Spaces”, Vassar College, Poughkeepsie, New York, USA, 17 Oct. 2015.

小川 快之

- ①「纏足」(小浜正子編『ジェンダーの中国史(アジア遊学191)』, 167～173頁, 勉誠出版, 2015年11月).
- ①「宋代女子財産権論争について」(『上智史学』, 60, 1～10頁, 上智大学史学会, 2015年11月).

尾崎 文昭

- ①「近藤直子さんを偲んで」(『颯風』, 54, 123～127頁, 颯風の会, 2016年1月).
- ③「『学人』発行的経過, 背景及其他」(学術シンポジウム「東亜人文学的可能性：中国現代思想史の回顧と展望」, 於：中山大学哲学研究所, 2015年7月20日).

小名 康之

- ①「1660年代のムガル帝国の関税政策」(『青山史学』, 第34号, 1～17頁, 青山学院大学文学部史学科研究室, 2016年2月).

小沼 孝博

- ① 「山形細谷（細矢）家伝来「大明地理之図」：江戸時代の東アジア大絵図」（〈細谷良夫〉、『東洋学報』, 97-1, 97～99頁, (公財) 東洋文庫, 2015年6月, [2014年度後期東洋学講座講演要旨]).
- ① 「トルファン・オアシス社会の分断：清とジューンガルの狭間で」（『歴史と地理：世界史の研究』, 244 (通巻 686), 1～14頁, 山川出版社, 2015年8月).
- ② *The Origins of Qing Xinjiang: A Set of Historical Sources on Turfan*, NIHU Program Islamic Area Studies. TIAS Central Eurasian Research Series, No. 12, (David Brophy), Tokyo: NIHU Program Islamic Area Studies, Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo, 2016, 282p.
- ③ “Political Power and Caravan Merchants at the Oasis Towns in Central Asia: A Case of Altishahr in the Seventeenth and Eighteenth Centuries”, in International Conference on “Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations”, Toyo Bunko, Tokyo, Japan, 18 Dec. 2015.
- ③ 「18世紀前半のトルファン：ジューンガルの東辺／清の西辺」（2016年国際ワークショップ「ジューンガルに関する歴史研究最前線」, 於：京都大学大学院文学研究科附属ユーラシア文化研究センター（羽田記念館）, 2016年1月23日）.

梶谷 懐

- ① 「『帝国論』の系譜と中国の台頭：『旧帝国』と『国民帝国』のあいだ」（石井知章編『現代中国のリベラリズム思潮：1920年代から2015年まで』, 367～391頁, 藤原書店, 2015年10月）.
- ① 「『民意』のゆくえと政府のアカウントビリティ：東アジアの現状より」（石井知章・緒形康編『中国リベラリズムの政治空間（アジア遊学193）』, 108～122頁, 勉誠出版, 2015年12月）.
- ② 『日本と中国, 「脱近代」の誘惑：アジア的なものを再考する』（太田出版, 2015年, 360頁）.
- ② 『二重の罟を超えて進む中国型資本主義：「曖昧な制度」の実証分析』

(〈加藤弘之〉, ミネルヴァ書房, 2016年, 330頁).

③ “The Spatial Analysis about the Competition between the Local Governments and the Land Prices: The Case Study of Zhejiang Province”, 〈Daisuke Fujii〉, in International Conference on Transition and Economic Development, Fudan University, Shanghai, China, 8 Sept. 2015.

糟谷 憲一

① 「日本の朝鮮に対する植民地支配の実態」(『経済』, 第239号, 24～33頁, 新日本出版社, 2015年8月).

③ 「閔氏政権成立の歴史的背景」(朝鮮史研究会第52回大会, 於: 学習院大学, 2015年10月17日).

片桐 一男

② 『江戸時代の通訳官: 阿蘭陀通詞の語学と実務』(吉川弘文館, 2016年, 424頁).

③ 「杉田玄白『蘭学事始』成稿200年」(洋学史研究会5月例会, 於: 青山学院大学, 2015年5月2日).

③ 「勝海舟は『ゾーフ・ハルマ』を書写して何を讀みたかったのか: 勝海舟とキンスベルゲン」(洋学史研究会11月例会, 於: 青山学院大学, 2015年11月1日).

片山 章雄

③ 「フィンランド・マンネルヘイム収集の新疆資料と日独露仏の探検隊」(2015年度前期東洋学講座, (公財)東洋文庫, 2015年8月3日, [『東洋学報』, 97-4, 100～102頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月]).

片山 剛

① 「20世紀前半, 南京市の土地測量・登記に関する備忘録」(『近代東アジア土地調査事業研究 ニューズレター』, 7号, 9～26頁, 大阪大学文学研究科, 2016年3月).

③ 「農民による〈一筆耕地〉の所有, 村落による〈小字〉の管轄: 土地改革前, 広東省高要県金の東圍」(明清史夏合宿2015, 於: 筑波山江戸屋, 2015年8月25日).

- ③「農民対“田”(単宗耕地)的所有／村莊対“lang”(小地名)の管轄：以土改前夕広東省高要県金東圍為主」(歴史人類学セミナー，於：香港中文大學歴史人類学研究中心，2015年9月15日)。
- ③“Land System and Rural Society in Late Imperial South China: A Comparison with Japan and so on”，in Global History Workshop “Globalization from East Asian Perspectives”，Osaka University Nakanoshima Center, Osaka, Japan, 16 Mar. 2016.

加藤 弘之

- ①「中国の格差問題を考える：トマ・ピケティの『21世紀の資本』を読む」(『地域と経済』，第18巻，29～46頁，大阪商業大学比較地域研究所，2016年2月)。
- ②『中国経済学入門：「曖昧な制度」はいかに機能しているか』(名古屋大学出版会，2016年，242頁)。
- ②『二重の罫を越えて進む中国型資本主義：「曖昧な制度」の実証分析』(梶谷懐)，ミネルヴァ書房，2016年，330頁)。

金沢 陽

- ①「彼我を行き交ったモノ 各論⑩ 陶磁器」(村井章介ほか編『日明関係史研究入門 アジアの中の遣明船』，426～434頁，勉誠出版，2015年10月)。
- ①「関于元青花昭君出塞図罐的画題：与元曲『破幽夢孤雁漢宮秋雜劇』的比較研究」(『幽藍神采 2012 上海元青花国際学術研討会論文集』，第2輯，220～241頁，上海：上海古籍出版社，2015年11月)。
- ①「明前期貢舶貿易における附搭貨物交易と陶磁器輸入の関係について：琉球列島出土中国陶磁の調査成果から」(『青山考古』，31・32号，89～99頁，青山考古学会，2016年3月)。
- ③「後期倭寇研究の成果から見た，16世紀東シナ海の政治・経済情勢と貿易陶磁」(公開シンポジウム「貿易陶磁と文献史料から東アジア・東南アジアの歴史を考える：16・17世紀を中心とした海域におけるヒト・モノの流れ」，於：立教大学アジア地域研究所，2015年11月14日，[『平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 21世紀海域学の創世—「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ—研究報告書3』105～120頁，立教大学アジア地域研究所，2016年3月])。

③「有関沖縄首里城遺跡京之内遺跡出土の元青花八宝文大盒和出光美術館所蔵螺鈿楼閣人花卉紋盒の關係」(元末明初青花瓷器海上絲路國際學術研討會, 於: Palace of the Golden Horses, Kuala Lumpur, Malaysia, 2015年11月23日).

金丸 裕一

①書評「坂井田夕起子『誰も知らない西遊記』」(『近代仏教』, 22, 71～74頁, 日本近代仏教史研究会, 2015年9月).

①「浅談近代東亜の領土概念」(『立命館経済学』, 64-4, 88～92頁, 立命館大学経済学会, 2016年2月).

①「戦時日本技術者の『樂觀論』: 以中国電力産業調査為例」(『立命館経済学』, 64-6, 149～169頁, 立命館大学経済学会, 2016年3月).

③「戦時図書「掠奪」と日本による中国調査活動」(大阪経済大学日本経済史研究所黒正塾第17回寺子屋, 於: 大阪経済大学, 2015年7月18日).

③「戦時日本技術家視野下の中国電力産業」(社会群体視野下の抗日戦争与中国社会國際學術研討會, 於: 南京師範大学, 2015年7月27日).

辛島 昇

①“Introduction”, Karashima Noboru ed., *Medieval Religious Movements and Social Change: A Report of a Project on the Indian Epigraphical Study*, pp. 1-7, Tokyo: The Toyo Bunko, 2016.

①“The Past as Known from Tamil Inscriptions: Village Community and Challenge to the Caste System”, Karashima Noboru ed., *Medieval Religious Movements and Social Change: A Report of a Project on the Indian Epigraphical Study*, pp. 71-86, Tokyo: The Toyo Bunko, 2016.

② *Medieval Religious Movements and Social Change: A Report of a Project on the Indian Epigraphical Study*, Tokyo: The Toyo Bunko, 2016, 247p.

川合 安

①「南朝墓誌覚書」(『集刊東洋学』, 113, 106～121頁, 中国文史哲研究会, 2015年6月).

①「南朝の公主: 貴族社会のなかの皇帝の娘たち」(小浜正子編『ジェンダーの中国史 (アジア遊学 191)』, 66～77頁, 勉誠出版, 2015年11月).

①「南朝の士庶区別」(『東北大学東洋史論集』, 12, 115～132頁, 東北大

学東洋史論集編集委員会, 2016年3月).

②『『隋書』音楽志訳注』(〈六朝樂府の会〉, 和泉書院, 2016年, 381頁, [担当箇所: 168~180, 369~381頁]).

川島 真

①「『帝国』としての中国: 20世紀における冊封・朝貢認識と『中国』の境界」(宇山智彦編著『ユーラシア近代帝国と現代世界(シリーズ・ユーラシア地域大国論4)』, 219~236頁, ミネルヴァ書房, 2016年2月).

①「中国近代外交檔案のなかの汪文書」(相原佳之・尾形洋一・平野健一郎編『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』, 339~356頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月).

②『増補改訂 戦争・ラジオ・記憶』(〈貴志俊彦, 孫安石〉, 勉誠出版, 2015年, 632頁).

②『東アジアの政治社会と国際関係』(〈家近亮子〉, 放送大学教育振興会, 2016年, 298頁).

③“Internationalism and Nationalism on Modern and Contemporary Chinese Diplomacy: Tribute System, Revolution and War”, in CISH's 22nd Congress, Jinan, China, 24 Aug. 2015.

貴志 俊彦

①「ラジオ・メディア空間をめぐる日中電波戦争」(貴志俊彦・川島真・孫安石編著『増補改訂 戦争・ラジオ・記憶』, 26~53頁, 勉誠出版, 2015年7月).

①「中国の日本人捕虜と「対敵宣伝ラジオ放送」」(貴志俊彦・川島真・孫安石編著『増補改訂 戦争・ラジオ・記憶』, 96~120頁, 勉誠出版, 2015年7月).

①「抗戦教育に変質する中華民国の「電化教育」」(貴志俊彦・川島真・孫安石編著『増補改訂 戦争・ラジオ・記憶』, 121~146頁, 勉誠出版, 2015年7月).

②『増補改訂 戦争・ラジオ・記憶』(〈川島真, 孫安石〉, 勉誠出版, 2015年, 632頁).

③「第二次世界大戦期間画報中有関「事変」と「開発」の媒体表象: 以満鉄発行的『満洲画報』, 『北支画刊』為線索」(国立政治大学伝播学院シンポ「終戦七十年週年: 日本帝国及其殖民地の戦争動員と視聴伝播」学術研討

会，於：国立政治大学伝播学院，2015年5月16日）。

岸本 美緒

- ①「近一百年日本の清代社会史研究：以中間団体論為中心」（『清史研究』，15-2，27～40頁，北京：中国人民大学清史研究所，2015年5月）。
- ①「礼教，契約，生存：試析明清民事審判中的衡平原則」（『法制史研究』，27，33～74頁，台北：中国法制史学会・中央研究院歷史語言研究所，2015年6月）。
- ①「徳治の構造：寛容の在り処を中心に」（『中国：社会と文化』，30，45～65頁，中国社会文化学会，2015年7月）。
- ①「東アジア 前近代Ⅱ：明代・清代前期—14～18世紀」（水島司・加藤博・久保亨・島田竜登編『アジア經濟史研究入門』，37～48頁，名古屋大学出版社，2015年11月）。
- ②『中国の歴史』（筑摩書房，2015年，340頁）。

北川 香子

- ①「17世紀初頭カンボジア：日本往復書簡について」（〈岡本真〉，『東南アジア：歴史と文化』，44，120～141頁，東南アジア学会，2015年5月）。
- ①“Correspondence between Cambodia and Japan in the Seventeenth and Eighteenth Centuries”，〈Okamoto Makoto〉，*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*，73，pp. 65-110，Tokyo: The Toyo Bunko，2015.
- ①「カンボジア人書記通訳官リー・サム」（『南方文化』，42，49～77頁，天理南方文化研究会，2016年3月）。

橘堂 晃一

- ①「ウイグル文華巖經研究の新展開：奥書と訳出の背景を中心に」（『東洋史苑』，86・87合併号，1～26頁，龍谷大学東洋史学研究会，2016年3月）。
- ①「ウイグル文慈恩宗唯識文献「大唐三藏行跡讚」について」（『敦煌写本研究年報』，10，371～387頁，京都大学人文科学研究所中国中世写本研究班，2016年3月）。
- ③「ベゼクリク石窟供養比丘図再考」（中央アジア美術研究会，於：龍谷大学，2015年6月13日）。
- ③「敦煌諸石窟婆羅迷文字銘文調査簡報」（莫高窟敦煌研究院學術講座，

於：莫高窟敦煌研究院，2015年12月3日）。

③「古代ウイグル語「華嚴經」研究の新展開：奥書と訳出の背景を中心に」（第55回中央ユーラシア学フォーラム，於：大阪大学，2015年12月12日）。

金 鳳珍

①「張保阜の生涯と活動，人物像」（『社会システム研究』，14，1～22頁，北九州市立大学社会システム研究科，2016年3月）。

②『정부의 재발견：공공성과 공동성 사이에서（政府の再発見：公共性と共同性の間で）』（이동수, 이병택, 차동욱, 장명학, 장현근, 박현모），서울：인간사랑，2015年，485頁）。

③「朝貢体制の再解釈Ⅰ」（韓国外交史研究会，於：ソウル大学，2015年5月16日）。

④「東アジアの知的公共性を考える」（東洋学園大学2015年度春季東アジア学講座，於：東洋学園大学，2015年6月30日）。

⑤「朝貢体制の再解釈Ⅱ」（韓国外交史研究会，於：ソウル大学，2015年9月19日）。

楠木 賢道

①「孝端文皇后之母科爾沁大妃の収継婚及其意義初探」（『清史研究』，16-1，1～7頁，北京：中国人民大学，2016年2月）。

③「孝端文皇后之母科爾沁大妃 amba mama 的収継婚及其意義」（北京市社会科学院满学研究所・北京大学明清研究中心主催滿洲民族共同体及其文化學術研討會，於：北京蟹島度假村，2015年6月28日）。

③「江戸時代（1603-1867）日本学者对藏传佛教的理解」（蒙古仏教与蒙藏關係研究國際學術討論會，於：中国人民大学国学院，2015年10月8日）。

久保 亨

①「二十世紀中国經濟的國際環境：以第二次世界大戰後棉紡業的發展為例」（中国社会科学院近代史研究所編『第三屆近代中国与世界國際學術研討會論文集 第四卷 經濟・社会・學術』，1988～2010頁，北京：社会科学文献出版社，2015年5月）。

①書評「小谷汪之『マルクスとアジア：アジア的生產様式論争批判』」（歴史学研究会編『歴史学と，出会う』，228～233頁，青木書店，2015年5

月).

- ②『歴史学が問う 公文書の管理と情報公開：特定秘密保護法下の課題』（〈安藤正人，吉田裕〉，大月書店，2015年，273頁）.
- ②『アジア経済史研究入門』（〈水島司，加藤博，島田竜登〉，名古屋大学出版会，2015年，390頁）.
- ③「1940-50年代的中国経済と日中関係」（「中日戦争衝撃下の亞洲」国際シンポジウム，於：中央研究院近代史研究所（台北），2015年12月19日）.

窪添 慶文

- ①「北魏後期における品と階」（『東方学』，130号，1～18頁，東方学会，2015年7月）.

久保田 淳

- ①「藤原俊成の「あけぼの」の歌について：歌ことば「あけぼの」に関連して」（『日本学士院紀要』，70-1，55～70頁，日本学士院，2015年9月）.
- ①「和歌，そして短歌を読む：和歌と短歌の結節点，正岡子規を軸として」（『学士会会報』，917，48～52頁，学士会，2016年3月）.
- ②『源平盛衰記（七）』（〈松尾葦江〉，三弥井書店，2015年，353頁）.

黒田 卓

- ①「ムスリムたちの近代との出会い」（『まなびの杜』，72，3～4頁，東北大学広報課，2015年6月）.
- ①“Muslims’ Encounter with Modernity”，*Tohoku University Annual Review 2015*，pp. 20-21，Sendai: Tohoku University Public Relations Division，Mar. 2016.
- ③“Closing Remarks in the International Symposium in Florence”，in “How to Learn: Nippon/Japan as Object, Nippon/Japan as Method”，Firenze, Italy, 30 Oct. 2015.

氣賀澤 保規

- ①「内藤湖南の時代区分論とその現代的意義」（中国社会科学院歴史研究所・東方学会『中国史の時代区分の現在（第6回日中学者中国古代史論壇論文集）』，295～310頁，汲古書院，2015年8月）.
- ①「河北曲陽の八会寺仏教石経とその背景」（氣賀澤保規編『隋唐仏教社会

の基層構造の研究』, 巻頭図版 4 頁 + 1～84 頁, 明治大学東アジア石刻文物研究所・汲古書院, 2015 年 9 月)。

①「隋煬帝墓誌の発見とその復元：唐初政治史の一側面」(氣賀澤保規編『隋唐仏教社会の基層構造の研究』, 232～265 頁, 明治大学東アジア石刻文物研究所・汲古書院, 2015 年 9 月)。

③「“魚龍蔓延”的彼方：隋代煬帝政治和東西文化交流」(博物学与写本文化：知識—信仰傳統的生成与構造學術研討会, 於：復旦大学, 2015 年 6 月 20 日)。

③「近代中国の石刻研究の礎を築いた人々『新中国出土墓誌』20 周年に寄せて」(『新中国出土墓誌』刊行 20 周年紀念日中合同中国石刻国際シンポジウム(研討会), 於：明治大学, 2015 年 12 月 12 日, [『新中国出土墓誌』刊行 20 周年紀念日中合同中国石刻国際シンポジウム(研討会)論文集], 3～11 頁, 明治大学東アジア石刻文物研究所, 2015 年 12 月]。

巖 善平

①「戸籍制度改革与農民工の市民化」(『浙江工商大学学报』, 2015 年第 5 期, 117～122 頁, 杭州：浙江工商大学雜誌社, 2015 年 9 月)。

①「中国の大都市における教育拡大と教育達成の決定要因：天津市民調査に基づく実証分析」(魏禕, 『中国研究月報』, 第 69 卷第 12 号, 1～15 頁, 中国研究所, 2015 年 12 月)。

①「第 1 章 戸籍制度改革と農民工の市民化」(加藤弘之・梶谷懐編『二重の罫を超えて進む中国型資本主義：「曖昧な制度」の実証分析』, 21～42 頁, ミネルヴァ書房, 2016 年 3 月)。

①「中国の農村と都市における就業率およびその決定要因：CHIP 調査 1988-2010 に基づく実証分析」(『中国 21』, 第 34 号, 81～104 頁, 愛知大学現代中国学会・東方書店, 2016 年 3 月)。

黄 東蘭

①「歴史学」(中国研究所編『中国年鑑 2015』, 228～230 頁, 毎日新聞出版, 2015 年 5 月)。

①「一部欠失『開化』的『開化史』：田口卯吉『支那開化小史』与日本近代文明史学的困境」(『南京大学学报(哲学・人文科学・社会科学版)』, 2015 年 6 号(通算 228 号), 68～85, 155～156 頁, 南京：南京大学学报編輯部, 2015 年 11 月)。

①書評「大里浩秋・孫安石編著『近現代中国人日本留学生の諸相：「管理」と「交流」を中心として』』（『史学雑誌』，第125編第1号，142～143頁，史学会，2016年1月）。

③「明治期漢文中国史著作の歴史叙述」（アジア教育史学会2015年度大会シンポジウム，於：立正大学，2015年8月18日）。

③「東洋史的創出：那珂通世与明治日本中国史叙述的転向」（於：中央研究院近代史研究所（台北），2015年8月26日）。

小杉 泰

①「イスラーム経済とハラール人生哲学」（『青淵』，793，16～18頁，渋沢栄一記念財団，2015年4月）。

①「現代イスラームにおける国家と宗教：変容する国家像と越境するウンマ」（『宗教研究』，89巻，53～78頁，日本宗教学会，2015年9月）。

①「イスラームの平和思想」「イスラーム復興運動」「ジハード」（広島市立大学広島平和研究所編『平和と安全保障を考える事典』，法律文化社，2016年3月，[事典項目]）。

③“IA Vision of Islamic Revival and the Philosophy of a Halal Life: Framing Islamic Economics in a Global Perspective”，in Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance, Kyoto University, Kyoto, Japan, 4 Aug. 2015.

③“Islamic Civilization’s Contribution to the Global Society and the Philosophy of a Halal Life”，in the 6th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2015) “Upholding the Dignity of Islamic Civilization”，National University of Malaysia, Selangor, Malaysia, 29-30 Sep. 2015.

小浜 正子

①「歴史教育のジェンダー主流化へ向けて：日本学術会議ジェンダー史分科会などの取組から」（大阪大学歴史教育研究会・史学会編『史学会125周年リレーシンポジウム1 教育が開く新しい歴史学』，86～103頁，山川出版社，2015年11月）。

②監訳『スーザン・マン著『性からよむ中国史：男女隔離・纏足・同性愛』』（L. グローブ監訳／秋山洋子，板橋暁子，大橋史恵訳），平凡社，2015年，316頁）。

- ②『ジェンダーの中国史（アジア遊学 191）』（勉誠出版，2015年，295頁）。
- ③“Birth Planning and Transformation of Rural Families in China”，in the 3rd Congress of the Asian Association of World Historians (AAWH2015)，Nanyang Technological University，Singapore，31 May 2015.

小松 久男

- ①書評「山内昌之『中東国際関係史研究：トルコ革命とソビエト・ロシア 1918-1923』」（『歴史学研究』，933号，71～74頁，歴史学研究会，2015年7月）。
- ①「トイとイスラーム：歴史と現在」（『ロシア・ユーラシアの経済と社会』，999号，2～17頁，ユーラシア研究所，2015年11月）。
- ①「『韃靼の志士』イブラヒムの夢」（上廣倫理財団編『わが師・先人を語る 2』，229～266頁，弘文堂，2015年12月）。
- ①「歴史の中の中央アジア：ゼンギーアタからの眺望」（『国際問題』，647号，6～15頁，日本国際問題研究所，2015年12月）。

小南 一郎

- ①“The School System in Ancient China”，*Acta Asiatica*，109，pp. 1-15，Tokyo: Tōhō Gakkai，Aug. 2015.
- ①「部族符号の展開と金文の形成」（『泉屋博古館紀要』，31，1～36頁，泉屋博古館，2015年12月）。
- ②『唐代伝奇小説論』（北京：北京大学出版社，2015年，202頁，[訳：童嶺]）。
- ②『「大目連経」と「目連救母経」：目連救母伝承中の位置づけ』（アインズ株式会社，2015年，22頁，[科学研究費補助金基盤研究（C）「浙江金華口承文芸研究：語りもの芸能「金華道情」を中心に」，課題番号：26370418，研究代表者：松家裕子]）。

近藤 信彰

- ③“State and Shrine in Iran: Waqf Administration of the Shah ‘Abd al-‘Azim Shrine under the Qajars”，in the 4th International Symposium of Inter-Asia Research Networks，Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial

Donations, Toyo Bunko, Tokyo, Japan, 5, Dec. 2015, [*Modern Asian Studies Review*, Vol. 7, pp. 40–41, Tokyo: The Toyo Bunko, Mar. 2016].

佐藤 健太郎

- ①訳・註「イブン・ハルドゥーン自伝8」(〈中村妙子, 柳谷あゆみ, 橋爪烈訳註／五十嵐大介註〉, 『イスラーム地域研究ジャーナル』, Vol. 8, 64～91頁, 早稲田大学イスラーム地域研究機構, 2016年3月).
- ②「17世紀チュニジアのモリスコ」(神崎忠昭編『断絶と新生: 中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』, 233～260頁, 慶應義塾大学言語文化研究所, 2016年3月).

佐藤 仁史

- ①「近代江南的漁民与信仰: 以天主教为中心」(『近代中国基督教史研究集刊』, 10期, 107～118頁, 香港: 香港浸会大学, 2015年6月).
- ②“The Recent History of the Fishing Households of the Nine Surnames: A Survey from the Counties of Jiande and Tonglu, Zhejiang Province”, He Xi and David Faure eds., *The Fisher Folk of Late Imperial and Modern China: A Historical Anthropology of Boat-and-Shed Living*, pp. 173–182, London: Routledge, Dec. 2015.
- ③「中国近现代史研究における研究情報のデジタル化」(漢字文献情報処理研究会編『論集: 中国学と情報化』, 79～90頁, 好文出版, 2016年3月).
- ④「従林産看近代銭塘江流域社会: 以建德和桐廬の口述調査为中心」(2015年中国社会科学論壇: 中国古代社会变化与思想変遷国際學術研討会, 於: 中国社会科学院歴史研究所, 2015年11月6日).
- ⑤「民国時期日本在上海地区的宗教調査: 以大谷派僧侶藤井草宣為例」(中央研究院台湾史研究所主催「第四屆族群, 歴史与地域社会研討会」, 於: 中央研究院台湾史研究所(台北), 2015年11月20日).

塩沢 裕仁

- ①「函谷関遺跡考証: 四つの函谷関遺跡について」(『東洋文化研究所紀要』, 第169冊, 463～502頁, 東京大学東洋文化研究所, 2016年3月).
- ③「『水経注』と都城・集落遺跡」(魏晋南北朝史研究会大会, 於: 東京大学法文1号館, 2015年9月19日).
- ③「2016年黄河古河道調査の概要について」(ワークショップ「前近代中

国における交通路と関津の環境史学的研究」, 於: 京都外国語大学国際交流会館, 2016年2月21日).

篠木 由喜

- ②『解体新書展: ニッポンの「医」の歩み1500年』((公財) 東洋文庫, 2016年, 28頁, [項目執筆: 14, 17, 18, 20]).
- ③「東洋文庫の学習支援活動」(東京都歴史教育研究会, 於: (公財) 東洋文庫, 2015年8月25日).

斯波 義信

- ②『モリソンパンフレットの世界II: 近代アジアとモリソンコレクション(東洋文庫論叢第79)』((公財) 東洋文庫, 2016年, viii + 232頁).
- ③“Discussant Comment”, in 17th World Economic History Congress Kyoto 2015 “Diversity in Development”, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 4 Aug. 2015, [on Kent Deng, “Demystifying Growth and Development in Northern Song China, 960-1127”, and William Guanglin Liu, “A Study of the Evolution of China’s Farming Patterns and Changes in Agricultural Productivity, ca. 1000-1500”].
- ③「華僑商事制度中の「関係」: 公司, 合股, 承包」(海外華商ネットワークと華商組織国際学術研討会, 於: 華中師範大学(武漢), 2015年11月7日).
- ③「在日本的中国史研究の実証」(華東師範大学歴史系特別講演会, 於: 華東師範大学(上海), 2015年11月9日).

嶋尾 稔

- ①書評「桃木至朗著『中世大越国家の成立と変容』」(『東南アジア: 歴史と文化』, 第44号, 194~197頁, 東南アジア史学会, 2015年5月).
- ①「『初学問津』に関する覚書」(『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』, 第47号, 201~211頁, 慶應義塾大学言語文化研究所, 2016年3月).

島田 竜登

- ①書評「ジェームス・C・スコット著, 佐藤仁監訳『ゾミア 脱国家の世界史』」(『比較文明』, 第31号, 94~98頁, 比較文明学会, 2015年11月).
- ①「近世バタヴィアのモール人」(守川知子編『移動と交流の近世アジア史』, 249~274頁, 北海道大学出版会, 2016年3月).

②『アジア経済史研究入門』（〈水島司，加藤博，久保亨〉，名古屋大学出版会，2015年，390頁）。

③“A Spatial Analysis of Ethnicity and Land-use of Batavia, 1619–1930”, in the 3rd Congress of the Asian Association of World Historians (AAWH2015), Nanyang Technological University, Singapore, 30 May 2015.

③“South Asian Settlers at Batavia in the Seventeenth and Eighteenth Centuries”, in 17th World Economic History Congress Kyoto 2015 “Diversity in Development”, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 6 Aug. 2015.

徐 小潔

①「孫文逝去直後の日本輿論」（『孫文研究』，第57号，31～42頁，孫文研究会，2015年12月）。

城山 智子

①「黄浦浚渫（1907–1910）：モリソン・パンフレット内資料の位置づけ」（斯波義信編『モリソンパンフレットの世界Ⅱ：近代アジアとモリソンコレクション（東洋文庫論叢第79）』，157～177頁，（公財）東洋文庫，2016年3月）。

真道 洋子

①“Islamic Glass with Impressed Decoration: The Problem of Dating and Production”, *Annales du 19e congrès de l'Association Internationale pour l'histoire du verre (Piran, 17th–21st September 2012)*, pp. 455–461, Koper: l'Association Internationale pour l'histoire du verre, 2015.

③“Study on the Early Islamic Glass in the Bukhara Oasis Uzbekistan”, in the 15th Congress of the International Association of Glass History, Fribourg University, Fribourg, Switzerland, 11 Sep. 2015.

新免 康

①“The Historical Significance of Chitän Mazār in Yarkand City”, Sugawara Jun and Rahilä Dawut eds., *Mazar: Studies on Islamic Sacred Sites in Central Eurasia*, pp. 177–188, Tokyo: Tokyo University of Foreign

Studies Press, Mar. 2016.

①「中国新疆における回部王公の現代」(梅村坦編『中央ユーラシアへの現代的視座(中央大学政策文化総合研究所研究叢書 21)』, 81～126 頁, 中央大学出版部, 2016 年 3 月)。

杉山 清彦

①書評「『描かれた倭寇：「倭寇図巻」と「抗倭図巻」』」(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』, 69 号, 10～11 頁, 東京大学史料編纂所, 2015 年 4 月)。

①「二つの新興軍事政権：大清帝国と徳川幕府」(清水光明編『「近世化」論と日本「東アジア」の捉え方をめぐって(アジア遊学 185)』, 41～55 頁, 勉誠出版, 2015 年 6 月)。

③「2013 年 10 月コーカサス(グルジア・アルメニア)調査報告」(第 52 回日本アルタイ学会, 於：長野県信濃町, 2015 年 7 月 18 日, [岩田啓介「彙報「第 52 回野尻湖クルルタイ」」, 『東洋学報』, 97-3, 66～67 頁, (公財)東洋文庫, 2015 年 12 月])。

③「マンジュ(満洲)から見た大清帝国の支配構造」(東北大学東北アジア研究センター創設 20 周年記念企画国際シンポジウム「東北アジア：地域研究の新たなパラダイム」, 於：仙台国際センター, 2015 年 12 月 6 日)。

③“The Qing Empire as a Central Eurasian State: From the Manchu Khanate to the Early-modern Eurasian Empire”, in Global History Workshop “Globalization from East Asian Perspectives”, Osaka University Nakanoshima Center, Osaka, Japan, 15 Mar. 2016.

鈴木 恵美

①「スィー・スィー政権の支配構造：その耐久性と脆弱性」(『平成 27 年度外務省外交・安全保障調査研究事業 安全保障政策のリアリティ・チェック—新安保法制・ガイドラインと朝鮮半島・中東情勢—中東情勢・新地域秩序』, 115～126 頁, 日本国際問題研究所, 2016 年 3 月)。

③「ムバーラク政権崩壊後にみる政治秩序形成」(日本比較政治学会 2015 年度研究大会, 於：上智大学四谷キャンパス, 2015 年 6 月 27 日)。

砂山 幸雄

①書評「江藤名保子著『中国ナショナリズムのなかの日本：「愛国主義」の

変容と歴史認識問題』(『中国研究月報』, 69-5, 20~22頁, 中国研究所, 2015年5月).

①「惲代英就像是年輕人的心靈導師」(『中国青年』, 2015年17期, 30~31頁, 北京:中国青年雜誌社, 2015年9月).

①「東亜同文書院をめぐる一つのエピソード」(『現代中国』, 89, 32~34頁, 日本現代中国学会, 2015年9月).

①「『江南事件』と『李波事件』」(『中部經濟新聞』, 8頁, 中部經濟新聞社, 2016年2月24日).

妹尾 達彦

①「隋唐長安城と関中平野の土地利用:官人居住地と墓葬地の變遷を中心に」(妹尾達彦編『特集東アジアの都城と葬制(都市と環境の歴史学 第3集 [増補版])』, 31~181頁, 中央大学文学部東洋史学研究室, 2015年7月).

①「人類史と東アジア史の時期区分」(中国社会科学院歴史研究所・東方学会編『中国史の時代区分の現在(第6回日中学者中国古代史論壇論文集)』, 27~36頁, 汲古書院, 2015年8月).

③「シルクロードと長安のソグド人」((公財)東洋文庫2015年度前期東洋学講座, (公財)東洋文庫, 2015年7月27日, [『東洋学報』, 97-4, 98~99頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月]).

③「“東亜都城時代”的誕生与國際關係的變遷」(北京論壇歴史学分論壇「融合与拡散:区域与都市歴史地理變遷的不同路径」, 於:北京大学, 2015年11月7日).

關尾 史郎

①「長沙吳簡吏民簿の研究:「嘉禾六(二三七)年廣成鄉吏民簿」の復元と分析(上)」(『人文科学研究』, 第137輯, 縦27~98頁, 新潟大学人文学部, 2015年11月).

①「大夏政權の国制与徙民措置:吳洪琳『鉄弗匈奴与夏国史研究』読後」(侯甬堅・邢福来・鄭輝・安介生・陳識仁編『統万城建城一千六百年國際學術研討会文集』, 274~282頁, 西安:陝西師範大学出版總社, 2015年12月).

③「『“五胡”時代的墓誌与其周辺』補説」(中国魏晋南北朝史学会・山西大同大学主弁「北朝文化國際學術研討会暨第三届雲岡文化論壇」, 於:御河印

象精品酒店（大同），2015年9月19～20日）。

③「名刺簡をめぐる諸問題」（科研シンポジウム「後漢・魏晉簡牘研究の現在」，於：東京大学本郷キャンパス，2015年9月20日）。

③「『随葬衣物疏与鎮墓文』補説：以『唐顕慶元（656）年宋武欽移文』为中心」（南開大学・中華書局・中国唐史研究会・中国元史研究会・『歴史教学』社主弁「紀念楊志玖先生誕辰一百周年隋唐宋元時期的中国与世界国際學術研討会」，於：南開大学明珠園（天津），2015年10月9～12日）。

曾田 三郎

①「20世紀初頭の中国の知的環境と日本」（『中国四国歴史学地理学協会年報』，12，2～12頁，中国四国歴史学地理学協会，2016年3月）。

高田 幸男

①「賈士毅：中国近代税制・財政のエキスパート」（『M-Style』，76，10頁，明治大学，2015年7月）。

①「『一個女子中学的課外生活』にみる日中戦争直前の中国女子中高生」（『明大アジア史論集』，20，78～82頁，明治大学東洋史談話会，2016年3月）。

③「從江蘇省教育会會員看民国江蘇文化教育界（江蘇省教育会會員からみた民国江蘇文化教育界）」（第三屆「近代文化与近代中国」學術研討会（第3回「近代文化と近代中国」国際シンポジウム），於：稻香湖景酒店（北京），2015年10月25日）。

高松 洋一

①「勅令の「裏側」を読む：大宰相府伝来の勅令正文に関する一考察」（近藤信彰編『近世イスラーム国家史研究の現在』，299～328頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2015年7月）。

①“Evllya Çelebi Seyahatnamesi'ne Göre Bitlis'te “Abdal Han'ın Kütüphanesi”，*Journal of Turkish Studies*, No. 44, pp. 419-436, Cambridge: Harvard University Print, 2015.

③「マフムト1世による Ayaşofya 図書館の蔵書形成：歴史書を中心として」（日本オリエント学会第57回大会，於：北海道大学人文社会学総合教育研究棟（W棟），2015年10月18日，[『オリエント』，58-2，264頁，日本オリエント学会，2016年3月]）。

③「オスマン朝の勅令起草過程で作成される文書類型について：大宰相府と財務長官府の協働の観点から」（2015年度東洋史研究会大会，於：京都大学文学部校舎第3講義室，2015年11月3日，[『東洋史研究』，74-3，251頁，東洋史研究会，2015年12月]）。

③“T. Mahmûd’un İstanbul’da Kurduğu Üç Kütüphane: Ayasofya, Fatih ve Galatasaray Kütüphaneleri”, in “XVIII. Yüzyıl Osmanlı Kitap Koleksiyonları Bilgi Üretimi ve Dağılımı” Sempozyumu, Koç Üniversitesi Anadolu Medeniyetleri Araştırma Merkezi, İstanbul, Türkiye, 25 Dec. 2015.

瀧下 彩子

③「北支観光イメージの希求と発信：華北交通写真を手がかりに」（東亜学術論壇2016：交錯する東アジア像，於：石川県政記念しいのき迎賓館，2016年2月23日）。

武内 紹人

② *Tibetan Texts from Khara-khoto: Descriptive Catalogue*, Studia Tibetica 48, (Maho Iuchi), Tokyo: The Toyo Bunko, 2016, iv + 561p.

②『チベット語文法研究（神戸市外国語大学研究叢書第57号）』（神戸市外国語大学外国語学研究所，2016年，iv + 186頁）。

武内 房司

①「彝族「女土官」考：明王朝の公認を受けた西南少数民族の女性首長たち」（小浜正子編『ジェンダーの中国史（アジア遊学191）』，248～260頁，勉誠出版，2015年11月）。

②監訳『李世瑜著『中国近代の秘密宗教』』（研文出版，2016年，424頁）。

③「天地会与近代越南南部社会」（中国人民大学清史研究所等主催「民間文献与華人社会」暨秦宝琦教授八秩慶国際学術研討会，於：北京蟹島会議度假村会議楼，2015年9月12日）。

武田 幸男

①「広開土王碑模刻本「観峰館本」の研究」（『観峰館開館二〇周年記念論文集』，4～35頁，日本習字教育財団観峰館，2015年10月）。

①「広開土王碑「田山花袋本」の研究」（『田山花袋記念文学館研究紀要』，

28, 1～32 頁, 館林市教育委員会文化振興課田山花袋記念文学館, 2016 年 3 月).

田島 俊雄

- ①「中国の雑豆生産と対外貿易：日本は中国産小豆をいつまで輸入できるか」(『豆類時報』, No. 79, 45～59 頁, 日本豆類協会, 2015 年 6 月).
- ①「中国農業の現状をどうとらえるか」(『農業と経済』, 2015 年 12 月臨時増刊号, 1～5 頁, 昭和堂, 2015 年 12 月).
- ①「『アズキと東アジア』を語る」(『中国研究月報』, 第 70 巻第 3 号, 45～48 頁, 中国研究所, 2016 年 3 月).
- ②『中国体制転軌中の増長, 績効与産業組織変化：対中国若干行業的実証研究』(〈江小涓, 丸川知雄〉, 上海：格致出版社・上海三聯書店・上海人民出版社, 2015 年, 236 頁).
- ②『アズキと東アジア：日中韓台の域内市場と通商問題』(〈張馨元, 李海訓〉, 御茶の水書房, 2016 年, 326 頁).

多田 狷介

- ①「陳橋駅先生を偲ぶ」(『日中文化交流』, 831, 6 頁, 日中文化交流協会, 2015 年 7 月).
- ②翻訳『張宏傑著『中国国民性の歴史的変遷：専制主義と名誉意識』(〈小林一美, 土屋紀義, 藤谷浩悦〉, 集広舎, 2016 年, 395 頁).

立川 武蔵

- ① “The Structure of Japanese Buddhist Homa”, Richard Payne and Michael Witzel eds., *Homa Variations: The Study of Ritual Change across the Longue Durée*, pp. 126–140, Oxford: Oxford University Press, Jan. 2016.
- ①「戦前・戦中の日本における仏教思想批判：特に鈴木大拙について」(『東海仏教』, 61, 1～15 頁, 東海印度学仏教学会, 2016 年 3 月).
- ②『マンドラ瞑想と密教思想』(春秋社, 2015 年, 753 頁).
- ②『ネパール密教』(春秋社, 2015 年, 207 頁).

田仲 一成

- ①「観音菩薩在祭祀戲劇中的地位和功能」(陳益源主編『府城大觀音亭与觀音信仰研究』, 21～52 頁, 台北：里仁書局, 2015 年 4 月).

- ①「与中国戲劇結下不解之縁：專訪日本漢学家田仲一成教授」(『国学漢学名家訪談(貳)』, 174～181頁, 香港：中国文化院, 2015年12月)。
- ②『中国鎮魂演劇研究』(東京大学出版会, 2016年, 888頁)。

田中 仁

- ①「一九三〇年代上海日本人社会の変容：『金風社人名録』のデータベース化と考察」(〈鄒燦, 前田輝人〉, 『阪大法学』, 第65巻第2号, 393～445頁, 大阪大学法学会, 2015年7月)。
- ①「21世紀日本学界有関日中戦争史研究」(『史学月刊』, 2015年第9期, 5～10頁, 開封：河南大学・河南省歴史学会, 2015年9月)。
- ②『1930年代上海日本居留民社会的変遷：『金風社人名録』的数拠庫化及其考察(大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパーNo. 2015-10)』(〈鄒燦, 前田輝人〉, 大阪大学中国文化フォーラム, 2015年, 23頁)。
- ②『中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来：地域研究における文理融合モデルの探求(OUFCブックレット第8巻)』(〈思沁夫, 豊田岐聡〉, 大阪大学中国文化フォーラム, 2016年, 160頁)。
- ②『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構築・公開に向けて(OUFCブックレット第9巻)』(〈堤一昭〉, 大阪大学中国文化フォーラム, 2016年, 142頁)。

田中 比呂志

- ①書評「藤谷浩悦著『湖南省近代政治史研究』」(歴史科学協議会編『歴史評論』, 783号, 99～103頁, 校倉書房, 2015年7月)。
- ①「村の歴史と個：ある無名の農民の半生(1)」(『東京学芸大学紀要(人文社会科学Ⅱ)』, 67集, 69～79頁, 東京学芸大学, 2016年1月)。
- ②『袁世凱：統合と改革への見果てぬ夢を追い求めて(世界史リブレット人78)』(山川出版社, 2015年, 96頁)。
- ③「近世日本社会と中国社会」(於：華中師範大学中国農村研究院, 2015年5月27日)。

C. A. ダニエルズ

- ③「試論改土帰流後の土官：以雲南蒙化左氏土官為例」(第五届中国土司制度与土司文化国際学術研討会大会, 於：世紀柏源酒店(貴州省遵義市),

2015年7月30日)。

③ “The Joseph Needham Intellectual Heritage: Universality of Science with or without Civilization”, in 10th Joseph Needham Memorial Lecture, Room CPO-1. 21, Central Podium Level, Centennial Campus, The University of Hong Kong, Pokfulam, Hong Kong, 9 Dec. 2015, [co-sponsored by HKUST, HKU and East Asian History of Science Foundation (Hong Kong)].

P. ツィーメ

① “Notes sur les textes chrétiens en vieux-ouïgour”, P. G. Borbone and P. Marsone eds., *Le christianisme syriaque en Asie centrale et en Chine*, Etdues syriaques 12, pp. 185–198, Paris: Geuthner, 2015.

① “Von Altuigurischen Duftstoffen und Heilmitteln”, *Iran and the Caucasus*, 19-1, pp. 69–78, Leiden: Brill, 2015.

① “Notizen zu Ver- und Entschmelzungen im Altuigurischen”, Bülent Gül ed., *Alkiş Bitigi. Kemal Eraslan Armağanı*, pp. 277–282, Ankara: Türk Kültürünü Araş, turma Enstitüsü, 2015.

① “Philologische Bemerkungen zum altuigurischen eltiš-‘sich vertragen’”, I. Hauenschild, M. Kappler, and B. Kellner-Heinkele eds, *Eine hundertblättrige Tulpe: Bir şadbag lāla. Festgabe für Claus Schönig*, pp. 487–497, Berlin: Klaus-Schwarz-Verlag, 2016.

塚原 東吾

③「東洋と西洋の接触：蘭学における医学の意味を〈藤井文庫のコレクションから〉再考する」(2015年度後期東洋学講座, (公財) 東洋文庫, 2015年11月27日, [『東洋学報』, 97-4, 107～109頁, (公財) 東洋文庫, 2016年3月])。

辻本 裕成

①「末代の医療かくあるべし：『医談抄』の衰退史観をめぐって」(『南山大学日本文化学科論集』, 16号, 1～16頁, 南山大学日本文化学科, 2016年3月)。

土田 哲夫

- ①「近代中国的民間団体与国際関係：中国国際聯盟同志会的事例研究」（『紀念 世界反法西斯戦争勝利 70 周年国際学術研討会論文集』，173～186 頁，延吉：延辺大学，2015 年 8 月）。
- ②『アジア・太平洋戦争辞典』（〈吉田裕ほか〉，吉川弘文館，2015 年，827 頁，[「国民革命軍」「国民政府」等計 18 項目，66～67，216～217，219，221～222，231～232，284，287，310，331，333～334，357～359，413，415～416，474 頁]）。
- ②『近現代東アジアの文化と政治』（中央大学出版部，2015 年，351 頁）。
- ③「市古宙三先生と中央大学」（ワークショップ「戦後中国近代史研究と東洋文庫：市古先生のお仕事を偲ぶ」，於：（公財）東洋文庫，2015 年 6 月 20 日）。
- ③「現代中国資料研究の最前線：東洋文庫拠点第 2 期の活動成果」（〈相原佳之〉，2015 年度現代中国地域研究プログラム国際シンポジウム，於：愛知大学，2016 年 2 月 21 日）。

坪井 祐司

- ②『『カラム』の時代Ⅶ：コラム「千一問」にみるマレー・ムスリムの宗教実践』（〈山本博之〉，京都大学地域研究統合情報センター，2016 年，95 頁）。
- ③「1930 年代の英領マラヤにおけるマレー人の地位をめぐる論争：ジャウィ新聞『マジユリス』の分析から」（東南アジア学会第 93 回研究大会，於：愛媛大学城北キャンパス，2015 年 5 月 30 日）。
- ③“Malayness under Multilingual Controversies in British Malaya during the 1930s”，in the 9th International Convention of Asia Scholars (ICAS9), Adelaide, Australia, 7 July 2015.
- ③“Everyday Forms of Islamic Practices in Multi-ethnic Malaya”，in International Workshop “Toward Social History of Malay Muslims: Islamic Principles and Local Practices from the Perspective of Majalah Qalam (1951-1969)”，Kuala Lumpur, Malaysia, 22 Feb. 2016.

寺田 浩明

- ①書評「山本英史編『中国近世の規範と秩序』」（『法制史研究』，65 号，216～221 頁，成文堂，2016 年 3 月）。
- ③「法制史の立場から見た伝統中国の“国家”と“社会”」（シンポジウム

「清代巴県社会とは何か? : 中国国家・社会二元論の再検討」, 於: 京都大学, 2016年2月20日).

徳原 靖浩

①「イスラーム地域研究資料の収集・整理・利用の課題と展望」(『情報の科学と技術』, 66-1, 8~13頁, 情報科学技術協会, 2016年1月).

土肥 祐子

①「南宋期, 最初の宮殿での占城(チャンパ)の朝貢: 泉州出発, 都での儀礼, 帰路につくまで」(『南島史学』, 83号, 15~39頁, 南島史学会, 2015年11月).

③「南宋期, 紹興二十五年, 占城(チャンパ)の朝貢: 泉州出発, 都での儀礼, 帰路につくまで」(2015年度「日本学与台湾学」国際学術研討会, 於: 静宜大学任垣楼国際会議庁(台北), 2015年5月30日, [『2015年度「日本学与台湾学」国際学術研討会会議手冊』, 1~18頁, 2015年5月]).

③「海外貿易品“乳香”考: 『慶元条法事類』与乳香の用途」(第三届中国南宋史国際学術研討会, 於: 杭州星都賓館跨虹庁, 2015年11月8日, [『第三届中国南宋史国際学術研討会論文集上冊』, 263~279頁, 杭州市社会科学院, 2015年11月(訳: 汪肅晨)]).

土肥 義和

③「大宋沙門道圓三蔵の西域求法の旅」(2015年度前期東洋学講座, 於: (公財)東洋文庫, 2015年7月22日, [『東洋学報』, 97-4, 95~97頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月]).

富澤 芳亜

①「同興紡織上海商務課長の回顧(上): 調虎雄氏(同興紡織)インタビュー」(〈桑原哲也, 『近代中国研究彙報』, 38号, 1~24頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月).

③「近代中国綿業と日本: 技術を通して考える」(大阪経済大学日本経済史研究所黒正塾第17回寺子屋, 於: 大阪経済大学, 2015年7月11日).

③“Convergence and Divergence: The Role of Chinese ‘Characteristics’ and Global Factors in the Development of China’s Economy in the Early 20th Century”, (Kubo Toru, Elisabeth Koll, Ashizawa Chie, Wei

Zhang, Saoyang Hong), in 17th World Economic History Congress Kyoto 2015 “Diversity in Development”, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 6 Aug. 2015.

③「近代中国における紡織技術者養成について」(2015年度広島史学研究会大会東洋史部会, 於: 広島大学, 2015年10月25日).

中兼 和津次

①「石川滋と中国経済研究」(『アジア経済』, 65-3, 93~113頁, アジア経済研究所, 2015年9月).

①「『新常态』と新「中華帝国」の夢: 習近平政権をどう捉えるか」(『国際問題』, 第649号, 1~4頁, 日本国際問題研究所, 2016年3月).

①「民営化, 市場化と制度化の連鎖関係: 民営化は市場の発展に必要なか」(〈三竝康平〉, 加藤弘之・梶谷懐編『二重の罟を超えて進む中国型資本主義: 「曖昧な制度」の実証分析』, 147~172頁, ミネルヴァ書房, 2016年3月).

③“Nexus among Privatization, Marketization and Institutionalization during Transition Process: An Experimental Analysis Based on China’s Provincial Panel Data”, in the World Congress of Comparative Economics, Rome Tre University, Rome, Italy, 25 June 2015.

長沢 栄治

①“mustaqbal anzima ma ba’d al-isti’mar fi al-watan al-‘arabi (the future of post-colonial regimes in the Arab world)”, *Idafat* (bulletin of the Arab Association of Sociology), Vol. 31-32, pp. 134-140, Beirut: The Arab Association of Sociology, Oct. 2015.

①“ta’ammulat hawla al-takhtit li-sinariyuhah muhtamala fi al-sharq al-awsat (some reflections on scenario planning for the Middle East)”, *Mediterranean World*, Vol. 22, pp. 169-182, Tokyo: Mediterranean Studies Group at Hitotsubashi University, Dec. 2015.

①「ナクバ〈以後〉を生きる: 難民とパレスチナ問題」(川喜田敦子・西芳実編『歴史としてのレジリエンス 戦争・独立・災害』, 178~219頁, 京都大学学術出版会, 2016年3月).

①書評「北澤義之著『アラブ連盟』」(『イスラーム世界研究』, 第9号, 169~182頁, 京都大学イスラーム地域研究センター, 2016年3月).

永田 雄三

- ②『世紀末イスタンプルの演劇空間：都市社会史の視点から』（〈江川ひかり〉、白帝社、2015年、356頁）。

長縄 宣博

- ① “A Civil Society in a Confessional State? Muslim Philanthropy in the Volga-Urals Region”, in Adele Lindenmeyr, Christopher Read, and Peter Waldron eds., *Russia's Home Front in War and Revolution, 1914–1922*, Book 2, *The Experience of War and Revolution*, pp. 59–78, Bloomington, IN: Slavica Publishers, 2016.
- ②『越境者たちのユーラシア（シリーズ・ユーラシア地域大国論5）』（〈山根聡〉、ミネルヴァ書房、2015年、233頁）。
- ②『北西ユーラシア歴史空間の再構築：前近代ロシアと周辺世界（スラブ・ユーラシア叢書）』（〈小澤実〉、北海道大学出版会、2016年、338頁）。
- ③ “An Imperial Pathway: Karim Khakimov in the Southern Urals, Turkestan, and Iran (1919–1921)”（国際中東欧研究学会（ICCEES）第9回世界大会、於：神田外語大学、2015年8月7日）。
- ③「宗教行政と公共圏：ヴォルガ・ウラル地域のムスリムの銃後」（ロシア史研究会2015年度大会共通論題「第一次世界大戦とロシア（Ⅱ）：戦争・帝国・民族」、於：早稲田大学、2015年10月11日）。

中見 立夫

- ①「内藤湖南対盛京故宮清朝史料の探尋」（白文煜主編『清前歴史与盛京文化：清前史研究中心成立暨紀念盛京定名380周年學術研討会』、下巻、704～712頁、瀋陽：遼寧民族出版社、2015年7月）。
- ①「『帝国』という空間における博物館を考える」（石井正巳編『博物館という装置：帝国・植民地・アイデンティティ』、2～18頁、勉誠出版、2016年3月）。
- ③「近代東アジアにおける「実録」の編纂と影印」（第60回国際東方学者会議シンポジウム4「近代東アジアにおける“実録”」、日本教育会館8階807-808会議室、2015年5月15日、[“‘実録’/Shilu, Sillok, Thực lục, Jitsuroku/’ in Modern East Asia”, *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, No. 60, pp. 120–125, Tokyo: Toho Gakkai,

2015]).

③ “Пересмотр Кяхтинского соглашения с точки зрения истории международных отношений в Восточной Азии”, Международной конференции “На границе народов, культур и миров” посвященной 125-летию Кяхтинского краеведческого музея им академика В. А. Обручева/The International Conference “On the Border of Peoples, Cultures, and World” Dedicated to the 125th Anniversary of the V. A. Obruchev Regional Studies Museum in Kyakhta, Актовый зал МБОУ “КСОШ № 2” г. Кяхта, 9 сентября 2015, [“Материалы международной научно-практической конференции ‘На границе народов, культур и миров’ посвященной 125-летию Кяхтинского краеведческого музея им. академика В. А. Обручева, Кяхта, 9–10 сентября 2015 г.”], Труды Кяхтинского краеведческого музея имени академика В. А. Обручева, Бурятского республиканского и Кяхтинского отделений русского географического общества, том 20 (2015), стр. 141–144].

中村 元哉

① 「中華民国憲法制定史：仁政から憲政への転換の試み」(『中国：社会と文化』, 第30号, 5～17頁, 中国社会文化学会, 2015年7月).

① 「一党支配を掘り崩す民意：立法院と国民参政会」(深町英夫編『中国議会100年史』, 105～118頁, 東京大学出版会, 2015年12月).

① 「從1940年代後半的中国自由主義思想看新民主主義階段(1950–1953年)的中国政治思想：法学家錢端升為中心」(『人間思想』, 第3期, 124～137頁, 上海：人間出版社, 2015年12月).

③ 「抗戰時期到戰後的南京, 重慶『中央日報』与国民政府：走向自立的過程」(中日戦争国際共同研究第六届學術研討会, 於：中央研究院近代史研究所(台北), 2015年12月20日).

新村 容子

① 「モリソンパンフレットより見る20世紀初頭アヘン追放運動」(斯波義信編『モリソンパンフレットの世界Ⅱ：近代アジアとモリソンコレクション(東洋文庫論叢第79)』, 1～52頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月).

西 英昭

- ①「中華民国諸法の欧米語への翻訳について：法律顧問・法学者とその活動」(『法政研究』, 82-1号, 256～208頁, 九州大学法政学会, 2015年7月).
- ①“A New Look at the Taiwan Shihō: A Re-examination of the Thought-Processes in the Making of a Report in Colonial Taiwan”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 73, pp. 141-169, Tokyo: The Toyo Bunko, 2015.
- ①「大正期日本における中華民国法学の展開について」(『法政研究』, 82-4, 1～32頁, 九州大学法政学会, 2016年3月).

馬場 英子

- ①「中国舟山群島の人形芝居「李三娘(白兔記)」紹介：「百合若」との類似について」(〈福田晃, 百田弥栄子, 金賛會〉, 福田晃・金賛會・百田弥栄子編『鷹と鍛冶の文化を拓く百合若大臣(伝承文学比較双書)』, 268～290頁, 三弥井書店, 2015年10月).
- ②『語りによる越後小国の昔ばなし(新潟大学人文学部研究叢書13)』(知泉書館, 2016年, 460頁).
- ③「留学生を交えた昔話の聞き取り」(〈崔仁鶴, 石井正己〉, 韓国比較民俗学会, 於：ソウル国立民俗博物館, 2015年8月24日, [『民俗学の過去と現在 比較民俗学会(予稿集)』, 47～50頁, 2015年8月]).

林 俊雄

- ①“Illig Qayan or Illik Qayan? A Small Inscription on a Roof Tile”, I. Nevskaya and M. Erdal eds., *Interpreting the Turkic Runiform Sources and the Position of the Altai Corpus*, pp. 46-54, Berlin: Klaus Schwarz Verlag, May, 2015.
- ①“Central Eurasia as a History World: Focusing on Its Steppe Zone from the Archaeological Viewpoint”(特力更・李錦繡編『内陸欧亚历史文化(国際学術研討会論文集)』, 1～16頁, 呼和浩特：内蒙古人民出版社, 2015年8月).
- ③「西アジアにおける鐙の出現」(第22回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会, 於：金沢大学, 2015年7月4日, [『西アジアにおける鞍と鐙の使用について(上)』, 『第22回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』, 79～

92 頁, ヘレニズム～イスラーム考古学研究会, 2015 年 12 月)].

③ “Migrations and Cultural Exchanges in the Eurasian Steppe” (草原絲綢之路考古国際学術研討会, 於: 中国人民大学 (北京), 2015 年 10 月 18 日).

平野 健一郎

① 「東洋文庫蔵『汪精衛政権駐日大使館文書』について」(相原佳之・尾形洋一・平野健一郎編『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』, iii～x 頁, (公財) 東洋文庫, 2016 年 3 月).

② 『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』(相原佳之, 尾形洋一), (公財) 東洋文庫, 2016 年, xiv + 526 頁).

③ “Keynote Address 1: Imagination for History: Beyond JACAR Data (歴史への想像力, JACAR を越えて)”, in International Conference “Vietnam-Indochina-Japan Relations during the Second World War, Documents and Interpretation”, University of Social Sciences and Humanities (USSH), Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 18 Sept. 2015.

④ 「ジョン・セーリスの『日本渡航記』について」(東洋文庫アカデミア 90 周年記念連続講座, 於: (公財) 東洋文庫, 2015 年 10 月 3 日).

⑤ 「平戸とイギリス: 1613 年・海のつながり」(れきぶん長崎学特別講座, 於: 長崎歴史文化博物館, 2015 年 12 月 13 日).

弘末 雅士

① 「ヨーロッパ人の植民地支配と東南アジアの海賊」(東洋文庫編『東インド会社とアジアの海賊』, 107～135 頁, 勉誠出版, 2015 年 4 月).

② 「東南アジア世界における奴隷」(『歴史と地理: 世界史の研究』, 243 (通巻 684), 52～55 頁, 山川出版社, 2015 年 5 月).

③ 「近代インドネシアにおける民族主義の展開と「混淆婚」: ニャイと欧亜混血者の陰」(水井万里子・伏見岳志・太田淳・松井洋子・杉浦未樹編『女性から描く世界史: 17～20 世紀への新しいアプローチ』, 18～33 頁, 勉誠出版, 2016 年 3 月).

④ 「東インドにおけるヨーロッパ系住民と現地人妻妾: 植民地体制下での婚姻をめぐる」(『平成 25 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 21 世紀海域学の創成—「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビ

ジョンヘー研究報告書 3], 19～29 頁, 立教大学アジア地域研究所, 2016 年 3 月).

深沢 眞二

- ① 「「有明の主水」一案」(『俳文学研究』, 64 号, 1～2 頁, 京都俳文学研究会, 2015 年 10 月).
- ① 「策彦周良の聯句文芸」(鈴木健一編『形成される教養 十七世紀日本の〈知〉』, 25～47 頁, 勉誠出版, 2015 年 11 月).
- ① 「芭蕉携行の句帳」(『国語と国文学』, 93-4, 3～19 頁, 東京大学国語国文学会, 2015 年 12 月).
- ① 「宗因独吟「やくわんやも」百韻注釈」(〈深沢了子〉, 『近世文学研究』, 7 号, 38～91 頁, 文学史探究の会, 2015 年 12 月).
- ② 『岩崎文庫貴重書誌解題Ⅷ: 東洋文庫絵本コレクション』(〈東洋文庫研究部日本研究班〉, (公財) 東洋文庫, 2016 年, 473 頁).

藤本 幸夫

- ① 「日本現存朝鮮本とその研究」(大高洋司・陳捷編『日韓の書誌学と古典籍 (アジア遊学 184)』, 12～23 頁, 勉誠出版, 2015 年 5 月).
- ① 「朝鮮本と蓬左文庫」(『日韓国交正常化 50 周年記念 豊かなる朝鮮王朝の文化: 交流の遺産』, 4～9 頁, 蓬左文庫, 2015 年 9 月).
- ② 『龍龕手鏡 (鑑) 研究』(麗澤大学出版会, 2015 年, 556 頁).
- ③ 「朝鮮本と蓬左文庫」(蓬左文庫開館 80 周年記念秋季特別展記念講演, 於: 徳川美術館講堂, 2015 年 9 月 19 日).

古田 和子

- ① 「東アジア 近現代 I : 19～20 世紀初頭」(水島司・加藤博・久保亨・島田竜登編『アジア経済史研究入門』, 49～62 頁, 名古屋大学出版会, 2015 年 11 月).
- ③ 「「近代」雑貨, 模造品市場, 工業化: 1900-2000 年代 東アジアの事例研究」(第 84 回社会経済史学会全国大会, 於: 早稲田大学, 2015 年 5 月 30 日).
- ③ “Small Things and Copy Culture in Global Economic History: From the Perspectives of 19-20th Centuries East Asia”, in 17th World Economic History Congress Kyoto 2015 “Diversity in Development”,

Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 5 Aug. 2015.

③ “Product Imitation, Trademark Counterfeiting, and the Market in Early 20th Century Japan and China: Intra-Asian Trade in Modern Small Sundry Goods”, in 17th World Economic History Congress Kyoto 2015 “Diversity in Development”, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 5 Aug. 2015.

③ “Comments on Economic Information in Motion: Case Studies on Early Twentieth-Century East Asia”, in 17th World Economic History Congress Kyoto 2015 “Diversity in Development”, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 6 Aug. 2015.

古屋 昭弘

① 「王仁昫『刊謬補欠切韻』的失誤与又切」(周碧香編『語言之旅』, 82～98頁, 五南, 2015年8月).

① 「近30年『正字通』研究概況」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』, 第61輯, 121～134頁, 早稲田大学大学院文学研究科, 2016年3月).

② 『クラウン中国語単語700』(〈和平〉, 三省堂, 2015年, 192頁, [監修]).

寶劍 久俊

① 「農業産業化と契約農業」(『農業と経済』, 2015年12月臨時増刊号(第81巻11号), 111～119頁, 昭和堂, 2015年12月).

① 「中国農民專業合作社の経済効果の実証分析」(〈佐藤宏〉, 一橋大学経済研究所編『経済研究』, 第67巻第1号, 1～16頁, 岩波書店, 2016年1月).

③ “Effects of Agricultural Cooperative on Household Income Using PSM-DID: A Case Study from Rice-Producing Cooperative in China”, in the Chinese Economists Society (CES) 2015 Annual Conference “In the Context of ‘New Normal’ Theory: Deepen the Comprehensive Reform in China”, Chongqing, China, 14 June 2015.

③ “Japanization of Rice Production in Jiangsu”, in Association for Asian Studies (AAS) in Asia Conference “Asia in Motion: Ideas, Institutions, Identities”, Academia Sinica (AS), Taipei, Taiwan, 24 June 2015.

③ 「『職場へのコミットメント』の高さは農民工の離職意向を低下させるのか? 江蘇省蘇州市の職務意識調査に基づく実証分析」(〈山口真美, 佐藤

宏), 中国経済経営学会 2015 年全国大会, 於: 龍谷大学, 2015 年 11 月 7 日).

細谷 良夫

① 「山形細谷(細矢)家伝来「大明地理之図」: 江戸時代の東アジア大絵図」(〈小沼孝博〉, 『東洋学報』, 97-1, 97~99 頁, (公財) 東洋文庫, 2015 年 6 月, [2014 年度後期東洋学講座講演要旨]).

① 「三藩の乱「平定の詔」頒布の後: 耿精忠と尚之信」(『日中韓周縁域の宗教文化』, Vol. 2, 7~31 頁, 東北学院大学アジア流域文化研究所, 2016 年 3 月).

牧野 元紀

① 「序論 アラビア海から東シナ海までの船旅」(東洋文庫編『東インド会社とアジアの海賊』, iii~xvii 頁, 勉誠出版, 2015 年).

② 『大地図展: フェルメールも描いたブラウの世界地図』((公財) 東洋文庫, 2015 年, 28 頁, [項目執筆: 「『ブラウ大地図帳』前史: アントワープからアムステルダムへ」, 「ブラウ大地図帳の完成」, 「地図に見る東西文化交流」, 3, 4, 6~9]).

② 『解体新書展: ニッポンの「医」の歩み 1500 年』((公財) 東洋文庫, 2016 年, 28 頁, [項目執筆: 3, 4, 6, 25, 26, 28]).

松井 太

① “Old Uigur Toponyms of the Turfan Oases”, Elisabetta Ragagnin, Jens Wilkens, and Gökhan Şilfeler eds., *Kutadgu Nom Bitig: Festschrift für Jens Peter Laut zum 60. Geburtstag*, pp. 275-304, Wiesbaden: Harrassowitz, Sept. 2015.

① “Six Seals on the Verso of Čoban’s Decree of 726 AH/1326 CE”, *Orient: Reports of the Society for Near Eastern Studies in Japan*, Vol. 50, pp. 35-39, Tokyo: The Society for Near Eastern Studies in Japan, 2015.

① “A Persian-Turkic Land Sale Contract of 660 AH/1261-62 CE”, 〈Watabe Ryoko〉, *Orient: Reports of the Society for Near Eastern Studies in Japan*, Vol. 50, pp. 41-51, Tokyo: The Society for Near Eastern Studies in Japan, 2015.

① “A Turkic-Persian Decree of Timurid Mīrān Šāh of 800 AH/1398

CE”, 〈Watabe Ryoko, Ono Hiroshi〉, *Orient: Reports of the Society for Near Eastern Studies in Japan*, Vol. 50, pp. 53-75, Tokyo: The Society for Near Eastern Studies in Japan, 2015.

③「回鶻仏教徒在敦煌：敦煌諸石窟回鶻語銘文調査簡報」(莫高窟敦煌研究院学術講座, 於：莫高窟敦煌研究院, 2015年12月3日).

松重 充浩

①「新法鉄道・錦瓊鉄道の敷設問題とモリソン：東北「新政」の展開と外国語メディア」(斯波義信編『モリソンパンフレットの世界Ⅱ：近代アジアとモリソンコレクション (東洋文庫論叢第79)』, 71～81頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月).

②『挑戦する満洲研究：地域・民族・時間』(〈加藤聖文, 田畑光永〉, 東方書店, 2015年, 264頁).

③「日本外務省外交史料館所蔵「安東密輸問題」関係史料についての覚書」(中央研究院近代史研究所主催「和解への道：日中戦争の再検討」共同研究会第1年度大会, 於：中央研究院近代史研究所, 2015年9月15日).

③「日中関係の中の大連」(国際善隣協会主催「東北フォーラム：「新しい世代が見た満洲」, 於：国際善隣協会5階会議室, 2015年10月21日).

松永 泰行

①「あの「聖なる防衛」をもう一度か？：イラン・イスラーム革命防衛隊のイラクの対「イスラーム国」戦争支援の背景」(『中東研究』, 524号, 64～75頁, 中東調査会, 2015年9月).

①「イランにおける制度的弾圧と一般国民：抑圧的体制下の争議政治としての競合的選挙」(酒井啓子編『途上国における軍・政治権力・市民社会：21世紀の「新しい」政軍関係』, 262～279頁, 晃洋書房, 2016年3月).

松本 弘

①「イエメン・ホーシー派の展開」(酒井啓子編『途上国における軍・政治権力・市民社会：21世紀の「新しい」政軍関係』, 112～129頁, 晃洋書房, 2016年3月).

三浦 徹

①「都市民の語りと記憶：個と社会のあり方」(渡辺浩一編『自己語りと記

憶の比較都市史』, 239～256 頁, 勉誠出版, 2015 年 11 月).

② *Dynamism in the Urban Society of Damascus: The Ṣālihiyya Quarter from the Twelfth to the Twentieth Centuries*, Leiden: Brill, 2015, 347p.

③ “Personal Network around the ‘Umariyya Madrasa in the Ṣālihiyya Quarter of Damascus: Toward Creating a Theoretical Model from an Empirical Case Study”, in International Symposium “Leaving One’s Trace in Society: Individuals and the Institutionalization of Their Networks in Society via Their Waqf Foundations”, TELEMME-MMSH, Aix-en-Provence, France, 4 June 2015.

③ “Slave Soldiers and Slave Elites in a Comparative Perspective”, in International Conference for Volume 2 of the Series *The Cambridge World History of Slavery: The Medieval Period, 500–1420*, University of Hull, Hull, UK, 26, Sep. 2015.

③ “Keynote Speech”, in the 4th International Symposium of Inter-Asia Research Networks, Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations, Toyo Bunko, Tokyo, Japan, 5, Dec. 2015, [*Modern Asian Studies Review*, Vol. 7, pp. 38–40, Tokyo: The Toyo Bunko, Mar. 2016].

水野 善文

① 「故知のクンビーラ：金毘羅由來說再考」(智山学報編集委員会編『小峰彌彦先生・小山典勇先生古稀記念 転法輪の歩み (智山学報第 65 輯)』, 103～122 頁, 智山勸学会, 2016 年 3 月).

① 「インドの演劇：サンスクリット劇とは」(『総合文化研究』, 第 19 号, 83～94 頁, 東京外国語大学総合文化研究所, 2016 年 3 月).

③ 「図像とテキスト伝承：「語り」の介在：マカラを例に」(FINDAS 共催 第 12 回インド文学史研究会, 於：東京外国語大学・本郷サテライト 7 階会議室, 2015 年 10 月 10 日).

三田 昌彦

① 「南アジア 前近代 I：インダス文明～12 世紀」(水島司・加藤博・久保亨・島田竜登編『アジア経済史研究入門』, 91～103 頁, 名古屋大学出版会, 2015 年 11 月).

① “The Formats of Grant Charters and the Stratified Royalty under the

Pratīhāra Rule”, Karashima Noboru ed., *Medieval Religious Movements and Social Change: A Report of a Project on the Indian Epigraphical Study*, pp. 137–156, Tokyo: The Toyo Bunko, 2016.

③ “Poly-State System in South Asia and Dr. Lieberman’s Comparative Historiography”, in the International Workshop, Osaka University, Osaka, Japan, 15 Dec. 2015.

御牧 克己

① “rMa bya kha ‘bab (the river flowing down from the mouth of a peacock) : Traditions, Indian and Tibetan, Buddhist and Bon, concerning the Four Great Rivers”, Hanna Havnevik and Charles Ramble eds., *From Bhakti to Bon, Festschrift for Per Kvaerne*, pp. 351–366, Oslo, The Institute for Comparative Research in Human Culture, Nov. 2015.

宮脇 淳子

① 東洋史エッセイ「清の名君・康熙帝，草原の英雄ガルダンに勝利する」「清のチベット保護の始まり」「モンゴル，チベットを侵略した中国に天罰が下る日」「中国人も真実が知りたい!？」(『歴史通』，5月号，116～117頁；9月号，120～121頁；11月号，110～111頁；1月号，118～119頁，ワック出版，2015年4月；2015年8月；2015年10月；2015年12月)。

② 『日本人がつくる世界史』(〈日下公人〉，KADOKAWA/中経出版，2015年，240頁)。

② 『这才是真实的中国史』(台北：八旗文化出版，2015年，317頁，[訳：王章如，繁体字訳])。

② 『中国壊死 百年変わらない腐敗の末路』(〈宮崎正弘〉，ビジネス社，2015年，222頁)。

② 『这才是真实的满洲史』(台北：八旗文化出版，2016年，317頁，[繁体字訳])。

村上 衛

① 「清朝に雇われたイギリス海軍：十九世紀中葉，華南沿海の海賊問題」(東洋文庫編『東インド会社とアジアの海賊』，273～298頁，勉誠出版，2015年4月)。

- ①「中国近代経済史研究と「制度」」(『現代中国研究』, 35・36号, 93～107頁, 中国現代史研究会, 2015年11月).
- ①“The End of the Coolie Trade in Southern China: Focus on the Treaty Port of Amoy”, Suzuki Hideaki ed., *Abolitions as a Global Experience*, pp. 130-148, Singapore: NUS Press, 2015.
- ①「禁煙と吸煙のあいだ：禁煙運動下の閩南社会」(斯波義信編『モリソンパンフレットの世界Ⅱ：近代アジアとモリソンコレクション(東洋文庫論叢第79)』, 131～156頁, (公財)東洋文庫, 2016年3月).
- ②『海洋史上的近代中国：福建人的活動与英国, 清朝的因応』(北京：社会科学文献出版社, 2016年, 688頁, [訳：王詩倫]).

村田 雄二郎

- ①「近現代東亜的四个“戦後”」(『南国学術』, 第5巻第3期, 11～15頁, マカオ：マカオ大学, 2015年7月).
- ①「岡倉天心的中国南北異同論」(『華東師範大学学報(哲学社会科学版)』, 2015年第4期, 11～18頁, 上海：華東師範大学, 2015年7月).
- ②『共和の夢 膨張の野望 1894-1924(日中の120年 文芸・評論作品選1)』(『張競』, 岩波書店, 2016年, 307頁).

本野 英一

- ①「日本企業社員が描く現代の買弁資本主義：『チャイナハラメント 中国にむしられる日本企業』」(『東方』, 421号, 27～30頁, 東方書店, 2016年3月).
- ①「辛亥革命前夜上海周辺地域の通貨信用制度, 1900-12：莊票の兌換期限問題を中心に」(斯波義信編『モリソン・パンフレットの世界Ⅱ：近代アジアとモリソンコレクション(東洋文庫論叢第79)』, 179～219頁, ((公財)東洋文庫, 2016年3月).
- ③「辛亥革命期上海共同租界内での債権回収訴訟処理, 1906～1917年」(社会経済史学会全国大会自由論題報告, 於：早稲田大学, 2015年5月31日).
- ③「英中関係史との比較から, 日韓関係の過去と未来を考える」(世宗研究所・韓国言論振興財団主催「日韓国交正常化50周年記念大討論会「過去50年の先の未来50年を」」, 於：済州ロッテホテル, 2015年6月8日).

守川 知子

- ①「天上・地上の驚異を編纂する：ペルシア百科全書成立の十二世紀」（山中由里子編『〈驚異〉の文化史：中東とヨーロッパを中心に』，76～94頁，名古屋大学出版会，2015年9月）。
- ①「帝国へのまなざし：イラン国王，岩倉使節団，シャム国王とロシア・イギリス」（宇山智彦編『ユーラシア近代帝国と現代世界（シリーズ・ユーラシア地域大国論4）』，69～96頁，ミネルヴァ書房，2016年2月）。
- ①「インド洋海域世界のイラン人：シャムにわたった人びとを中心に」（守川知子編『移動と交流の近世アジア史』，3～31頁，北海道大学出版会，2016年3月）。
- ②『移動と交流の近世アジア史』（北海道大学出版会，2016年，xvii+284頁）。
- ③“The Safavid Embassy and the Siamese Royal Court”，in 8th European Conference of Iranian Studies, The State Hermitage Museum, Saint Petersburg, Russia, 17 Sep. 2015.

森平 雅彦

- ③「国際関係にみる朝鮮史の醍醐味」（神戸女子大史学会，於：神戸女子大学，2015年11月8日）。
- ③「モンゴルの日本侵攻における高麗の糧料抛出量」（九州史学会，於：九州大学，2015年12月13日）。
- ③「朝鮮史から海域史を考える：高麗の事例」（九州歴史科学研究会シンポジウム「『海域』としての東アジア世界：交流・漂流・密貿易をめぐって」，於：福岡大学，2015年12月19日）。
- ③「モンゴルの日本侵攻と高麗の軍需調達問題」（琉球大学・松浦市・松浦市教育委員会・九州国立博物館共催シンポジウム「海底に眠る元寇沈没船の謎」，於：九州国立博物館，2016年2月14日）。
- ③「한국사를 통해 무엇을 찾는가? : 줄거 『몽골 패권하의 고려 : 제국질서와 왕국의 대응』을 둘러싸고 (韓國史に何を求めるか? : 拙著『モンゴル覇権下の高麗：帝国秩序と王国の対応』をめぐって)」（ソウル大学奎章閣韓國学研究院海外著者特講，於：ソウル大学奎章閣韓國学研究院，2016年3月14日）。

森安 孝夫

- ① “New Developments in the History of East Uighur Manichaeism”，

Open Theology, Vol. 1, pp. 316-333, Warsaw: Versita, Oct. 2015.

- ① 「東ウイグル帝国カリ Chol 王子墓誌の新研究」(『史艸』, 56, 1~39 頁, 日本女子大学史学研究会, 2015 年 11 月).
- ① 「漠北迴鶻汗国葛啜王子墓誌新研究」(『唐研究』, 21, 499~526 頁, 北京: 北京大学出版社, 2015 年 12 月).
- ② 『興亡の世界史 シルクロードと唐帝国 (講談社学術文庫)』(講談社, 2016 年, 425 頁).

柳谷 あゆみ

- ① 訳・註「イブン・ハルドゥーン自伝 8」(〈中村妙子, 橋爪烈訳註/佐藤健太郎, 五十嵐大介註〉, 『イスラーム地域研究ジャーナル』, Vol. 8, 64~91 頁, 早稲田大学イスラーム地域研究機構, 2016 年 3 月).
- ② 翻訳『現代シリアの短編小説 ザカリーヤー・ターミル著『酸っぱいブドウ (ヒスリム)』(Occasional Papers 2016, No. 19)』(上智大学アジア文化研究所, 2016 年, 71 頁).
- ③ 「ザンギー朝ヌール・アッディーン政権のアミールたち」(2015 年度三田史学会, 於: 慶應義塾大学三田キャンパス, 2015 年 6 月 27 日).
- ③ “Domestic Caliphs in 14th Century Maghreb and Al-Andalus: An Understanding of Ibn Khaldun and His Contemporary Intellectuals”, in *New Horizon of Islamic Area Studies*, Sophia University, Tokyo, Japan, 12 Sept. 2015.
- ③ 「14 世紀マグリブ・アンダルス諸王朝の国内カリフたち: イブン・ハルドゥーン『自伝』の記述を中心に」(イスラーム初期史研究会, 於: 早稲田大学 120-4 号館, 2016 年 3 月 23 日).

矢吹 晋

- ① 「習近平と文化大革命」(『専修大学社会科学研究所月報』, 624, 1~18 頁, 専修大学社会科学研究所, 2015 年 6 月).
- ① 「戦後 70 年の東アジア, 日中対立の原点を探る」(『変革のアソシエ』, No. 21, 35~42 頁, 社会評論社, 2015 年 7 月).
- ② 『釣魚島問題的核心』(北京: 社会科学文献出版社, 2015 年, 211 頁, [訳: 馬俊威ほか]).
- ② 『対米従属の原点』(花伝社, 2015 年, 234 頁).
- ③ “Two Key Concepts in San Francisco Peace Treaty 1951: General

MacArthur's Peace Treaty Plan and Ambassador J. F. Dulles's Idea of 'Residual Sovereignty' of Ryukyu Islands", in International Symposium on World War II, Post-War International Order, Territorial and Maritime Disputes, Wuhan University, China, 24 Oct. 2015, [sponsors: Collaborative Innovation Center for Territorial Sovereignty and Maritime Rights and Chinese Research Association of History of the World War II, Organizer: China Institute of Boundary and Ocean Studies of Wuhan University].

山内 民博

①「19世紀朝鮮における屠漢・白丁集団の役と組織」(『環日本海研究年報』, 22号, 17～29頁, 新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室, 2016年3月).

山本 英史

①「東アジアにおける官箴書の普及について」(『史学』, 85巻1-3号, 141～162頁, 三田史学会, 2015年7月).

①「光棍律の成立及其背景: 清初秩序形成的過程」(周東平・朱騰編『法律史訳評(2014年巻)』, 254～284頁, 北京: 中国政法大学出版社, 2015年11月).

①「清初のある地域社会における“光棍”の実像」(『史朋』, 48号, 23～35頁, 北海道大学文学部東洋史談話会, 2015年12月).

②『赴任する知県: 清代の地方行政官とその人間環境』(研文出版, 2016年, 386頁).

③「近代中国における“陋俗”改革とその言説: 溺女問題を素材にして」(歴史人類学会第36回大会, 於: 筑波大学東京キャンパス文京校舎, 2015年11月8日).

山本 真

①「日中戦争時期, 福建省における戦時総動員と地域社会」(『史学』, 84巻1-4合併号, 351～389頁, 三田史学会, 2015年4月).

③「民国時期から人民共和国初期にかけての宗族と国家: 福建省の事例から」(ワークショップ「激動期東アジア諸地域の中間団体と国家: 中国・日本・台湾」, 於: 上智大学12号館, 2015年7月18日).

③「日中戦争前期, サラワクでの「華僑籌賑祖国難民運動」における祖国・中国の表象と活動の実態 (1937-1941)」(国際ワークショップ「東マレーシア・サラワク華人社会への現地調査に基づく多角的アプローチ: 歴史学と人類学の視座から」, 於: 筑波大学, 2015年12月5日).

山本 毅雄

③ “Music Score Representation of Poetry Reading: Can Prosody Be Studied by Analyzing the Author’s Voice?”, in DH2015 (Annual Conference of the Alliance of Digital Humanities Organizations), Sydney, Australia, 1 July 2015, [http://dh2015.org/abstracts/xml/YAMAMOTO_Takeo_Music_Score_Representation_of_Poet/YAMAMOTO_Takeo_Music_Score_Representation_of_Poetry_Rea.html].

湯浅 剛

- ①「中央アジア・カフカス」(柴宜弘編『地図で読む世界史』, 46～47頁, 実務教育出版, 2015年7月).
- ①「ユーラシア複合危機の中のイランとロシア」(『中東研究』, 525, 24～28頁, 中東調査会, 2016年1月).
- ①「グローバル政治の焦点としてのウクライナ紛争: 国家性・地域機構・地政学」(『広島平和研究』, 3, 75～89頁, 広島市立大学・広島平和研究所, 2016年3月).
- ③ “Institutionalization of Russian-led Integration Process and Central Asia”, in the International Council for Central and East European Studies (ICCEES) 9th World Congress, Makuhari, Chiba City, Japan, 4 Aug. 2015.

吉澤 誠一郎

①「中華民国顧問グッドナウによる国制の模索」(斯波義信編『モリソンパンフレットの世界Ⅱ: 近代アジアとモリソンコレクション (東洋文庫論叢第79)』, 105～129頁, (公財) 東洋文庫, 2016年3月).

吉田 豊

① “Local Literatures: Sogdian”, J. Silk ed., *Brill’s Encyclopedia of Buddhism*, Vol. 1, *Literature and Languages*, pp. 837–843, Leiden: Brill,

2015.

①「江南マニ教絵画「聖者伝図(3)」の発見と絵画の内容について」(『大和文華』, 129号, 25～41頁, 大和文華館出版部, 2016年1月).

①「西安出土北周「史君墓誌」ソグド語部分訳注」(石見清裕編『ソグド人墓誌研究』, 61～80頁, 汲古書院, 2016年3月).

③「近年の中国マニ教研究」(2015年度唐代史研究会夏期シンポジウム「宗教と社会」, 於: 早稲田大学国際会議場, 2015年8月17日).

③“Sogdian Christians in Sogdiana, Turfan, and China”, in International Conference “From Tajikistan to Turfan: Traces of Cultural Heritage of Sogdians”, National Museum of Tajikistan, Dushanbe, Tajikistan, 8 Sept. 2015.

吉水 千鶴子

①「チベット仏教の世界: 仏教伝来からダライラマへ」(『ヒマラヤ学誌』, 第17号, 146～153頁, 京都大学ヒマラヤ研究会, 2016年3月).

①“Dharmakīrti’s Statement of Consequence (prasaṅga) in the Third Chapter of the Pramāṇaviniścaya”, *Journal of Indian and Buddhist Studies*, 64-3, pp. 1246–1254, Tokyo: The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies, Mar. 2016.

③“Prasaṅga and Prāsaṅgika”, in International Workshop on Bhaviveka vs. Candrakīrti, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, 27 Aug. 2015.

③「ダルマキールティによる帰謬の例証 (Pramāṇaviniścaya 3, p. 4) について」(日本印度学仏教学会, 於: 高野山大学, 2015年9月19日).

六反田 豊

①「[班次図]とその周辺: 朝鮮時代後期の行列図」(久留島浩編『描かれた行列: 武士・異国・祭礼』, 371～391頁, 東京大学出版会, 2015年10月).

①“A Survey of Variant Versions of the *Sōakchi* and Their Taxonomy”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, Vol. 73, pp. 111–139, Tokyo: The Toyo Bunko, 2015.

①書評「川西裕也著『朝鮮中近世の公文書と国家: 変革期の任命文書をめぐって』」(『法制史研究』, 65, 229～234頁, 法制史学会, 2016年3月).

IV 普及・展示事業

1. 展示

一般多数の方々を対象とした東洋学の普及を図る手段として「東洋文庫ミュージアム」を運営した。

A. 基本方針

このミュージアムでは、特に東洋学に興味を持たない一般の方々を主な対象とし、幅広い世代の利用者に、ミュージアム見学を通して東洋学に興味を持つ機会を提供するものである。本ミュージアムは、東洋文庫の蔵書・史料を中心に種々の展示企画を組み立て、常に新たな発見と変化のある展示を心がけている。

B. 展示手法

広く一般の方々にミュージアム訪問の興味を喚起するため、①見学に適切な規模の展示内容とし、②展示の解説は日頃東洋学とは疎遠な利用者にも十分理解できる簡易なものとし、③デジタル技術等を取り入れた視聴覚的かつ斬新な展示で利用者の興味を引くことに努めた。

C. 施設

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に万全を期した。また、併設のギフト・ショップ、ミュージアム・カフェでは、東洋文庫の所蔵資料も紹介し、一般利用者に対してミュージアムの魅力を高め、東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムの一体施設として運営した。

D. 展示スケジュール

(1) 企画展は一年に3回の頻度で行っている。本年度は以下の企画展を実施した。

- ①「もっと知りたい！イスラーム展」(2015年1月10日～4月12日)
 - ②「大地図展～フェルメールも描いたブラウの世界地図～」(2015年4月22日～8月9日)
 - ③「幕末展」(2015年8月19日～12月27日)
 - ④「解体新書展 -ニッポンの「医」の歩み 1500年-」(2016年1月9日～4月10日)
- (2) 各企画展において展示図録を作成した。全ページカラーで画像を多用し、解説文も平易なものわかりやすいものに仕上げた。A5版でハンディなブックレットタイプである。
- (3) 上記企画展会期中に公開講座(企画展示記念講座)を開催した。講演者と演題は74～80頁の通りである。
- (4) 六義園特別展示「六義園をめぐる歴史」を開催した。
 会期：①2015年3月18日～4月6日
 ②2015年11月11日～12月7日
 会場：東洋文庫ミュージアム1階オリエントホール
- (5) 小岩井農場での出張展示「時空をこえる本の旅：東洋文庫の世界」を行った。
 会期：2014年11月～2015年5月
 会場：小岩井農場資料館

E. ガイドツアー

ミュージアムへの来客サービス・集客戦略の一環として、館内ガイドツアーを実施し、好評を得た(開館期間の毎日15時に開催した)。

F. 学習支援事業

(1) 学校連携

- ① 東京藝術大学との協力協定により、記念コンサートを複数回ミュージアム内にて開催し、多数の来場者を得た。また、同学彫刻科の卒業作品から一作品を選出して「東洋文庫賞」を授与し、東洋文庫敷地内のオープンスペースにて1年間作品を展示した。
- ② 成蹊大学図書館との協力協定により、東洋文庫の貴重書を大学図書館入口にて常設展示した。

- ③ 東京都歴史教育研究会「教科指導法研修会」を実施した（8月27日）。
 - ④ 筑波大学附属視覚特別支援学校 中学部 男女各1名に対し、東洋文庫、ミュージアム運営に関する職場体験を実施した（11月27日）。
 - ⑤ キャンパスパートナーシップを結んでいる青山学院大学文学部の学生1名に対し、学芸員が博物館実習を行った（6月16日～6月24日）。
 - ⑥ スクールパートナーシップを結んでいる東京都立小石川中等教育学校の中学2年生2名に対し、学芸員が対応して職場体験を行った（11月26日、27日）。
 - ⑦ インターン制度を設け、第一期（5月から8月まで）3名、第二期（10月から1月まで）3名、第三期（2月から4月まで）2名を受け入れ、学芸員が対応して就業研修を行った。
- (2) ミュージアムワークショップ
- より幅広い年齢層にミュージアムをお楽しみ頂くために、学習支援事業としてワークショップを活発に開催した。未就学児童を含めた若年層に数多くご参加頂くことができた。
- ①魔法のペンで光る地図をつくろう！
2015年4月29日、5月6日、23日、24日、7月26日（2回）、8月1日（2回）の合計8回
 - ②魔法のペンで行燈づくり！
2015年8月23日、10月25日の合計2回
 - ③はじめての製本体験
2015年11月3日（2回）、12月20日（2回）の合計4回
- (3) ジュニア研究員プログラム
- 小学3年生から6年生までを対象とした連続講座を開催した。平野普及展示部長、斯波文庫長、普及展示部学芸員のほか、小岩井農牧株式会社の足澤匡氏が講師を担当し、12名の小学生が東洋学に関する研究活動を体験した。
- (4) その他
- ミューズフェスタについて
- 文京区の「文の京ミュージアムネットワーク」の合同イベント「文京ミューズフェスタ」（各施設による展示・体験コーナー、PRポスター、パネル等の掲示）での展示をインターン生と共に行った（於・文京区役所1F、12月17日）。

G. 博物館連携

静嘉堂文庫との連携展示として、下記の美術品の借用展示を行った。

- ・『三彩獅子』 唐時代（8世紀） 1対（2体）
- ・『色絵五艘船文鉢』 江戸時代（18世紀前半） 1点

H. 入場者数

2015年4月1日～2016年3月31日における、ミュージアム総入場者数は以下のとおりである。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入場者数	2,938人	2,245人	2,161人	2,838人	2,729人	2,106人
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2,705人	3,431人	4,001人	1,624人	1,934人	3,097人	31,809人

2. 広報普及

東洋文庫所蔵の図書・史料の掲載・報道・放映等の依頼に適宜対応すると共に、ホームページを随時更新し、利便性を確保した。東洋学の若年層への普及を目指し、学校連携活動も行った。

A. 要人の訪問

リュック・リーバウト駐日ベルギー大使夫妻、駐日エチオピア大使、駐日パキスタン大使、Morgan Stanley 日本代表、駐日ウズベキスタン大使、駐日メキシコ大使、他。

B. 関連書籍の刊行

- ・『東洋文庫善本叢書』 第7～12巻（勉誠出版刊、全12巻）
- ・『東インド会社とアジアの海賊』（勉誠出版刊）

C. 報道実績

ミュージアムに関する報道実績の主なものを以下に挙げる（50音順）。

新聞：『SANKEI EXPRESS』、『産経新聞』、『東京新聞』、
『読売新聞』など

雑誌：『マンスリー三菱』など

テレビ：テレビ東京『L4YOU』（2015年11月3日放送）にて、東洋
文庫ミュージアムが紹介された。

ラジオ：『NHK ラジオ深夜便』（2016年2月8日放送）にて、岡崎礼奈
研究員が「解体新書展」について紹介した。

D. 『東洋見聞録』

東洋文庫の活動をご支援頂いている「名誉文庫員」、「友の会会員」、職員O
Bほか関係者をつなぐニュースレターとして発行・頒布した。

E. メールニュース

東洋文庫ミュージアムのメールニュースをメール会員向けに毎月発信して
いる。

F. 近隣の中学・高校とのミュージアム・フリーパス連携

- (1) 小石川中等教育学校とのミュージアム・フリーパス連携を引き続き締結
した。
- (2) 筑波大学附属高等学校3年生に対し、スクールプログラムに基づき展示
案内を行った他、学芸員がレクチャーを実施した（7月）。
- (3) 神田女学園中学・高等学校 地理歴史部に対し、スクールプログラムに
基づき顧問、部員に展示案内を行った他、学芸員がレクチャーを実施し
た（9月8日）。

G. モリソン文庫調査委員会

2017年にモリソン文庫渡来100周年を迎えるに当たり、モリソン文庫調査委員会を立ち上げた。2017年に調査を踏まえた出版と展示を予定している。

H. 東洋文庫アカデミア

東洋文庫研究員をはじめとする各分野の専門家が講師となり、所蔵資料やこれまでの研究成果などの専門知識をわかりやすく教授する市民向け講座を下記のとおり実施した。

講座名	講師（所属）	期間	人数
中国の考古学入門	飯島武次（東洋文庫研究員・駒沢大学名誉教授）	2015年4月1日～ 7月22日	5
モンゴル帝国を継承したロシアと中国	宮脇淳子（東洋文庫研究員・東京外国語大学非常勤講師）	2015年4月7日～ 6月30日	11
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子（トルコ細密画専門家）	2015年4月13日～ 6月22日	6
G. E. モリソンの中国・アジア紀行と東洋文庫の紀行記からみる20世紀初頭の中国とアジア	濱下武志（東洋文庫研究部長）	2015年4月23日～ 4月30日	8
妙法蓮華経	會谷佳光（東洋文庫）	2015年4月25日	12
動く香港、動く九州	濱下武志、古田茂美（香港貿易發展局日本主席代表）	2015年4月24日～ 5月1日	9
フェルメールも描いたブラウの大地図帳の世界	牧野元紀（東洋文庫）	2015年4月26日～ 8月9日	27
日本国家成立の真実	井上和人（東洋文庫研究員・明治大学特任教授）	2015年5月16日～ 7月11日	8

講座名	講師（所属）	期間	人数
中東・イスラーム世界の現在を歴史から読み解く	三浦徹（東洋文庫研究員・お茶の水大学教授）、保坂修司（日本エネルギー経済研究所研究理事）	2015年5月12日～6月2日	16
古代インドの神秘的合理思想	志田泰盛（京都大学白眉センター特定助教）、堀田和義（大谷大学任期制助教）、加藤隆宏（東京大学大学院助教）、近藤隼人（東京大学大学院博士課程）、岩崎陽一（日本学術振興会特別研究員）	2015年5月13日～7月8日	6
ペルシア語の世界・中級編	渡部良子（東京大学非常勤講師）	2015年5月15日～7月24日	9
難しくても楽しいアラビア語入門	柳谷あゆみ（東洋文庫研究員・早稲田大学非常勤講師）	2015年6月30日～7月21日	6
ペルシア書道に親しむ	角田ひさ子（拓殖大学言語文化研究所講師）	2015年6月6日～9月5日	2
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子	2015年7月13日～9月28日	3
初歩の文人画	伊藤忠綱（二松学舎大学非常勤講師）	2015年9月12日～11月28日	9
ペルシア語の世界・初級編	渡部良子	2015年9月30日～12月16日	6
ペルシア書道に親しむ	角田ひさ子	2015年10月3日～12月19日	3
ジョン・セーリスの「日本渡航記」について	平野健一郎（東洋文庫普及展示部長）	2015年10月3日	13
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子	2015年10月5日～12月21日	5
ことばの塾「中国古代の文字とことば」	内山直樹（千葉大学准教授）	2015年10月18日	9

講座名	講師（所属）	期間	人数
魏志倭人伝	清水信子（二松学舎大学非常勤講師）	2015年11月28日	10
ビデオ人類学から見た東アジア社会	末成道男（東洋文庫研究員・東京大学元教授）	2016年1月6日～ 2月3日	4
ペルシア語の世界・中級編	渡部良子	2016年1月8日～ 2月19日	6
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子	2016年1月11日～ 3月28日	4
読解のための韓国語漢字語・漢字音講座	伊藤英人（東京大学非常勤講師）	2016年1月13日～ 2月17日	5
モンゴル帝国を継承したロシアと中国	宮脇淳子	2016年1月16日～ 4月2日	9
初歩の文人画講座（人物画篇）	伊藤忠綱	2016年1月23日～ 4月9日	10
現代中国理解セミナー	村田雄二郎（東洋文庫研究員・東京大学教授）、阿古智子（東京大学准教授）、中村元哉（東洋文庫研究員・津田塾大学教授）	2016年2月1日～ 3月7日	18
60歳をきっかけに考える「自分史・家族史」入門	宮野真有（自分史活用アドバイザー）	2016年2月3日	4
イラン芸術 ペルシア書道に親しむ	角田ひさ子	2016年2月6日～ 4月16日	6
鄭和の航海図 15世紀アジアにおける東西交流の軌跡	日野康一郎（早稲田大学非常勤講師）	2016年2月27日	9

V 業務報告

1. 総務報告

A. 会議事項

(1) 理事会

2015年度第一回通常理事会 開催日 2015年5月22日(金曜日)

出席者 榎原 稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、平野健一郎、
鶴見尚弘、中根千枝、福澤 武、三木繁光、伊与部恒雄、
原 實

2015年度第一回臨時理事会 開催日 2015年6月10日(水曜日)

出席者 榎原 稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、
平野健一郎、福澤 武、伊与部恒雄、原 實

2015年度第二回通常理事会 開催日 2016年2月8日(月曜日)

出席者 榎原 稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、濱下武志、
平野健一郎、鶴見尚弘、中根千枝、三木繁光、福澤 武、
伊与部恒雄、原 實

(2) 評議員会

2015年度定時評議員会 開催日 2015年6月10日(水曜日)

出席者 梅村 坦、大滝則忠、岸本美緒、草原克豪、久保正彰、
東條和彦、瀬谷博道、増田信行

(3) 東洋学連絡委員会

前 期 開催日 2015年5月8日(金曜日)

出席者 尾崎 康、中根千枝、御牧克己、間野英二、森本公誠、
吉田順一

議 題 1. 2014 年度公益財団法人東洋文庫事業報告書について

後 期 開催日 2016 年 1 月 25 日（月曜日）

出席者 尾崎 康、斯波義信、中根千枝、御牧克己、間野英二、
吉田順一

議 題 1. 2016 年度公益財団法人東洋文庫事業計画書について

B. 総務・広報事項

- ・(1)文庫長・学芸員による館内ガイドツアーを実施した。
- ・(2)ホームページのリニューアルを行った。
- ・(3)「三菱デジタルライブラリー」(三菱広報委員会)への収藏品映像展示、「マンスリー三菱」への収藏品掲載、文京区関係広報誌等への掲載協力等を行い、広報普及活動を図った。
- ・(4)インターンシップ制度を開始した。

C. 設備・営繕事項

事務室・書庫空調設備の一部補修を行った。

2. 人事報告

A. 職員・研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2015. 4. 1	研究員	奥村 哲	委嘱	
〃	〃	糟谷 憲一	〃	
〃	〃	佐藤 慎一	〃	
〃	〃	鈴木 立子	〃	
〃	〃	森安 孝夫	〃	
〃	研究員(兼任)	小浜 正子	〃	
〃	〃	村田 雄二郎	〃	
2015. 6. 1	研究員	徐 小 潔	〃	
2015. 6.23	〃	篠木 由喜	就職	
2015. 7. 1	研究員(兼任)	杉山 清彦	委嘱	
2015. 8.14	研究員	草野 靖	逝去	
2015.10. 1	〃	太田 啓子	委嘱	
2015.10. 2	〃	竺沙 雅章	逝去	
2015.11.26	〃	辛 島 昇	〃	
2016. 2. 1	〃	大里 浩秋	委嘱	
2016. 3.31	〃	徳原 靖浩	退任	
〃	研究員(兼任)	内山 雅生	〃	

B. 客員研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2015. 4. 1	研究員(客員)	飯島 武次	委嘱	
〃	〃	上田 望	〃	
〃	〃	楠木 賢道	〃	
〃	〃	土田 哲夫	〃	
〃	〃	馬場 英子	〃	
2015. 6.30	〃	杉山 清彦	退任	
2015. 9. 1	〃	金沢 陽	委嘱	
2015.11. 1	〃	小川 快之	〃	
2016. 3.31	〃	馬場 英子	退任	
〃	〃	田中 比呂志	〃	

3. 会計報告

貸借対照表

2016年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	13,763,598	18,630,703	△ 4,867,105
定期預金	50,000,000	0	50,000,000
未収収益	4,892,902	3,734,832	1,158,070
未収金	1,544,831	3,171,360	△ 1,626,529
商 品	8,466,712	11,329,619	△ 2,862,907
前払費用	256,080	258,684	△ 2,604
流動資産合計	78,924,123	37,125,198	41,798,925
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
図書資料	3,583,541	3,583,541	0
基本財産合計	3,583,541	3,583,541	0
(2) 特定資産			
土地	110,494	110,494	0
建物	2,295,775,414	2,389,129,986	△ 93,354,572
構築物	123,830,162	135,612,532	△ 11,782,370
什器備品	249,853,731	283,923,417	△ 34,069,686
図書資料	1,372,822,729	1,350,297,902	22,524,827
ソフトウェア	5,590,983	3,474,743	2,116,240
事業運営積立資産	2,842,663,122	2,842,663,122	0
退職給付引当資産	65,584,750	59,302,303	6,282,447
建物設備修繕引当資産	235,495,930	217,821,192	17,674,738
P C B引当資産	24,629,857	24,621,762	8,095
長期前払費用	382,786	800,371	△ 417,585
特定資産合計	7,216,739,958	7,307,757,824	△ 91,017,866
(3) その他固定資産			
構築物	117,162	123,987	△ 6,825
什器備品	1,044,917	1,741,558	△ 696,641
ソフトウェア	821,662	930,812	△ 109,150
電話加入権	364,000	364,000	0
長期前払費用	219,733	304,791	△ 85,058
その他固定資産合計	2,567,474	3,465,148	△ 897,674
固定資産合計	7,222,890,973	7,314,806,513	△ 91,915,540
資産合計	7,301,815,096	7,351,931,711	△ 50,116,615

II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,349,602	2,437,683	△ 88,081
預り金	2,832,787	1,293,348	1,539,439
賞与引当金	8,126,416	7,874,219	252,197
流動負債合計	13,308,805	11,605,250	1,703,555
2. 固定負債			
退職給付引当金	65,584,750	59,302,303	6,282,447
P C B引当金	24,605,000	24,605,000	0
固定負債合計	90,189,750	83,907,303	6,282,447
負債合計	103,498,555	95,512,553	7,986,002
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	2,898,988,110	3,040,154,850	△ 141,166,740
補助金	279,227,385	254,053,749	25,173,636
分担金	39,788,782	38,322,829	1,465,953
固定資産受贈額	24,448,753	24,904,748	△ 455,995
指定正味財産合計	3,242,453,030	3,357,436,176	△ 114,983,146
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(3,242,453,030)	(3,357,436,176)	(△ 114,983,146)
2. 一般正味財産	3,955,863,511	3,898,982,982	56,880,529
(うち基本財産への充当額)	(3,583,541)	(3,583,541)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(3,884,097,178)	(3,866,414,345)	(17,682,833)
正味財産合計	7,198,316,541	7,256,419,158	△ 58,102,617
負債及び正味財産合計	7,301,815,096	7,351,931,711	△ 50,116,615

正味財産増減計算書

2015年4月1日から2016年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	57,514,455	86,178,281	△ 28,663,826
受取寄付金	299,511,740	232,761,950	66,749,790
受取寄付金	158,345,000	91,425,000	66,920,000
受取寄付金振替額	141,166,740	141,336,950	△ 170,210
受取会費	528,000	448,000	80,000
受取分担金	8,734,047	9,448,768	△ 714,721
受取分担金振替額	8,734,047	8,448,768	△ 714,721
事業収益	45,458,765	38,277,542	7,181,223
受取補助金等	84,826,364	85,901,720	△ 1,075,356
受取補助金等振替額	84,826,364	85,901,720	△ 1,075,356
雑収益	5,470,700	5,655,066	△ 184,366
経常収益計	502,044,071	458,671,327	43,372,744
(2) 経常費用			
事業費	421,936,166	424,326,877	△ 2,390,711
調査研究費	23,321,892	20,560,679	2,761,213
資料収集・整理費	13,421,019	15,077,965	△ 1,656,946
研究資料出版費	23,460,710	23,784,982	△ 324,272
普及活動費	23,095,348	25,767,632	△ 2,672,284
学術情報提供費	25,921,765	21,920,180	4,001,585
地域研究プログラム費	8,282,618	8,997,536	△ 714,918
人件費	119,514,019	119,538,337	△ 24,318
役員報酬	19,032,000	19,032,000	0
給料手当	74,389,261	75,534,219	△ 1,144,958
賞与引当金繰入	6,843,487	6,593,281	250,206
退職給付費用	5,416,359	4,272,126	1,144,233
福利厚生費	13,832,912	14,106,711	△ 273,799
事務費	184,918,795	188,679,566	△ 3,760,771
設備保守修繕費	6,988,098	5,409,959	1,578,139
水道光熱費	15,492,138	17,615,897	△ 2,123,759
賃借料	23,522	97,733	△ 74,211
業務委託費	6,560,315	10,162,730	△ 3,602,415
減価償却費	142,874,037	143,677,575	△ 803,538
諸雑費	12,980,685	11,715,672	1,265,013
管理費	23,684,240	23,594,574	89,666
人件費	18,813,598	18,565,598	248,000
役員報酬	4,603,000	4,588,000	15,000
給料手当	9,755,153	9,352,972	402,181
賞与引当金繰入	1,282,929	1,280,938	1,991
退職給付費用	866,088	1,107,582	△ 241,494
福利厚生費	2,306,428	2,236,106	70,322
事務費	4,870,642	5,028,976	△ 158,334
設備保守修繕費	70,587	54,646	15,941
水道光熱費	156,486	177,938	△ 21,452
謝金	2,293,704	2,636,521	△ 342,817
減価償却費	1,631,733	1,611,517	20,216
諸雑費	718,132	548,354	169,778
経常費用計	445,620,406	447,921,451	△ 2,301,045
当期経常増減額	56,423,665	10,749,876	45,673,789

2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産受贈額	457,181	720,166	△ 262,985
経常外収益計	457,181	720,166	△ 262,985
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	317	5	312
経常外費用計	317	5	312
当期経常外増減額	456,864	720,161	△ 263,297
当期一般正味財産増減額	56,880,529	11,470,037	45,410,492
一般正味財産期首残高	3,898,982,982	3,887,512,945	11,470,037
一般正味財産期末残高	3,955,863,511	3,898,982,982	56,880,529
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	110,000,000	110,000,000	0
受取分担金	10,200,000	12,100,000	△ 1,900,000
固定資産受贈額	1,186	1,185,031	△ 1,183,845
一般正味財産への振替額	△ 235,184,332	△ 237,407,604	2,223,272
当期指定正味財産増減額	△ 114,983,146	△ 114,122,573	△ 860,573
指定正味財産期首残高	3,357,436,176	3,471,558,749	△ 114,122,573
指定正味財産期末残高	3,242,453,030	3,357,436,176	△ 114,983,146
III 正味財産期末残高	7,198,316,541	7,256,419,158	△ 58,102,617

正味財産増減計算書内訳表

2015年4月1日から2016年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	44,838,867	12,675,588	0	57,514,455
受取寄付金	282,620,910	16,890,830	0	299,511,740
受取寄付金	142,752,000	15,593,000	0	158,345,000
受取寄付金振替額	139,868,910	1,297,830	0	141,166,740
受取会費	528,000	0	0	528,000
受取分担金	8,734,047	0	0	8,734,047
受取分担金振替額	8,734,047	0	0	8,734,047
事業収益	45,458,765	0	0	45,458,765
受取補助金等	84,826,364	0	0	84,826,364
受取補助金等振替額	84,826,364	0	0	84,826,364
雑収益	4,923,630	547,070	0	5,470,700
経常収益計	471,930,583	30,113,488	0	502,044,071
(2) 経常費用				
事業費	421,936,166	0	0	421,936,166
調査研究費	23,321,892	0	0	23,321,892
資料収集・整理費	13,421,019	0	0	13,421,019
研究資料出版費	23,460,710	0	0	23,460,710
普及活動費	23,095,348	0	0	23,095,348
学術情報提供費	25,921,765	0	0	25,921,765
地域研究プログラム費	8,282,618	0	0	8,282,618
人件費	119,514,019	0	0	119,514,019
役員報酬	19,032,000	0	0	19,032,000
給料手当	74,389,261	0	0	74,389,261
賞与引当金繰入	6,843,487	0	0	6,843,487
退職給付費用	5,416,359	0	0	5,416,359
福利厚生費	13,832,912	0	0	13,832,912
事務費	184,918,795	0	0	184,918,795
設備保守修繕費	6,988,098	0	0	6,988,098
水道光熱費	15,492,138	0	0	15,492,138
賃借料	23,522	0	0	23,522
業務委託費	6,560,315	0	0	6,560,315
減価償却費	142,874,037	0	0	142,874,037
諸雑費	12,980,685	0	0	12,980,685
管理費	0	23,684,240	0	23,684,240
人件費	0	18,813,598	0	18,813,598
役員報酬	0	4,603,000	0	4,603,000
給料手当	0	9,755,153	0	9,755,153
賞与引当金繰入	0	1,282,929	0	1,282,929
退職給付費用	0	866,088	0	866,088
福利厚生費	0	2,306,428	0	2,306,428
事務費	0	4,870,642	0	4,870,642
設備保守修繕費	0	70,587	0	70,587
水道光熱費	0	156,486	0	156,486
謝金	0	2,293,704	0	2,293,704
減価償却費	0	1,631,733	0	1,631,733
諸雑費	0	718,132	0	718,132
経常費用計	421,936,166	23,684,240	0	445,620,406
当期経常増減額	49,994,417	6,429,248	0	56,423,665

2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
固定資産受贈額	457,181	0	0	457,181
経常外収益計	457,181	0	0	457,181
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	9	308	0	317
経常外費用計	9	308	0	317
当期経常外増減額	457,172	△ 308	0	456,864
当期一般正味財産増減額	50,451,589	6,428,940	0	56,880,529
一般正味財産期首残高				3,898,982,982
一般正味財産期末残高				3,955,863,511
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	110,000,000	0	0	110,000,000
受取分担金	10,200,000	0	0	10,200,000
固定資産受贈額	1,186	0	0	1,186
一般正味財産への振替額	△ 233,886,502	△ 1,297,830	0	△ 235,184,332
当期指定正味財産増減額	△ 113,685,316	△ 1,297,830	0	△ 114,983,146
指定正味財産期首残高				3,357,436,176
指定正味財産期末残高				3,242,453,030
III 正味財産期末残高				7,198,316,541

財務諸表に対する注記

(1) 重要な会計方針

①有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

②棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

③固定資産の減価償却の方法

a)有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 30～50年

構築物 15～20年

什器備品 3～15年

b)無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 5年

④ 引当金の計上基準

a)賞与引当金

役員及び職員の賞与金の支払いに備えて、賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

b)退職給付引当金

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする小規模企業等における簡便法を適用しています。

c)役員退職慰労引当金

常勤役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当期末退職慰労金の要支給額を退職給付引当金に含めて計上しております。

d)PCB引当金

PCB（ポリ塩化ビフェニル）の処分等にかかる支出に備えるため、

今後発生すると見込まれる額を計上しております。

⑤消費税等の会計処理

税込方式を採用しております。

(2) 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
図書資料	3,583,541	0	0	3,583,541
小 計	3,583,541	0	0	3,583,541
特定資産				
土地	110,494	0	0	110,494
建物	2,389,129,986	0	93,354,572	2,295,775,414
構築物	135,612,532	0	11,782,370	123,830,162
什器備品	283,923,417	1,728,611	35,798,297	249,853,731
図書資料	1,350,297,902	22,524,827	0	1,372,822,729
ソフトウェア	3,474,743	4,374,000	2,257,760	5,590,983
事業運営積立資産	2,842,663,122	0	0	2,842,663,122
退職給付引当資産	59,302,303	6,282,447	0	65,584,750
建物設備修繕引当資産	217,821,192	21,977,458	4,302,720	235,495,930
P C B引当資産	24,621,762	8,095	0	24,629,857
長期前払費用	800,371	0	417,585	382,786
小 計	7,307,757,824	56,895,438	147,913,304	7,216,739,958
合 計	7,311,341,365	56,895,438	147,913,304	7,220,323,499

(3) 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
図書資料	3,583,541	0	(3,583,541)	0
小 計	3,583,541	0	(3,583,541)	0
特定資産				
土地	110,494	(110,494)	0	0
建物	2,295,775,414	(2,295,775,414)	0	0
構築物	123,830,162	(123,830,162)	0	0
什器備品	249,853,731	(249,853,731)	0	0
図書資料	1,372,822,729	(334,698,258)	(1,038,124,471)	0
ソフトウェア	5,590,983	(5,590,983)	0	0
事業運営積立資産	2,842,663,122	(202,000,000)	(2,640,663,122)	0
退職給付引当資産	65,584,750	0	0	(65,584,750)
建物設備修繕引当資産	235,495,930	(30,211,202)	(205,284,728)	0
P C B引当資産	24,629,857	0	(24,857)	(24,605,000)
長期前払費用	382,786	(382,786)	0	0
小 計	7,216,739,958	(3,242,453,030)	(3,884,097,178)	(90,189,750)
合 計	7,220,323,499	(3,242,453,030)	(3,887,680,719)	(90,189,750)

(4) 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
建物	2,793,532,666	△ 497,757,252	2,295,775,414
構築物	179,828,553	△ 55,998,391	123,830,162
什器備品	423,603,290	△ 173,749,559	249,853,731
ソフトウェア	15,298,304	△ 9,707,321	5,590,983
小 計	3,412,262,813	△ 737,212,523	2,675,050,290
その他固定資産			
構築物	136,500	19,338	117,162
什器備品	34,814,835	△ 33,769,918	1,044,917
ソフトウェア	13,162,010	△ 12,340,348	821,662
小 計	48,113,345	△ 46,129,604	1,983,741
合 計	3,460,376,158	△ 783,342,127	2,677,034,031

(5) 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりです。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
債券（事業運営積立資産）			
三菱UFJセキュリティーズインターナショナルクレジットリンク債	300,000,000	301,698,000	1,698,000
三菱UFJ証券ホールディングスクレジットリンク債	1,000,000,000	983,140,000	△16,860,000
三菱UFJ証券ホールディングスクレジットリンク債	500,000,000	509,710,000	9,710,000
三菱UFJ証券クレジットリンク債	500,000,000	506,405,000	6,405,000
三菱UFJセキュリティーズインターナショナルクレジットリンク債	500,000,000	505,230,000	5,230,000
東京都公募公債（東京グローバル都債）	2,500,000	2,499,000	△1,000
第118回大阪府公募公債	40,000,000	40,090,760	90,760
債券（建物設備修繕引当資産）			
東京都公募公債（東京再生債）第18回	24,014,310	23,998,320	△15,990
第19回NTTドコモ社債	70,071,094	70,212,100	141,006
三菱東京UFJ銀行期限前償還条項付社債	20,052,520	20,056,200	3,680
合計	2,956,637,924	2,963,039,380	6,401,456

(6) 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金 科学研究費補助金 (特定奨励費)	文部科学省	254,053,749	110,000,000	84,826,364	279,227,385	指定正味財産 (注)
合計		254,053,749	110,000,000	84,826,364	279,227,385	—

(注) 当期末残高は、特定資産に計上されている図書資料及び固定資産に対応する指定正味財産相当額です。

(7) 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除額	91,573,748
減価償却費計上による指定解除額	143,153,403
経常外収益への振替額	
減価償却費計上による指定解除額	457,181
合 計	235,184,332

(8) 退職給付に係る注記

①採用している退職給付制度の概要

従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度を採用しています。

退職一時金制度では、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しています。

また、退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

②確定給付制度

a) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金

退職給付引当金 59,302,303 円

退職給付費用 6,282,447 円

退職給付の支払額 0 円

期末における退職給付引当金 65,584,750 円

b) 退職給付に関連する損益

簡便法で計算した退職給付費用 6,282,447 円

③役員退職慰労金に関する事項

役員退職慰労金 21,038,000 円を退職給付引当金に含めて計上しています。また、役員退職慰労引当金繰入額 1,206,000 円を退職給付費用に含めて計上しています。

(9) 金融商品関係

①金融商品の状況に関する事項

当法人は資金運用については短期的な預金及び元本償還の確実性の高い公社債等に限定しております。

②金融商品の時価等に関する事項

a) 現金預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

b) 事業運営積立資産

これらは預金及び前述(5)の債券で構成されております。預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。債券の時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。

また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述(5)に記載されているため、開示は省略しております。

c) 退職給付引当資産

これらは預金に限定されており短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

d) P C B引当資産

これらは預金に限定されており短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

e) 建物設備修繕引当資産

これらは預金及び前述(5)の債券で構成されております。預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。債券の時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。

また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述(5)に記載されているため、開示は省略しております。

財 産 目 録

2016年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金	現金 手元保管	運転資金として	513,527
		普通預金	運転資金として	13,232,934
	定期預金	三菱東京UFJ銀行駒込支店 振替口座 ゆうちよ銀行	運転資金として	17,137
		定期預金 三菱東京UFJ銀行駒込支店	運転資金として	50,000,000
	未収収益	有価証券利息	〈現金・預金計〉 公益目的事業及び管理目的の 財源として使用する資産の利息	63,763,598 4,892,902
	未収金	三菱重工工業(株)他	〈未収収益計〉	4,892,902
			公益目的事業の事業収益分である。	1,544,831
	商品	「東洋文庫の名品50選」 他計 7,384 冊 浮世絵複製他計 22,640 点	〈未収金計〉	1,544,831
			公益目的事業の在庫である。	2,412,144
	前払費用	エムエステイ保険サービス(株) 日立キャピタル(株)	〈商品計〉	8,466,712
役員賠償責任保険料 公益事業目的の業務に使用して いる複写機リース料他			240,960 15,120	
			〈前払費用計〉	256,080
			流動資産合計	78,924,123
(固定資産)				
基本財産	図書資料	国宝・重要文化財・浮世絵 他計 52,366 件 和漢書 80,064 冊 洋 書 20,018 冊	公益目的保有財産であり、公益 目的事業に供している不可欠特 定財産である。	3,583,541
		〈基本財産計〉		3,583,541
特定資産	土地	所在 東京都文京区本駒込2丁目 28番21号 地番 東京都文京区本駒込2丁目 147番1号 地目 宅地 面積 3,687.63 平方メートル	(共用財産) うち公益目的保有財産 99 % うち管理目的保有財産 1 %	110,494
	建物	所在 東京都文京区本駒込2丁目 147、157-2 建物(本館) 構造 鉄骨鉄筋コン クリート造 建築面積 1,351.67 平方メートル 延床面積 6,698.12 平方メートル 空調衛生、昇降機、電気給 排水等諸設備 建物(付属棟) 構造 鉄骨造 建築面積 216.45 平方メートル 延床面積 408.14 平方メートル 空調衛生、昇降機、電気給 排水等諸設備	(共用財産) うち公益目的保有財産 99 % うち管理目的保有財産 1 %	2,129,081,787 166,693,627

その他固定資産	構築物		(共用財産) うち公益目的保有財産 99 % うち管理目的保有財産 1 %	123,830,162
	什器備品	P C 一式他事務用機器及び 事務所付帯設備 177 点	公益目的保有財産	249,853,731
	図書資料	和漢書 462,632 冊 洋書 371,467 冊 複写資料 29,800 点 マイクロフィルム等 959 冊	公益目的保有財産	1,372,822,729
	ソフトウェア事業運営積立資産	図書館システム他計 17 点	公益目的保有財産	5,590,983
		投資有価証券 三菱 UFJ 証券クレジットリ ンク債他 6 銘柄	公益目的保有財産。運用益を公益 目的事業の財源に使用している。	2,342,500,000
		投資有価証券 三菱 UFJ セキュリティーズ インターナショナルクレ ジットリンク債	運用益を管理目的の財源として使 用している。	500,000,000
		普通預金 三菱東京 UFJ 銀行駒込支店	(共用財産) うち公益目的保有財産 18 % うち管理目的の財源として使用す る財産 82 %	163,122
	退職給付引当資産	普通・定期預金 三菱東京 UFJ 銀行駒込支店	役員退職給付引当金見合の引当 資産として管理している。	65,584,750
	建物設備修繕引当資産	普通・定期預金 三菱東京 UFJ 銀行駒込支店 大阪府公募公債他 3 銘柄	長期修繕計画により、建物・設備 の修繕に限定して使用する引当資 産であり特定費用準備資金として 管理している。	121,358,006
	P C B 引当資産	普通・定期預金 三菱東京 UFJ 銀行駒込支店	P C B (ポリ塩化ビフェニル) の 処分等にかかる支出額を引当資産 として管理している。	24,629,857
	長期前払費用	(株)東方書店	研究文献 Web アクセス権 (特定資産計)	382,786
	構築物		(共用財産) うち公益目的保有財産 99 % うち管理目的保有財産 1 %	7,216,739,958
	什器備品	P C 一式他事務用機器及び 事務所付帯設備計 117 点	(共用財産) うち公益目的保有財産 84 % うち管理目的保有財産 16 %	1,044,917
	ソフトウェア	会計ソフト他計 13 点	(共用財産) うち公益目的保有財産 8 % うち管理目的保有財産 92 %	821,662
	電話加入権	03-3942-0121 他 5 回線	(共用財産) うち公益目的保有財産 80 % うち管理目的保有財産 20 %	364,000
長期前払費用	エムエスティ保険サービス(株)	建物火災保険料	219,733	
		(その他固定資産計)	2,567,474	
		固定資産合計	7,222,890,973	
		資産合計	7,301,815,096	

(流動負債)	未払金	小岩井農場商品(株)他計4件	公益目的事業に於ける商品等である。	330,296
		東京海上日動ファシリティーズ(株)他計7件	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する事務所の設備管理等である。	1,035,045
		文京年金事務所	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の健康・厚生年金保険料4月納付金である。	937,233
		職員	公益目的事業の業務に従事する職員の3月勤務分時間外手当である。 (未払金計)	47,028
	預り金	職員	雇用保険料	20,598
		役職員他	源泉所得税	1,011,939
		役職員	地方税(住民税)	460,400
		科学研究費補助金	公益目的事業に於ける研究補助事業に要する経費 (預り金計)	2,832,787
	賞与引当金	役職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の賞与の引当金である。 (賞与引当金計)	8,126,416
			流動負債合計	13,308,805
(固定負債)	退職給付引当金	役職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の退職給付金の引当金である。 (退職給付引当金計)	65,584,750
	P C B引当金		PCB(ポリ塩化ビフェニル)の処分等にかかる支出額の引当金である。 (P C B引当金計)	24,605,000
			固定負債合計	90,189,750
			負債合計	103,498,555
			正味財産	7,198,316,541

附属明細書

1 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記の「(2) 基本財産及び特定資産の増減及びその残高」において開示しているため、附属明細での記載を省略します。

2 引当金の明細

賞与引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	7,874,219	8,126,416	7,874,219	0	8,126,416

退職給付引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	59,302,303	6,282,447	0	0	65,584,750

P C B引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
P C B引当金	24,605,000	0	0	0	24,605,000

VI 役 職 員 名 簿

2016年3月31日現在の公益財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	榎 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
専 務 理 事	山 川 尚 義	東洋文庫専務理事
常 務 理 事	斯 波 義 信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	田 仲 一 成	東洋文庫図書部長 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	濱 下 武 志	東洋文庫研究部長 龍谷大学仏教文化研究所客員研究員 東京大学名誉教授
〃	平 野 健 一 郎	東洋文庫普及展示部長 東京大学名誉教授 早稲田大学名誉教授
理 事	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	福 澤 武	三菱地所株式会社相談役
〃	三 木 繁 光	株式会社三菱東京 UFJ 銀行特別顧問
監 事	伊与部 恒 雄	三菱金曜会事務局長
〃	原 實	日本学士院会員 東京大学名誉教授

2. 評 議 員

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	荒 蒔 康一郎	キリンホールディングス株式会社相談役
〃	有 馬 朗 人	武蔵学園長 東京大学名誉教授
〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	大 崎 仁	人間文化研究機構長特別顧問
〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	草 原 克 豪	二十一世紀文化学術財団代表理事
〃	久 保 正 彰	日本学士院元院長 学士会理事長 東京大学名誉教授
〃	後 藤 明	東京大学名誉教授
〃	瀬 谷 博 道	旭硝子株式会社特別顧問
〃	東 條 和 彦	三菱商事株式会社顧問
〃	大 滝 則 忠	国立国会図書館館長
〃	増 田 信 行	三菱重工工業株式会社特別顧問
〃	間 野 英 二	日本学士院会員 京都大学名誉教授

3. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	楨 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
委 員	尾 崎 康	慶應義塾大学元教授
〃	興 膳 宏	京都大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授

役 職 名	氏 名	現 職
委 員	間 野 英 二	京都大学名誉教授
〃	御 牧 克 己	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	森 本 公 誠	東大寺長老
〃	吉 田 順 一	早稲田大学名誉教授

4. 名誉研究員

氏 名	所 属 機 関
BLUSSE, Leonard	Universite Leiden
De BARY, W. T.	Columbia University
ELVIN, Mark	The Australian National University (Prof. Emeritus)
HUMPHREYS, R.Stephen	University of California
GERNET, Jacques	Collège de France
KADIVAR, Mohsen	Tarbiat Modarres University
韓 永 愚	Seoul 大学校 (Prof. Emeritus)
黄 寬 重	国立中興大学 中央研究院歴史語言研究所
LANCIOTTI, Lionelio	University of Naples (Prof. Emeritus)
李 伯 重	清華大学人文社会科学学院經濟学研究所
McDERMOTT, Joseph P.	St. Johns College, Cambridge University
RAFEQ, Abdul-Karim	The College of William and Mary Department of History
SAHIN, Ilhan	Kırgızistan-Türkiye Manas Üniversitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore

5. 職員・研究員

部名	職名	氏名	現職
総務部 〃 普及展示部 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	理事長	横原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
	文庫長	斯波 義信	研究員を兼務
	専務理事	山川 尚義	総務部長を兼務
	課長	柴代 淳子	
	参事	堀井 亮	
	部長	平野 健一郎	研究員を兼務
	代理	牧野 元紀	研究員を兼務
	課長	池山 洋二	
	研究員	岡崎 礼奈	
	〃	篠木 由喜	
図書部 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	参事	牧 祐紀子	
	部長	田 仲 一 成	研究員を兼務
	課長	瀧 下 彩 子	研究員を兼務
	研究員	櫻井 徹子	
	〃	篠崎 陽子	
	〃	原山 隆広	
	参事	橘 伸子	
	部長	濱 下 武志	研究員を兼務
	主幹研究員	會 谷 佳光	
	研究員	山 村 義照	
研究部 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	〃	相 原 佳之	現代中国研究資料室派遣研究員
	〃	德 原 靖浩	イスラーム地域研究資料室派遣研究員
	〃	太 田 啓子	
	〃	徐 小 潔	
	〃	池 田 温	東京大学名誉教授 創価大学名誉教授
	〃	池 田 雄一	中央大学名誉教授
	〃	石 塚 晴通	北海道大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研 究 員	梅 田 博 之	麗澤大学名誉教授 東京外国語大学名誉教授
〃	〃	梅 原 郁	京都大学名誉教授
〃	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	大 里 浩 秋	神奈川大学名誉教授
〃	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学名誉教授
〃	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	奥 村 哲 哲	首都大学東京名誉教授
〃	〃	尾 崎 文 昭	東京大学名誉教授
〃	〃	小 田 壽 典	豊橋創造大学名誉教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学名誉教授
〃	〃	片 桐 一 男	青山学院大学名誉教授
〃	〃	糟 谷 憲 一	一橋大学名誉教授
〃	〃	北 村 文 夫	
〃	〃	窪 添 慶 文	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	久保田 淳	東京大学名誉教授
〃	〃	熊 本 裕	東京大学元教授
〃	〃	後 藤 明	東京大学名誉教授
〃	〃	設 樂 國 廣	立教大学名誉教授
〃	〃	蒨 勇 造	東京大学名誉教授
〃	〃	佐 藤 慎 一	東京大学名誉教授
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学名誉教授
〃	〃	志 茂 碩 敏	
〃	〃	末 成 道 男	東京大学元教授
〃	〃	鈴 木 董	東京大学東洋文化研究所元教授
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学大学院元教授
〃	〃	関 本 照 夫	東京大学名誉教授
〃	〃	曾 田 三 郎	広島大学名誉教授
〃	〃	武 田 幸 男	岐阜聖徳学園大学元教授
〃	〃	多 田 狷 介	日本女子大学名誉教授
〃	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館名誉教授
〃	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授
〃	〃	千 葉 暎	学校法人桐朋学園元理事長

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研 究 員	P. ツ イ ー メ	
〃	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	〃	戸 倉 英 美	東京大学元教授
〃	〃	朽 尾 武	成城大学名誉教授
〃	〃	土 肥 祐 子	楡林学院大学客座教授
〃	〃	土 肥 義 和	國學院大学名誉教授
〃	〃	鳥 海 靖	東京大学名誉教授
〃	〃	中 兼 和 津 次	東京大学名誉教授
〃	〃	永 田 雄 三	明治大学元教授
〃	〃	新 村 容 子	岡山大学名誉教授
〃	〃	延 廣 眞 治	東京大学名誉教授
〃	〃	濱 島 敦 俊	(台湾) 国立暨南国際大学教授
〃	〃	原 實	東京大学名誉教授
〃	〃	藤 井 昇 三	電気通信大学名誉教授
〃	〃	藤 田 忠	国土舘大学名誉教授
〃	〃	細 谷 良 夫	東北学院大学名誉教授 東北学院大学アジア流域文化 研究所客員研究員
〃	〃	本 庄 比 佐 子	
〃	〃	松 濤 誠 達	大正大学名誉教授
〃	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
〃	〃	御 牧 克 己	京都大学名誉教授
〃	〃	毛 里 和 子	早稲田大学名誉教授
〃	〃	粕 山 明	埼玉大学元教授
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学名誉教授
〃	〃	柳 田 征 司	奈良大学元教授
〃	〃	矢 吹 晋	横浜市立大学名誉教授
〃	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山 本 毅 雄	情報・システム研究機構 国立情報学研究所名誉教授
〃	〃	渡 辺 紘 良	獨協医科大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(兼任)	青 木 敦	青山学院大学教授
〃	〃	石 橋 崇 雄	国立館大学教授
〃	〃	今 西 祐一郎	国文学研究資料館館長 人間文化研究機構理事
〃	〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	〃	遠 藤 光 暁	青山学院大学教授
〃	〃	太 田 信 宏	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所准教授
〃	〃	粕 谷 元	日本大学教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学教授
〃	〃	金 子 修 一	國學院大学教授
〃	〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	〃	高 野 太 輔	大東文化大学准教授
〃	〃	小 浜 正 子	日本大学教授
〃	〃	小 嶋 松 久 男	東京外国語大学大学院特任教授
〃	〃	嶋 尾 稔	慶應義塾大学教授
〃	〃	清 水 信 行	青山学院大学教授
〃	〃	新 免 康	中央大学教授
〃	〃	杉 山 清 彦	東京大学大学院准教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	中央大学教授
〃	〃	高 田 幸 男	明治大学教授
〃	〃	武 内 房 司	学習院大学教授
〃	〃	長 沢 栄 治	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	弘 末 雅 士	立教大学教授
〃	〃	深 沢 眞 二	和光大学教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	水 野 善 文	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	村 田 雄二郎	東京大学大学院教授
〃	〃	柳 澤 明	早稲田大学教授
〃	〃	山 本 英 史	慶應義塾大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(兼任)	吉 田 光 男	放送大学教授・図書館長
〃	〃	吉 水 千鶴子	筑波大学教授
〃	〃	六反田 豊	東京大学大学院准教授

6. 客員研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	青 山 亨	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	青 山 瑠 妙	早稲田大学教授
〃	〃	秋 葉 淳	千葉大学准教授
〃	〃	浅 田 進 史	駒澤大学准教授
〃	〃	浅 野 秀 剛	大和文華館館長
〃	〃		あべのハルカス美術館館長
〃	〃	天 児 慧	早稲田大学教授
〃	〃	新 井 政 美	東京外国語大学教授
〃	〃	荒 川 正 晴	大阪大学大学院教授
〃	〃	飯 尾 秀 幸	専修大学教授
〃	〃	飯 島 明 子	天理大学教授
〃	〃	飯 島 武 次	駒澤大学名誉教授
〃	〃		國學院大学大学院客員教授
〃	〃	飯 島 涉	青山学院大学教授
〃	〃	池 田 美佐子	名古屋商科大学教授
〃	〃	石 川 寛	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	石 川 重 雄	駒澤大学非常勤講師
〃	〃	磯 貝 健 一	追手門学院大学准教授
〃	〃	井 上 和 枝	鹿児島国際大学教授
〃	〃	井 上 和 人	明治大学大学院特任教授
〃	〃	上 田 望	金沢大学教授
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	内 田 知 行	大東文化大学教授
〃	〃	内 山 雅 生	宇都宮大学名誉教授, 特任教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	宇 山 智 彦	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授
〃	〃	江 川 ひかり	明治大学教授
〃	〃	大河原 知 樹	東北大学大学院准教授
〃	〃	大 澤 肇	中部大学講師
〃	〃	大 澤 正 昭	上智大学特別契約教授
〃	〃	大 谷 俊 太	京都女子大学教授
〃	〃	尾 形 洋 一	早稲田大学講師
〃	〃	岡 野 誠	明治大学教授
〃	〃	岡 本 隆 司	京都府立大学准教授
〃	〃	丘 山 新	浄土真宗本願寺派総合研究所副所長
〃	〃	小 川 裕 充	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	小 川 快 之	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	梶 谷 懐	神戸大学大学院教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学教授
〃	〃	片 山 剛	大阪大学大学院教授
〃	〃	加 藤 弘 之	神戸大学教授
〃	〃	金 沢 陽	出光美術館学芸員
〃	〃	金 丸 裕 一	立命館大学教授
〃	〃	川 井 伸 一	愛知大学教授
〃	〃	川 合 安 定	東北大学大学院教授
〃	〃	川 崎 信 定	筑波大学名誉教授
〃	〃		東洋大学東洋文化研究所客員研究員
〃	〃	川 島 真	東京大学教授
〃	〃	貴 志 俊 彦	京都大学地域研究統合情報センター教授
〃	〃	北 川 香 子	学習院大学非常勤講師
〃	〃		青山学院大学非常勤講師
〃	〃	北 本 朝 展	情報・システム研究機構
〃	〃		国立情報学研究所准教授
〃	〃	橋 堂 晃 一	龍谷大学仏教文化研究所客員研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	金 鳳 珍	北九州市立大学教授
〃	〃	楠 木 賢 道	吉林師範大学歴史文化学院 満族文化研究所教授
〃	〃	久 保 亨	信州大学教授
〃	〃	黒 田 卓	東北大学大学院教授
〃	〃	氣賀澤 保 規	明治大学客員研究員 東アジア石刻文物研究所長
〃	〃	巖 善 平	同志社大学大学院教授
〃	〃	黄 東 蘭	愛知県立大学教授
〃	〃	興 柶 一 郎	神田外語大学教授
〃	〃	小 嶋 芳 孝	金沢学院大学教授
〃	〃	小 杉 泰	京都大学教授
〃	〃	小 南 一 郎	京都大学名誉教授 泉屋博古館館長
〃	〃	近 藤 信 彰	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所准教授
〃	〃	齋 藤 真麻理	人間文化研究機構国文学研究 資料館教授
〃	〃	早乙女 雅 博	東京大学教授
〃	〃	佐 藤 健太郎	北海道大学大学院准教授
〃	〃	佐 藤 宏	一橋大学教授
〃	〃	佐 藤 仁 史	一橋大学大学院教授
〃	〃	澤 江 史 子	上智大学教授
〃	〃	塩 沢 裕 仁	法政大学准教授
〃	〃	島 田 竜 登	東京大学大学院准教授
〃	〃	城 山 智 子	一橋大学大学院教授
〃	〃	真 道 洋 子	早稲田大学イスラーム地域研 究機構招聘研究員
〃	〃	須 川 英 徳	横浜国立大学教授
〃	〃	鈴 木 恵 美	早稲田大学地域・地域間研究 機構主任研究員
〃	〃	鈴 木 均	アジア経済研究所地域研究セ ンター上席主任調査研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	鈴 木 博 之	山形短期大学講師 東北学院大学講師
〃	〃	砂 山 幸 雄	愛知大学教授
〃	〃	關 尾 史 郎	新潟大学教授
〃	〃	高 遠 拓 児	中京大学准教授
〃	〃	高 橋 英 海	東京大学教授
〃	〃	武 内 紹 人	神戸市外国語大学教授
〃	〃	田 島 俊 雄	東京大学教授
〃	〃	田 中 明 彦	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	田 中 仁	大阪大学大学院教授
〃	〃	田 中 比呂志	東京学芸大学教授
〃	〃	C. A. ダニエルス	東京外国語大学名誉教授 香港科学技術大学教授
〃	〃	塚 原 東 吾	神戸大学大学院教授
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学教授
〃	〃	土 田 哲 夫	中央大学教授
〃	〃	坪 井 祐 司	立教大学非常勤講師
〃	〃	寺 田 浩 明	京都大学大学院教授
〃	〃	唐 成	中央大学教授
〃	〃	唐 亮	早稲田大学教授
〃	〃	東 條 哲 郎	愛媛大学特定研究員
〃	〃	徳 永 洋 介	富山大学教授
〃	〃	富 澤 芳 亜	島根大学教授
〃	〃	中 谷 英 明	関西外国語大学教授 東京外国語大学名誉教授
〃	〃	長 縄 宣 博	北海道大学スラブ・ユーラシ ア研究センター准教授
〃	〃	中 村 元 哉	津田塾大学准教授
〃	〃	西 英 昭	九州大学准教授
〃	〃	西 尾 寛 治	防衛大学校教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学大学院准教授
〃	〃	馬 場 英 子	新潟大学教授
〃	〃	濱 田 正 美	龍谷大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	林 俊 雄	創価大学教授
〃	〃	平 勢 隆 郎	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	平 野 聡	東京大学准教授
〃	〃	廣 瀬 紳 一	国際大学准教授
〃	〃	藤 本 幸 夫	富山大学名誉教授
			京都大学客員教授
			麗澤大学客員教授
〃	〃	古 田 和 子	慶応義塾大学教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
〃	〃	弁 納 才 一	金沢大学教授
〃	〃	寶 劍 久 俊	アジア経済研究所研究員
〃	〃	星 泉	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所准教授
〃	〃	堀 川 徹	京都外国語大学教授
〃	〃	松 井 太	大阪大学大学院准教授
〃	〃	松 重 充 浩	日本大学教授
〃	〃	松 永 泰 行	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	松 本 弘	大東文化大学教授
〃	〃	丸 川 知 雄	東京大学教授
〃	〃	三 田 昌 彦	名古屋大学大学院助教
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学教授
〃	〃	村 井 章 介	立正大学教授
〃	〃	村 上 衛	京都大学人文科学研究所准教授
〃	〃	本 野 英 一	早稲田大学教授
〃	〃	守 川 知 子	北海道大学大学院准教授
〃	〃	森 平 雅 彦	九州大学大学院教授
〃	〃	矢 島 洋 一	奈良女子大学准教授
〃	〃	柳 谷 あゆみ	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
〃	〃	山 内 民 博	新潟大学准教授
〃	〃	山 本 真	筑波大学准教授
〃	〃	湯 浅 剛	広島市立大学広島平和研究所 教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	吉 澤 誠一郎	東京大学大学院准教授
〃	〃	吉 田 伸 之	東京大学名誉教授
〃	〃	吉 田 豊	京都大学大学院教授
〃	〃	吉 村 慎太郎	広島大学大学院教授
〃	〃	和 田 恭 幸	龍谷大学准教授

公益財団法人 **東洋文庫年報** 2015 年度

2017 年 3 月 15 日 発行

発行者 東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 21 号

公益財団法人 **東洋文庫**

榎原 稔

印刷所 富士リプロ株式会社

発行所 東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 21 号

公益財団法人 **東洋文庫**

本書は公益財団法人東洋文庫に対する 2016 年度文部科学省補助金の一部によって刊行されたものである。

